

子供・女性に対する犯罪等を防止する ための対策に関する調査研究

調査報告書

令和元年 9 月

警察庁子供・女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究会

目 次

I. 調査研究の概要	1
1 調査研究の背景と目的(「II. 1」を参照)	1
2 調査の内容(「II. 1」を参照)	1
3 調査研究の対象(「III. 」を参照)	2
4 調査研究結果	2
4-1. 犯罪発生の実態について(「IV. 1」を参照)	2
4-2. 予防行動等に関する内容について(「IV. 2」を参照)	3
5 子供・女性を対象とした犯罪防止に向けた対策の方向性	3
5-1. 犯罪等を防ぐ防犯まちづくりに関する取組の方向性(「V. 1」を参照)	3
5-2. 予防行動等の促進に向けた取組の方向性(「V. 2」を参照)	4
6 今後の取組に向けて(「VI. 」を参照)	4
II. 調査研究の目的と実施体制	6
1 調査研究の背景と目的	6
1-1. 子供・女性に対する犯罪の状況	6
1-2. これまでの関連調査について	6
1-3. 本調査研究の位置づけと目的	7
2 調査研究の実施体制	8
3 調査研究の全体像	10
III. 調査研究の対象	12
1 対象とする犯罪等の類型	12
1-1. 基本的な考え方	12
1-2. 対象とする罪種とその分類方法	12
2 調査対象地区(モデル地区)	14
2-1. 調査対象地区の選定の考え方	14
2-2. 各モデル地区の概要	15
IV. 調査研究結果	21
1 犯罪等の発生の実態について	21
1-1. GIS を活用した分析から見た犯罪等の発生状況	21
1-2. 実態調査から見た犯罪発生状況	31
1-3. 実地調査から見た各モデル地区における典型性の高い犯罪等が発生した場所の特徴等	36
2 予防行動等に関する内容について	40
2-1. アンケート調査結果から見た行動内容	40

2-2. ワークショップから得られた結果	55
V. 子供・女性を対象とした犯罪防止に向けた対策の方向性	57
1 犯罪等を防ぐ防犯まちづくりに関する取組の方向性	57
2 予防行動等の促進に向けた取組の方向性	67
3 地域ぐるみでの防犯対策や子供・女性の防犯意識の向上に向けた取組の方向性	70
VI. 今後の取組に向けて	71
1 今回の調査研究で実施した各種の調査から分かったことと、今後の同様の調査に向けて 得られた示唆	71
1-1. 過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した地理的特性分析	71
1-2. モデル地区内の典型性の高い事案の発生地点の現地調査	72
1-3. モデル地区内で発生した犯罪等の実態調査	73
1-4. モデル地区内の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査	73
1-5. モデル地区内の小学校・大学におけるワークショップ	74
2 本調査結果を踏まえた今後の継続的な検証の必要性	74
3 複数の調査を一体として実施した結果から得られる情報のイメージ	75
3-1. 大都市圏(A 市)	75
3-2. 地方部(B 市)	76
VII. 参考資料	78
1 対象となる犯罪等の検討に係るデータ	78
2 各調査研究の実施内容	79
2-1. 過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した分析	79
2-2. モデル地区内で発生した犯罪等の実態調査	81
2-3. モデル地区内で発生した犯罪等の発生場所の現地調査	82
2-4. モデル地区内の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査	83
2-5. モデル地区内の小学校・大学におけるワークショップ	85
3 アンケート調査票	87
3-1. 小学生向け	87
3-2. 女子大生向け	103

I. 調査研究の概要

本章では、本報告書全体を要約する。

1 調査研究の背景と目的（「II. 1」を参照）

我が国の刑法犯認知件数は、平成 14 年に約 285 万件に達して以降一貫して減少し、平成 30 年には 81 万 7,338 件で戦後最少となった。しかし、子供や女性を被害者とする性犯罪等の認知件数の減少は鈍く、近年でも沖縄県うるま市の女性殺人事件（平成 28 年 4 月）、千葉県松戸市の女児殺人事件（平成 29 年 3 月）、新潟県新潟市女児殺人事件（平成 30 年 5 月）等社会に大きな不安を与える事件が発生しており、子供や女性を犯罪から守るための安全安心まちづくりを更に推進していくことが求められる。

本調査研究では、地点という意味での「場所」の物理的な環境だけでなく、人の動線、防犯活動状況等の社会的環境も含めた幅広い意味での「場所」の特性に着目し、公共空間において敢行される子供・女性を対象とした犯罪等の発生状況の分析や、子供・女性の防犯意識等を調査した上で、子供・女性に対する犯罪等を防止するための対策について検討し、もって防犯まちづくりを始めとした更なる犯罪抑止を推進することを目的とする。

2 調査の内容（「II. 1」を参照）

本調査研究では、これまでの関連調査を踏まえ、公共空間で発生した子供・女性への犯罪及び前兆事案を対象とした上で、大都市圏に加えて地方部についても調査を行うこととした。

調査手法については、関連調査と同様の調査手法に加えて、新たに過去の犯罪データの GIS を活用した分析や、子供・女性の日常的な行動や防犯行動の実態を把握するためのアンケート調査を実施した。

図表 1 これまでの関連調査と本調査の位置づけ

	京都府警の調査研究	警視庁の調査研究	今回の調査研究
調査対象エリア	京都府内（大都市圏）	東京都内（大都市圏）	大都市圏＋地方部
調査対象となる罪種	性犯罪	子供・女性を対象とした犯罪と前兆事案	子供・女性を対象とした犯罪と前兆事案
調査の手法	犯罪統計の分析 －被疑者・行為者の属性 －被害者の属性 －被害者の行動実態 －発生場所・時間 女子大生のアンケート調査	犯罪統計の分析 －被疑者・行為者の属性 －発生場所・時間 －面識・非面識 事案の実態調査 －被疑者・行為者の属性 －発生場所 －被害者の移動状況 典型性が高い事案の実地調査	犯罪統計の分析 GIS を活用した分析（P79） －空間的・時間的な特徴の把握 事案の実態調査（P81） 事案の実地調査（P82） 小学生・女子大生のアンケート調査（P83） －日常行動・防犯行動の実態 －不安箇所等の把握 －危険体験時の行動内容の把握 小学生・女子大生のワークショップ（P85）
調査の結果	路上における被害リスクを高める行為の内容 犯罪の類型化とその特徴ごとの対策	大都市圏における犯罪等の発生場所や被害時の行動に係る課題の把握と対策の方向性	大都市圏・地方部における犯罪等の発生場所や被害時の行動に係る課題の把握と対策の方向性

注）括弧内のページ番号は当該調査の調査内容等を記載している場所を示す。

3 調査研究の対象（「Ⅲ. 」を参照）

本調査研究では、子供・女性を対象とする主な罪種のうち、生命、身体に直接的な被害が及ぶ可能性が高く、かつ非面識割合が比較的高い犯罪や前兆事案のうち、被害割合が高く、かつ性犯罪に発展するおそれのある事案等を対象とし、以下の罪種と分類で分析を行った。

図表 2 罪種の分類方法

犯罪	子供（小学生以下の男女）	（すべて） （本調査研究の対象とした「子供に対する犯罪※」のすべて）		
	女性（中学生以上の女性）	ひったくり以外 （強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗）	ひったくり	
前兆事案	子供（12歳以下の男女）	声かけ・つきまとい・卑わいな言動	露出	盗撮・のぞき見
	女性（13歳以上の女性）	声かけ・つきまとい・卑わいな言動	露出	盗撮・のぞき見

※ 強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗、暴行、傷害、脅迫、恐喝をいう。

また、本調査研究では、横浜市鶴見区、相模原市南区、名古屋市瑞穂区、愛知県みよし市、広島県福山市福山東警察署管内、福岡県田川市の6つをモデル地区とし、前者3地区を「大都市圏」、後者3地区を「地方部」と分類して分析を行った。

4 調査研究結果

4-1. 犯罪発生の実態について（「Ⅳ. 1」を参照）

GISを活用した分析等を踏まえて、本調査では大都市圏・地方部において対象とする犯罪等の発生が多く、リスクが高いエリアについて整理した。

図表 3 犯罪の発生が多く、リスクが高いエリア

罪種	子供		女性			
	（すべて）		ひったくり以外の犯罪		ひったくり	
大都市圏・地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部
駅周辺	○	○	○	○	○	○
学校周辺	○		○		○	○
公園周辺	○	○	○	○		
（駅周辺の）住宅街						○
（幹線道路周辺の）住宅街						
低層・戸建て住宅密集地					○	
団地・集合住宅密集地						
幹線道路周辺						
大規模商業施設周辺		○		○		

図表 4 前兆事案の発生が多く、リスクが高いエリア

罪種	声かけ・つきまとい・ 卑わいな言動		露出		盗撮・のぞき見	
	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部
駅周辺	◎	◎	●		◎	●
学校周辺	●		●	◎	●	○
公園周辺	●	○	●		○	○
(駅周辺の) 住宅街		○				
(幹線道路周辺の) 住宅街		◎				
低層・戸建て住宅密集地			◎			
団地・集合住宅密集地	○			◎	●	
幹線道路周辺	◎					
大規模商業施設周辺		○		◎	○	●

注) ○：子供に該当 ◎：女性に該当 ●：子供・女性のいずれにも該当

また、特に駅からの距離に着目した上で発生場所と発生時間の関係について整理し、罪種によって時間帯と犯罪発生場所が異なっていること等を把握した。

さらに、モデル地区での実地調査の結果として、道路の片側の監視性が低下している場所、人通りや車の交通量が比較的多い道路から一本入った人通りの少ない住宅街の道路上、周囲からの監視性の低い駐車場・駐輪場、集合住宅及び公園が典型性の高い犯罪等が発生する場所であると整理した。

4-2. 予防行動等に関する内容について（「Ⅳ. 2」を参照）

アンケート調査の結果、子供については、塾や習い事の行き帰りの際に地方部より大都市圏の方が子供だけで行動するとの回答が多かった。また、防犯ブザーを持ち歩いたり携帯電話を持ち歩くといった回答は少ないこと、危険な体験にあったときには走って逃げたという回答が最も多いが、何もしなかった・何もできなかったという回答も一定数あった。

女子大生については、地方部より大都市圏の方が通学時に電車を利用するとの回答が多かった。また、防犯行動については、後ろを気にしながら歩くとの回答が多いが、防犯ブザーを持ち歩くとの回答は少なく、危険な体験にあった場合には何もしなかった・できなかったとの回答が多かった。

実態調査の結果からは、被害者が13歳未満の場合、友人等の同行者がいる場合であっても被害に遭うケースが多く見られた。

5 子供・女性を対象とした犯罪防止に向けた対策の方向性

5-1. 犯罪等を防ぐ防犯まちづくりに関する取組の方向性（「Ⅴ. 1」を参照）

GISを活用した分析・実地調査・アンケート調査の結果から、大都市圏・地方部では、被疑者・行為者及び被害者の行動や事案の発生場所・時間帯に関する特徴について、共通するものがある一方で異なるものもあることが明らかとなった。例えば、子供を対象とした犯罪

や女性を対象としたひったくり以外の犯罪、前兆事案では、大都市圏と地方部で駅周辺や公園周辺など共通して発生している場所がある一方で、地方部においては大規模商業施設周辺での発生が多いといった発生場所の違いが見られた。

まず、それぞれの地域の特徴を把握した上で、監視性の確保や接近の制御といった防犯まちづくりの具体的な取組の中から対象とする地域に合った効果的なものを重点的に進めることが重要となる。

また、GISを活用した分析・アンケート調査の結果から、犯罪が発生した場所・危険な体験をした場所と不安を感じる箇所にはずれがあることが明らかとなった。防犯まちづくりの取組を推進する上では、不安を感じる箇所ではないが犯罪の発生や危険体験があった場所に重点を置くことが重要となる。

5-2. 予防行動等の促進に向けた取組の方向性（「V. 2」を参照）

アンケート調査・実態調査・実地調査・ワークショップの結果を踏まえ、防犯行動を「危機事象（以下「何らかの犯罪に巻き込まれること」又は「巻き込まれそうになること」をいう。）を回避するための行動」と「危機事象に遭遇した場合の行動」に大別して検討することとした。

危機事象を回避するための行動については、一人歩きの際の周囲への警戒の重要性やポイントについて発信することや、追跡されているかもしれないと思った場合の具体的な対処方法について、警察への通報も含めた対処方法の周知が重要である。

また、危機事象に遭遇した場合の行動については、何もしない・何もできない被害者が多くいる一方で、被害者が大声や悲鳴を上げる等の行動を取った結果として犯罪企図者が逃走した事案も見られた。また、犯罪企図者が犯行に及ぶ前に道を尋ねる等の声かけ行為を行う事案も多く見られ、ワークショップでは声かけ行為を不安に思う意見も出た。このような実態を踏まえた上で、被害者が抵抗することによるリスクにも配慮しつつ、防犯教室や防犯に係る広報啓発を行う際には慎重かつ丁寧な発信を行うことが重要となる。

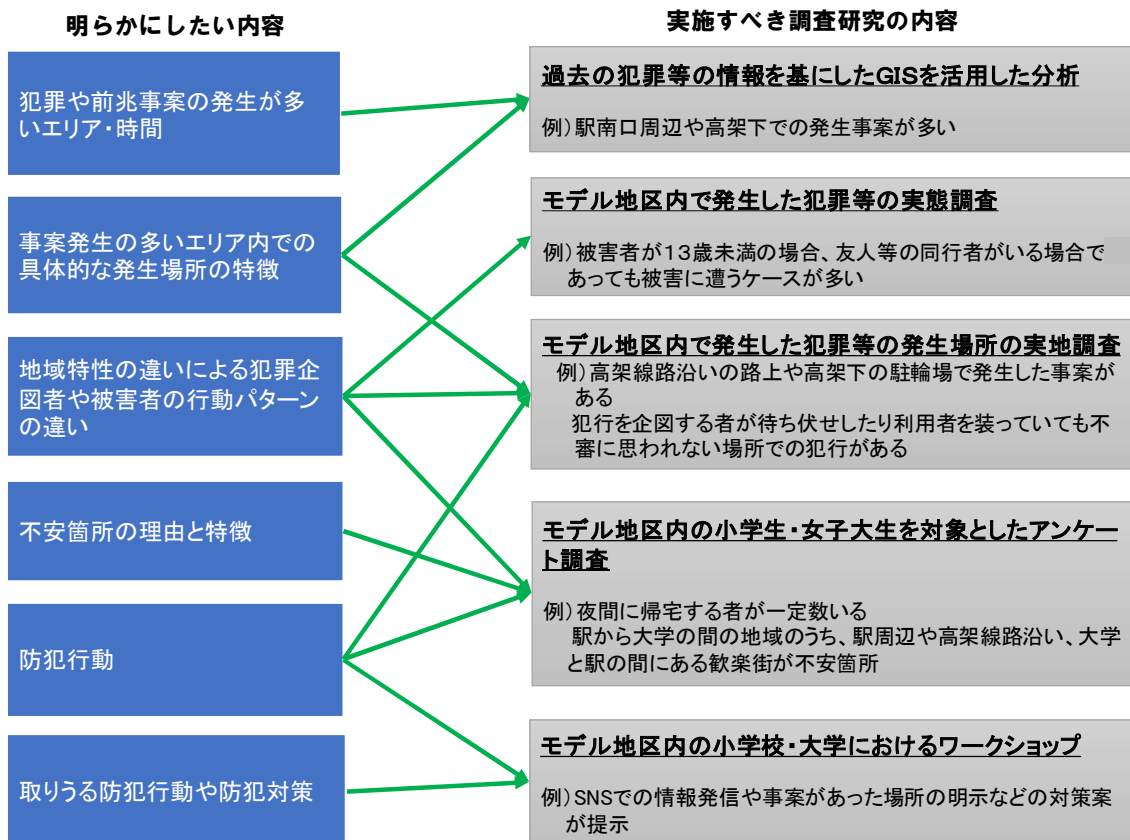
さらに、アンケート調査から犯罪被害に遭ったり危険体験をしても警察に通報しない被害者が多いという結果が得られており、被疑者検挙につなげるための警察への情報提供の在り方について丁寧な発信が必要である。

6 今後の取組に向けて（「VI. 」を参照）

今回の調査研究結果を踏まえ、今後他の地域で行われる同様の調査に向けて、今回の調査研究で実施した各種の調査から分かったこと、今回の調査研究の手法を活用した類似の調査に向けた示唆等を取りまとめた。

また、複数の調査を実施した結果から得られる情報のイメージについて整理し、今後どのような調査研究を実施することでどのような内容が明らかになるかについても取りまとめた。

図表 5 今後の防犯対策のために明らかにしたい内容と実施すべき調査研究との関係



II. 調査研究の目的と実施体制

1 調査研究の背景と目的

1-1. 子供・女性に対する犯罪の状況

我が国の刑法犯認知件数は、昭和 48 年以降増加傾向となり、特に街頭犯罪や侵入犯罪の急増によって、平成 8 年から 7 年連続で戦後最多を更新し続け、平成 14 年には 285 万件を超えた。

こうした状況に対し、警察では、平成 12 年 2 月に「安全・安心まちづくり推進要綱」を策定し、安全安心まちづくりについての基本的な考え方を示すとともに「道路、公園、駐車・駐輪場及び公衆便所に係る防犯基準」及び「共同住宅に係る防犯上の留意事項」を定め、これに基づく防犯環境整備のための各種取組を推進してきた。加えて、通学路や通学時間帯に重点を置いた警察官によるパトロールの強化、スクールサポーターを活用した学校と連携した子供の安全確保、防犯ボランティア団体と連携した見守り活動、都道府県警察のウェブサイトや電子メール等を活用した情報発信等、安全安心まちづくりに関する様々な取組を推進してきた。

この結果、刑法犯認知件数は平成 14 年をピークに一貫して減少し、平成 30 年は 81 万 7,338 件となり、ピーク時の 3 分の 1 以下まで減少して戦後最少となった。特に街頭犯罪や侵入犯罪の減少率は刑法犯認知件数全体と比べて高く、街頭犯罪の認知件数はピークの平成 13 年から 81.5%、侵入犯罪の認知件数はピークの平成 15 年から 79.7%減少した。

その一方で、子供や女性を被害者とする性犯罪等の認知件数は、刑法犯認知件数全体と比べて減少傾向は鈍い。近年でも、沖縄県うるま市の女性殺人事件（平成 28 年 4 月）、千葉県松戸市の女児殺人事件（平成 29 年 3 月）、新潟県新潟市の女児殺人事件（平成 30 年 5 月）等、社会に大きな不安を与える事件が発生しており、子供や女性を犯罪から守るための安全安心なまちづくりを更に推進していくことが求められる。

1-2. これまでの関連調査について

これまで、子供や女性の安全確保に関する調査としては、「京都府警察犯罪抑止対策調査研究会」（平成 27 年 8 月）や「警視庁子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」（平成 29 年 9 月）が行われている。

「京都府警察犯罪抑止対策調査研究会」による調査では、京都府内の性犯罪の現状や女子大生の性犯罪に対する意識調査を行った上で、実際に発生した事案の詳細データから被疑者の属性や被害者の属性、行動実態等を把握し、非面識の強姦や強制わいせつ事件で成人女性が被害者となる場合には夜間に発生している一方で、中学生以下では夕方を中心に発生していること、路上における被害では飲酒やスマートフォン、イヤホンを使用しながらの歩行が被害リスクを高めている可能性等が明らかにされた。また、最終的に性犯罪を類型化して分類した上で、それぞれの分類ごとに具体的な関係部門と対策が整理された。

「警視庁子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」による調査では、子供・女性を対象とした犯罪や前兆事案について、公共空間で発生した犯罪のうち非面識であるものに焦点を絞って調査分析が行われた。調査手法としては、過去 5 年間ににおける犯罪等の統計分

析、東京都内の 102 警察署から犯罪発生件数、地理的状況等を勘案して選定した 5 警察署における事案の発生場所での被疑者・行為者の行動を分析する実態調査及び典型性が高い事案について現場を訪れて状況を実査する実地調査が行われた。その結果、子供・女性に対する犯罪等の発生状況に関する問題点として、子供の下校後の外出、女性の深夜時間帯の単独移動、集合住宅の共用部分の 3 点が明らかにされた。

1-3. 本調査研究の位置づけと目的

本調査研究では、以上のような関連調査を踏まえ、公共空間で発生した子供・女性への犯罪及び前兆事案を対象とした上で、大都市圏に加えて人口密度の低い地方部を調査対象に加えることで、調査対象地区の多様性にも配慮し、調査研究結果を日本全体に還元することができるようにする観点から、地方部についても調査を行うこととした。

調査手法については、関連調査と同様の調査手法を用いることで、関連調査で明らかになった内容について改めて検証を行うとともに、過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した分析を行い、犯罪が発生した場所や時間の特徴についても検討した。また、アンケート調査によって、子供・女性のうち小学生と女子大生の危険不安箇所の認識、日常的な行動や防犯行動の実態を把握し、その課題等を明らかにするとともに、小学生・女子大生を対象としたワークショップを開催し、アンケート調査結果を基に防犯に関する認識や取り得る防犯対策等について意見交換を行った。

図表 6 これまでの関連調査と本調査の位置づけ（図表1再掲）

	京都府警の調査研究	警視庁の調査研究	今回の調査研究
調査対象エリア	京都府内（大都市圏）	東京都内（大都市圏）	大都市圏＋地方部
調査対象となる罪種	性犯罪	子供・女性を対象とした犯罪と前兆事案	子供・女性を対象とした犯罪と前兆事案
調査の手法	犯罪統計の分析 －被疑者・行為者の属性 －被害者の属性 －被害者の行動実態 －発生場所・時間 女子大生のアンケート調査	犯罪統計の分析 －被疑者・行為者の属性 －発生場所・時間 －面識・非面識 事案の実態調査 －被疑者・行為者の属性 －発生場所 －被害者の移動状況 典型性が高い事案の実地調査	犯罪統計の分析 GIS を活用した分析（P79） －空間的・時間的な特徴の把握 事案の実態調査（P81） 事案の実地調査（P82） 小学生・女子大生のアンケート調査（P83） －日常行動・防犯行動の実態 －不安箇所等の把握 －危険体験時の行動内容の把握 小学生・女子大生のワークショップ（P85）
調査の結果	路上における被害リスクを高める行為の内容 犯罪の類型化とその特徴ごとの対策	大都市圏における犯罪等の発生場所や被害時の行動に係る課題の把握と対策の方向性	大都市圏・地方部における犯罪等の発生場所や被害時の行動に係る課題の把握と対策の方向性

注）括弧内のページ番号は当該調査の調査内容等を記載している場所を示す。

2 調査研究の実施体制

本調査研究では、有識者等からなる「子供・女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究会」（以下「研究会」と表記）を設置した。研究会の構成及び実施概要は以下のとおりである。

図表 7 研究会の構成

【有識者委員】	
雨宮 護	筑波大学システム情報系社会工学域准教授
荒井 崇史	東北大学大学院文学研究科准教授
清永 奈穂	株式会社ステップ総合研究所所長
齊藤 知範	科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室主任研究官
島田 貴仁	科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室室長
◎中谷 友樹	東北大学大学院環境科学研究科教授
樋野 公宏	東京大学大学院工学系研究科准教授
(◎印は座長を示す)	
【警察庁委員】	
警察庁生活安全局生活安全企画課都市防犯対策官	
【オブザーバー】	
国土交通省住宅局住宅生産課課長補佐	
国土交通省都市局都市安全課課長補佐	
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育調査官	
(敬称略、五十音順)	

図表 8 研究会の実施概要

	日時	議題
第1回	平成30年6月4日 15:00～18:00	・調査研究会委員紹介 ・座長選出 ・調査研究会の位置づけや進め方 ・平成28年の犯罪情勢 ・各種調査の進め方等について
第2回	平成31年1月21日 14:00～17:00	・アンケート調査結果 ・地理的分析WT検討結果 ・現地調査結果 ・実態調査結果 ・ワークショップについて ・今後の取りまとめの方向性について
第3回	平成31年2月19日 14:00～17:00	・アンケート調査結果（追加分析） ・地理的分析WT検討結果 ・現地調査結果 ・実態調査結果 ・ワークショップ実施結果 ・今後の取りまとめの方向性について

また、本調査研究では、ワーキングチームを設置し、モデル地区内において過去に発生した犯罪等に関する GIS を活用した分析について検討を行った。

図表 9 ワーキングチームの構成

【有識者委員】	
雨宮 護	筑波大学システム情報系社会工学域准教授
齊藤 知範	科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室主任研究官
島田 貴仁	科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室室長
◎中谷 友樹	東北大学大学院環境科学研究科教授
【警察庁委員】	
警察庁生活安全局生活安全企画課都市防犯対策官	
(敬称略、五十音順)	

図表 10 ワーキングチームの実施概要

	日時	議題
第1回	平成30年9月27日	・ワーキングチームの位置づけ ・犯罪・前兆事案の発生地点マップ ・分析の方針 ／等
第2回	平成30年11月1日	・カーネル密度分析結果 ・犯罪・前兆事案発生地点周辺の特徴の整理結果 ／等
第3回	平成31年12月20日	・犯罪・前兆事案発生場所と防犯対策・防犯活動との関係分析 ・犯罪・前兆事案発生場所と不安箇所・危険体験場所との比較 ／等

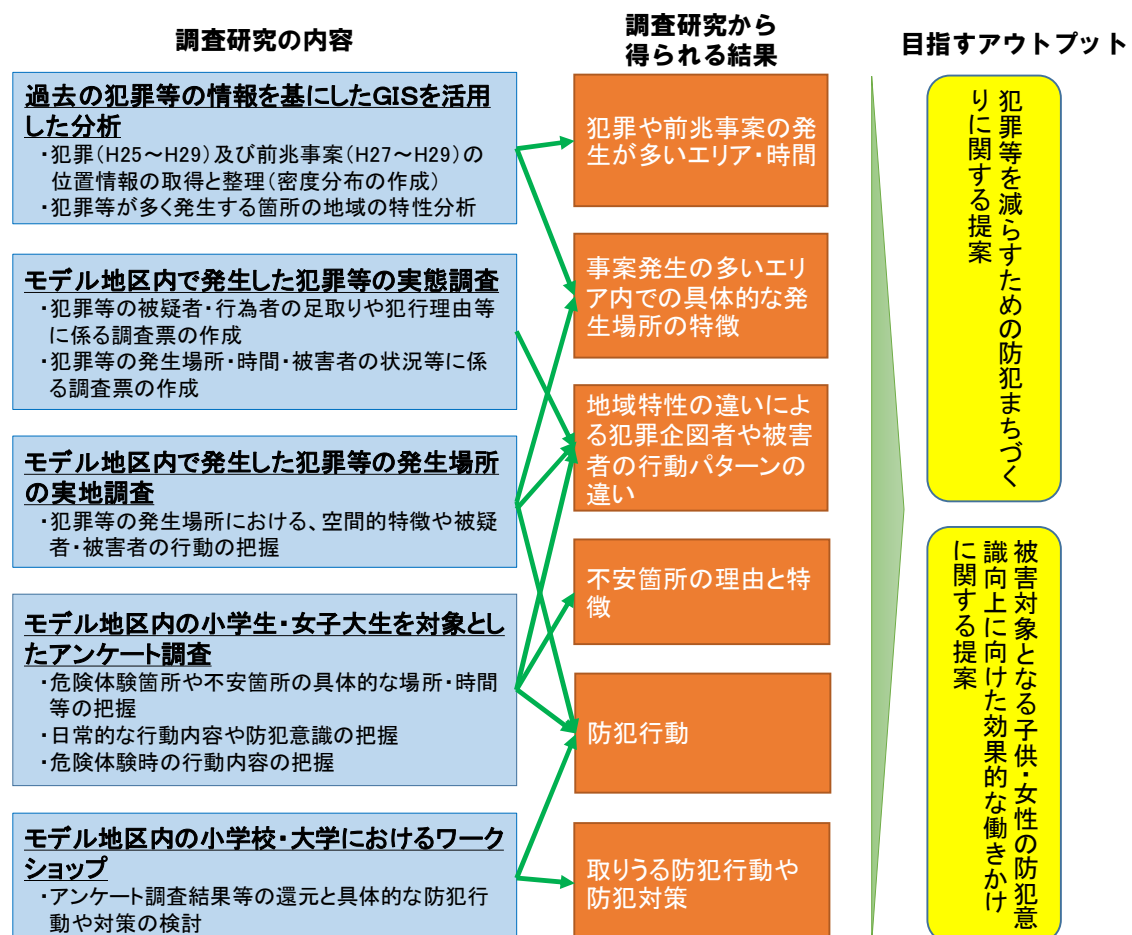
3 調査研究の全体像

本調査研究では、アウトプットとして「犯罪等を減らすための防犯まちづくりに関する提案」と「被害対象となる子供・女性の防犯意識向上に向けた効果的な働きかけに関する提案」を得ることを目的とし、関連調査の調査手法を基に、人口密度の低い地方部を調査対象に加えることで、調査対象地区の多様性にも配慮し、調査研究結果を日本全体に還元することができるよう設計した。

具体的には、「過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した分析」や「モデル地区内で発生した犯罪等の実態調査」といった客観データを活用した分析を実施したほか、「モデル地区内で発生した犯罪等の発生場所の実地調査」、防犯意識等の実態等を把握するための「モデル地区内の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査」「モデル地区内の小学校・大学におけるワークショップ」を実施した。

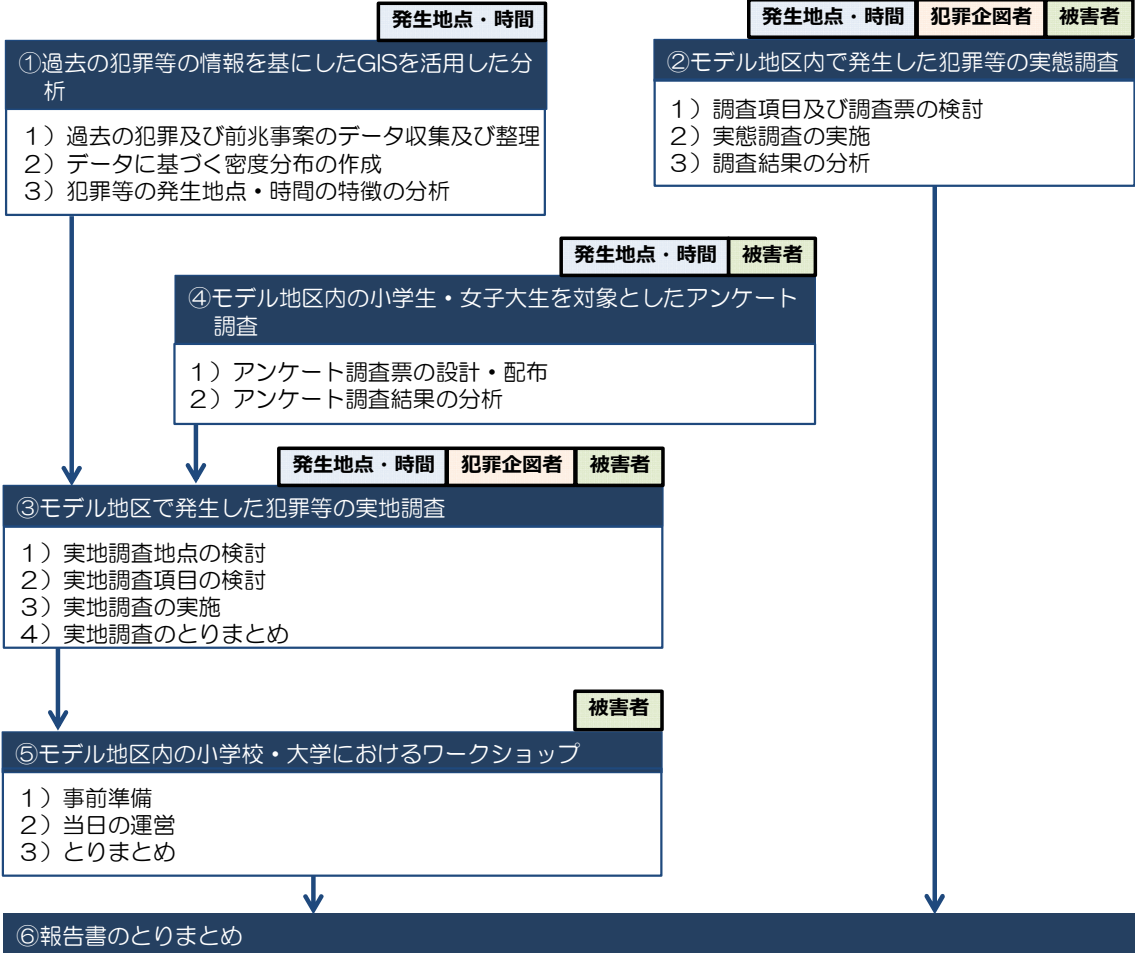
これにより、犯罪等の発生が多いエリアや時間、具体的な発生場所の特徴、犯罪企図者・被害者の行動パターンや防犯行動の状況等を把握した。

図表 11 調査研究の全体像



具体的な調査研究の実施フローは以下のとおりで、GIS を活用した分析と実態調査を並行して実施し、アンケート調査を行った結果を踏まえてモデル地区で発生した犯罪等の実地調査を行い、最後に小学校・大学におけるワークショップを実施した。

図表 12 調査研究の実施フロー



注) 調査フローの右肩のマーク **発生地点・時間 犯罪企図者 被害者** は、当該調査が犯罪等の発生地点・時間、犯罪企図者、被害者のいずれを対象とした調査であることを示す。

Ⅲ. 調査研究の対象

1 対象とする犯罪等の類型

1-1. 基本的な考え方

本調査研究では、子供・女性に対する犯罪の多くが道路・公園等の公共空間において発生し、被害者と加害者の間で面識がない割合が高いこと、並びに、これまで警察で推進してきた子供・女性安全対策班による前兆事案等に対する各種取組、防犯ボランティアの犯罪抑止に向けた取組及び防犯まちづくりの推進に向けた取組がいずれも公共空間を主な対象としていることから、対象とする犯罪等は以下の①と②を満たすものとした。

図表 13 対象とする犯罪等の基本的な考え方

■以下の①及び②を満たす犯罪¹及び前兆事案

①道路、公園、駐車場、集合住宅の共用部分等の不特定多数の者が出入りできる公共空間において発生する犯罪等

②被害者と被疑者・行為者が非面識であるもの

1-2. 対象とする罪種とその分類方法

具体的に対象とする罪種は、以下のとおりとした。

図表 14 対象とする具体的な罪種

＜被害者の属性・類型＞

○子供：年齢0～12歳の未就学児童及び小学生

○女性：全年齢

＜調査研究対象犯罪等の類型＞

○子供に対する犯罪

子供を対象とした主な罪種のうち、生命・身体に直接的な被害が及ぶ可能性が高く、かつ非面識割合が比較的高い次の犯罪とする。なお、殺人及び強制性交等については、面識割合が非面識割合を上回っているが、その重要性を考慮し、対象に含めた。

強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗、暴行、傷害、脅迫、恐喝及びこれらの未遂罪

○女性に対する犯罪

女性を対象とした主な罪種のうち、生命・身体に直接的な被害が及ぶ可能性が高く、かつ非面識割合が比較的高い次の犯罪とする。加えて、女性の被害割合が特に高く、主に公共空間で敢行されると考えられる罪種として、ひったくりも対象に含めることとする。なお、殺人については面識割合が非面識割合を上回っているが、その重要性を考慮し、対象に含めた。

強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗、ひったくり及びこれらの未遂罪

¹ 犯罪とは「刑法犯として警察が認知したもの」である。

○子供・女性に対する前兆事案

子供や女性が被害者等となる前兆事案のうち、被害割合が高く、かつ性犯罪に発展するおそれのある次の事案とした。

声かけ、つきまとい（立ちふさがりを含む。）、露出（公然わいせつを含む。）、卑わいな言動（痴漢を含む。）、盗撮、のぞき見

なお、実際の分析に当たって、子供の犯罪については発生件数が少ないことからすべてまとめて分析対象とした。また、女性の犯罪については、財産犯であるひったくりと対象者への接触があるその他の犯罪に分けて分析を行った。

前兆事案については、子供・女性ともに、対象者への接触の有無等の特性と発生件数を勘案し、「声かけ・つきまとい・卑わいな言動」「露出」「盗撮・のぞき見」の3区分で分析を行った。

また、被害者と被疑者・行為者との面識の有無については、検挙事件の情報等において判別できることから、分類が可能な場合に限り、切り分けて分析を行った。

図表 15 罪種の分類方法（図表2再掲）

犯罪	子供（小学生以下の男女）	（すべて） （本調査研究の対象とした「子供に対する犯罪※」のすべて）		
	女性（中学生以上の女性）	ひったくり以外 （強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗）	ひったくり	
前兆事案	子供（12歳以下の男女）	声かけ・つきまとい・卑わいな言動	露出	盗撮・のぞき見
	女性（13歳以上の女性）	声かけ・つきまとい・卑わいな言動	露出	盗撮・のぞき見

※ 強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗、暴行、傷害、脅迫、恐喝をいう。

2 調査対象地区（モデル地区）

2-1. 調査対象地区の選定の考え方

本調査研究では、小学生・女子大生の協力を得てアンケート調査・ワークショップを実施するため、地区内に小学校と大学が所在している地区であって、単一の市区町村（特別区を含む）内における単一の警察署の管轄区域内にある以下の6地区をモデル地区として選定した。

なお、本調査では、横浜市鶴見区、相模原市南区、名古屋市瑞穂区の3地域を比較的人口密度が高い「大都市圏」とし、愛知県みよし市、広島県福山市福山東警察署管内、福岡県田川市の3地域を比較的人口密度が低い「地方部」と分類して結果を整理した。

図表 16 モデル地区

- ・神奈川県横浜市鶴見区
- ・神奈川県相模原市南区
- ・愛知県名古屋市瑞穂区
- ・愛知県みよし市
- ・広島県福山市福山東警察署管内
- ・福岡県田川市

図表 17 モデル地区の位置



資料) 地図は CraftMAP(<http://www.craftmap.box-i.net/>)のものを加工

2-2. 各モデル地区の概要

(1) 神奈川県横浜市鶴見区

今回のモデル地区の中では、人口密度が2番目に高く、住民の年齢構成が比較的若いエリアである。今回アンケート調査を行った大学・小学校ともに駅から比較的近いエリアに立地している。

小学校区内の土地利用を見ると、商業施設が多く集積し、共同住宅も多く立地している。

図表 18 神奈川県横浜市鶴見区の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
鶴見署	285,356人	8587.3人/km ²	13.06%	48.26%

子供対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/子供千人)
強制性交等	0	0.000
強制わいせつ	16	0.429
略取誘拐・人身売買	0	0.000
殺人	0	0.000
強盗	0	0.000
暴行	13	0.348
傷害	4	0.107
脅迫	0	0.000
恐喝	2	0.054
計	35	0.938

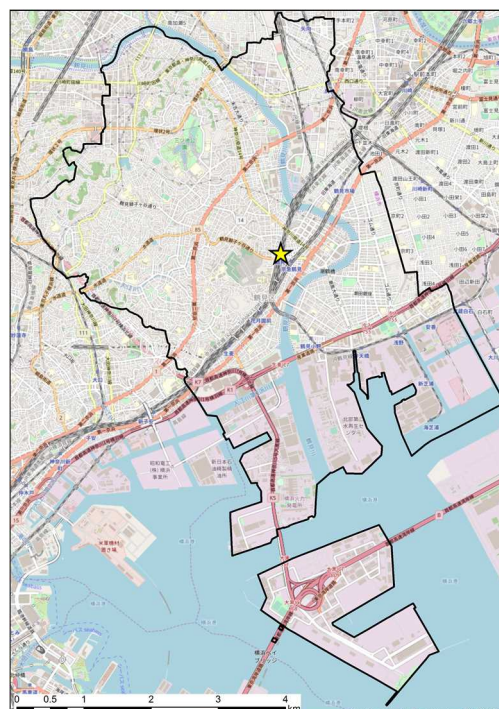
女性対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/女性千人)
強制性交等	8	0.058
強制わいせつ	59	0.428
略取誘拐・人身売買	0	0.000
ひったくり	58	0.421
計	125	0.908

前兆事案	H27～H29合計	事案発生率(事案合計/子供女性人口あたり事案発生率)	事案発生率(事案合計/子供女性千人)
声かけ	38	0.133	0.217
つきまとい等	16	0.056	0.091
露出(公わい)	100	0.350	0.571
卑わい言動(痴漢)	90	0.315	0.514
盗撮	29	0.102	0.166
のぞき見	3	0.011	0.017
計	276	0.967	1.577



・団地等の共同住宅が多い
・駅前には商業施設が集積

□: 署管内 ☆: JR、京急線鶴見駅



注) 人口等のデータは平成 27 年国勢調査による (以下同様)

(2) 神奈川県相模原市南区

15 歳未満人口の割合が低い地区で、今回アンケート調査を行った大学・小学校ともに駅から比較的近いエリアに立地している。

土地利用については、鶴見区と同様に駅前に商業施設の集積が見られる。小学校区内における土地利用を見ると、商業施設や準工業地帯が、小学校の周辺には戸建て住宅地が立地している。

また、今回のモデル地区の中で女性を対象とした犯罪の数が最も多く、強制わいせつの比率が高い。

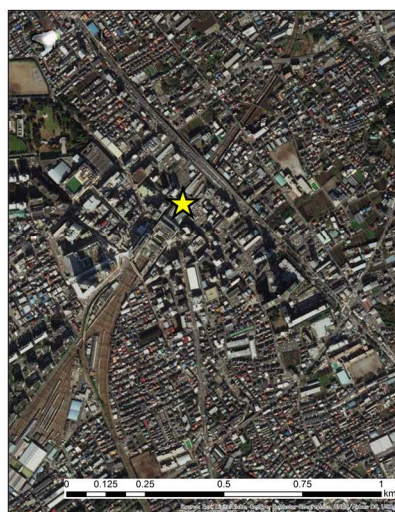
図表 19 神奈川県相模原市南区の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
相模原南署	277,280人	7275.8人/㎢	11.82%	50.29%

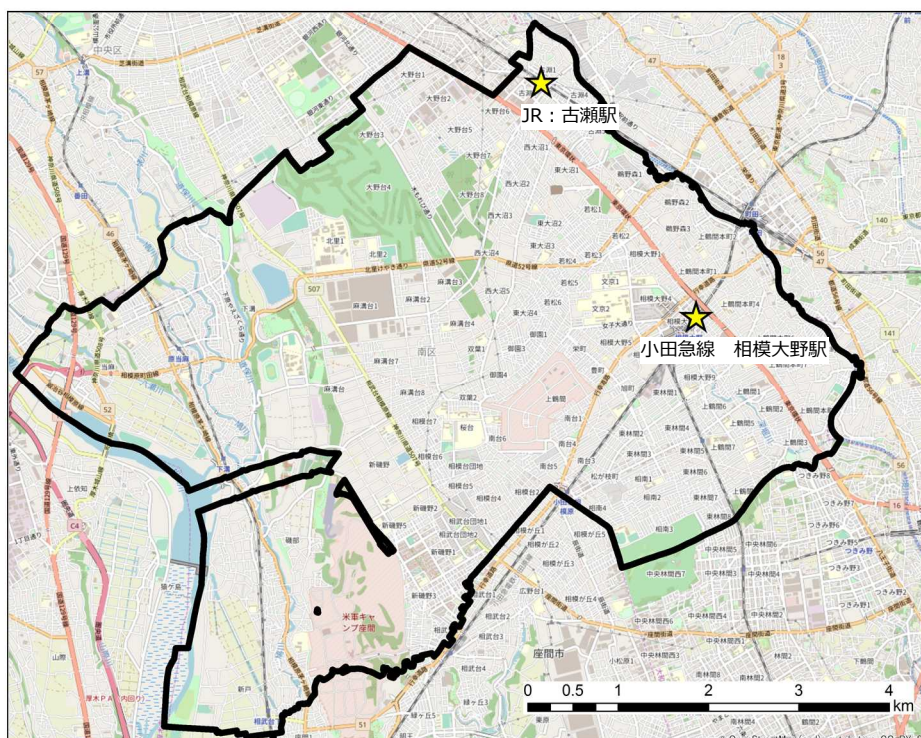
子供対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/子供千人)		
強制性交等	0	0.000
強制わいせつ	8	0.244
略取誘拐・人身売買	0	0.000
殺人	0	0.000
強盗	0	0.000
暴行	4	0.122
傷害	4	0.122
脅迫	1	0.031
恐喝	0	0.000
計	17	0.519

女性対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/女性千人)		
強制性交等	24	0.172
強制わいせつ	82	0.588
略取誘拐・人身売買	1	0.007
ひったくり	92	0.660
計	199	1.427

前兆事案	H27～H29合計	事案発生率(事案合計/千人)	子供女性人口あたり事案発生率(事案合計/子供女性千人)
声かけ	70	0.252	0.406
つきまとい等	19	0.069	0.110
露出(公わい)	69	0.249	0.401
卑わい言動(痴漢)	118	0.426	0.685
盗撮	25	0.090	0.145
のぞき見	10	0.036	0.058
計	311	1.122	1.806



□:署管内 ☆:小田急線 相模大野駅



(3) 愛知県名古屋市瑞穂区

今回のモデル地区の中では最も人口密度が高く、子供・女性を対象とした犯罪及び前兆事案の人口当たりの発生率がいずれも最も高い地域となっている。

今回調査対象としている小学校・大学ともに駅から比較的近いエリアに立地しており、周辺は住宅密集市街地となっている。

図表 20 愛知県名古屋市瑞穂区の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
瑞穂署	105,357人	9390.1人/㎢	12.10%	51.82%

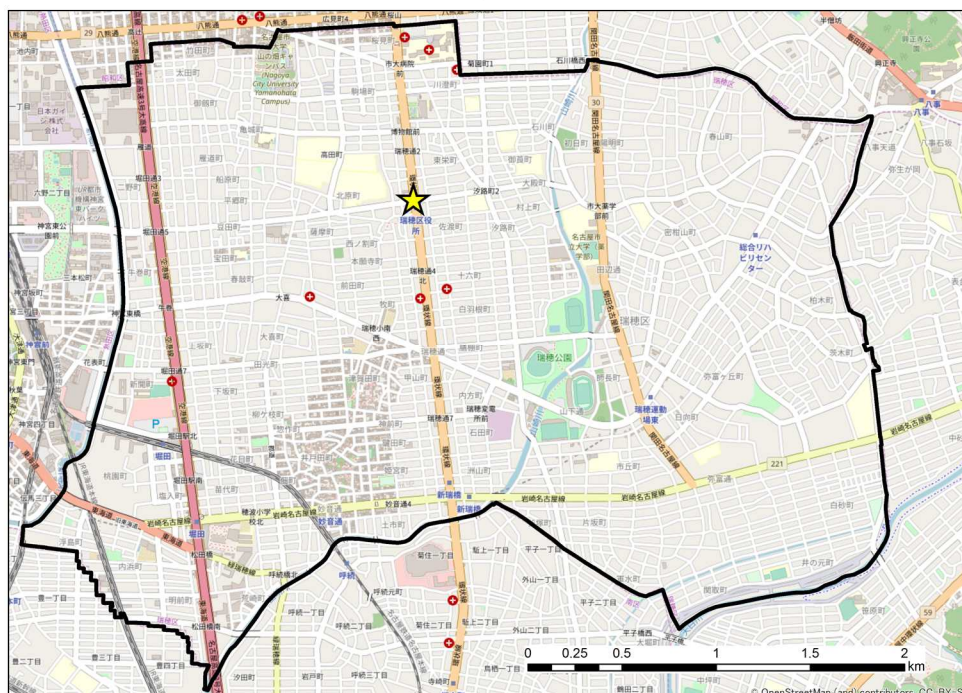
子供対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/子供千人)		
強制性交等	0	0.000
強制わいせつ	6	0.471
略取誘拐・人身売買	0	0.000
殺人	0	0.000
強盗	0	0.000
暴行	4	0.314
傷害	0	0.000
脅迫	0	0.000
恐喝	0	0.000
計	10	0.785

女性対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/女性千人)		
強制性交等	2	0.037
強制わいせつ	44	0.806
略取誘拐・人身売買	1	0.018
ひったくり	71	1.300
計	118	2.161

前兆事案	H27～ H29合計	事案発生率(事 案合計/千人)	子供女性人口あたり事案発生率 (事案合計/子供女性千人)
声かけ	29	0.275	0.431
つきまとい等	19	0.180	0.282
露出(公わい)	38	0.361	0.564
卑わい言動(痴漢)	57	0.541	0.846
盗撮	16	0.152	0.238
のぞき見	0	0.000	0.000
計	159	1.509	2.361



□: 署管内 ☆: 名古屋市営地下鉄:瑞穂区役所駅



(4) 愛知県みよし市

今回のモデル地区の中では、15歳未満の児童・学生の人口割合が最も高く、女性を対象とした犯罪の人口当たりの発生率が最も低い地域である。

地域内に自動車工場等が立地しており、近年名古屋市・豊田市のベッドタウンとして宅地開発が進んできた地域である。駅から離れた場所は農地が多く見られるが、今回調査を行った大学・小学校は比較的駅からは近く、その周辺は工業団地や住宅地となっている。

また、駅や小学校の周辺には、防犯カメラが複数設置されており、住宅地には防犯に関する看板、のぼり等が多数設置されていた。

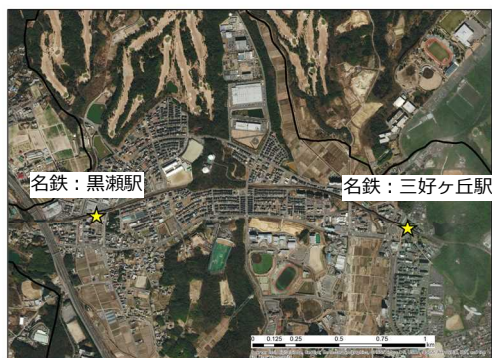
図表 21 愛知県みよし市の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
豊田署	61,810人	1920人/㎢	16.45%	47.18%

子供対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/子供千人)		
強制性交等	2	0.031
強制わいせつ	18	0.281
略取誘拐・人身売買	1	0.016
殺人	1	0.016
強盗	0	0.000
暴行	9	0.141
傷害	10	0.156
脅迫	0	0.000
恐喝	1	0.016
計	42	0.657

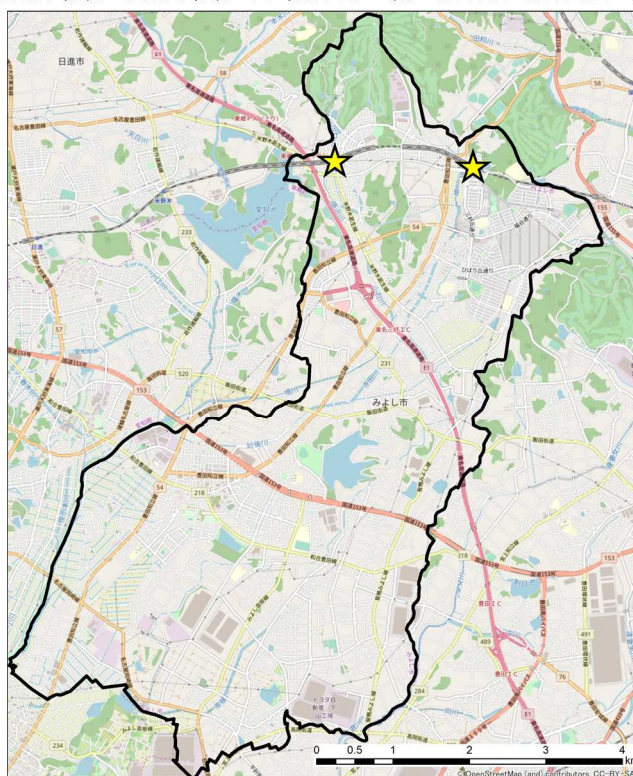
女性対象犯罪 H25～H29合計 事案発生率(事案合計/女性千人)		
強制性交等	22	0.108
強制わいせつ	87	0.427
略取誘拐・人身売買	1	0.005
ひったくり	23	0.113
計	133	0.653

前兆事案 H27～ H29合計 事案発生率(事案合計/子供女性人口あたり事案発生率)		
声かけ	54	0.125
つきまとい等	47	0.109
露出(公わい)	77	0.178
卑わい言動(痴漢)	70	0.162
盗撮	11	0.025
のぞき見	11	0.025
計	270	0.624



□: 署管内 ☆: 名鉄黒瀬駅(左側)、名鉄三好ヶ丘駅(右側)

※刑法犯認知件数(子供対象犯罪数、女性対象犯罪数)は豊田警察署管内の数値であり、同署が所管する豊田市のデータも含まれる。



(5) 広島県福山市福山東警察署管内

福山駅前には大規模商業施設もあるが、郊外にかけて住宅が広がっており、駅前の複数の商業ビルが廃業する等駅周辺の空洞化が進んでいる。今回調査を行った大学・小学校はいずれも福山駅からは遠く、小学校の周辺は区画整理された宅地が広がっている。

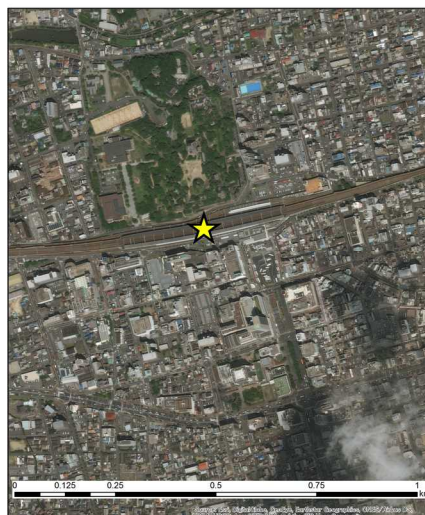
図表 22 広島県福山市の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
福山東署	32,681人	2,906人/㎢	13.88%	51.50%

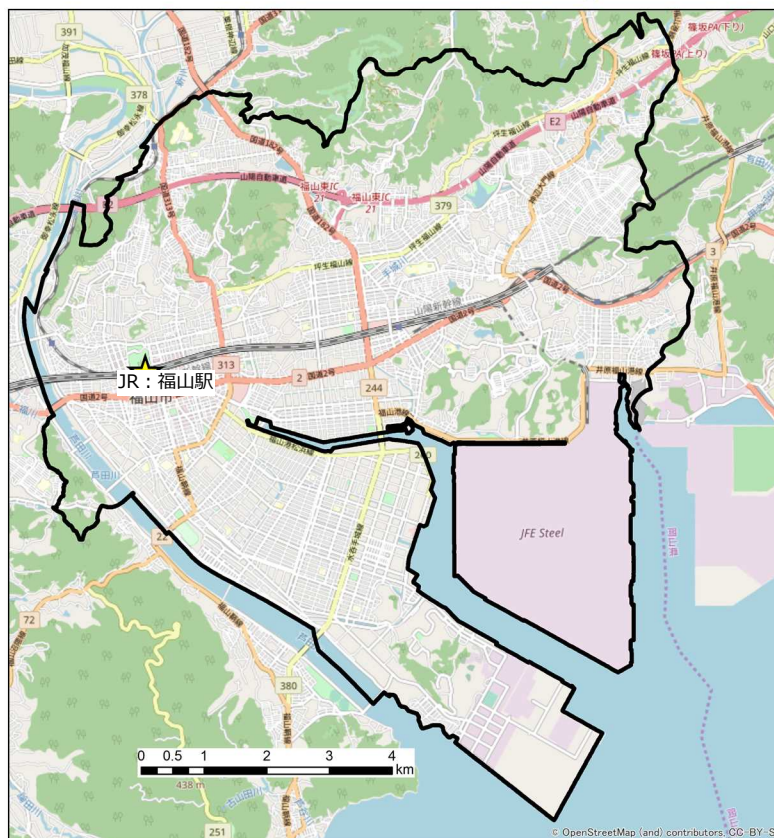
子供対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/子供千人)
強制性交等	1	0.030
強制わいせつ	5	0.152
略取誘拐・人身売買	3	0.091
殺人	3	0.091
強盗	0	0.000
暴行	10	0.304
傷害	7	0.213
脅迫	1	0.030
恐喝	3	0.091
計	33	1.004

女性対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/女性千人)
強制性交等	10	0.084
強制わいせつ	66	0.551
略取誘拐・人身売買	3	0.025
ひったくり	37	0.309
計	116	0.969

前兆事案	H27～H29合計	事案発生率(事案合計/子供女性人口あたり事案発生率)	子供女性人口あたり事案発生率(事案合計/子供女性千人)
声かけ	38	0.133	0.217
つきまとい等	16	0.056	0.091
露出(公わい)	100	0.350	0.571
卑わい言動(痴漢)	90	0.315	0.514
盗撮	29	0.102	0.166
のぞき見	3	0.011	0.017
計	276	0.967	1.577



□:署管内 ☆:JR福山駅



(6) 福岡県田川市

今回のモデル地区の中では最も人口密度が低く、15歳未満人口割合も名古屋市瑞穂区に次いで低いが、子供を対象とした犯罪の発生率は最も高い。

土地利用については、農住が混在している地域で、公共交通の利便性は低く、車での移動が多い地域である。また、今回調査を行った大学・小学校は比較的駅からは遠い。

図表 23 福岡県田川市の地区概要

警察署	人口	人口密度	15歳未満人口割合	女性人口割合
田川署	48,441人	888.0人/㎢	12.96%	54.65%

子供対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/子供千人)
強制性交等	0	0.000
強制わいせつ	8	0.501
略取誘拐・人身売買	1	0.063
殺人	0	0.000
強盗	0	0.000
暴行	3	0.188
傷害	9	0.564
脅迫	1	0.063
恐喝	1	0.063
計	23	1.441

女性対象犯罪	H25～H29合計	事案発生率(事案合計/女性千人)
強制性交等	7	0.102
強制わいせつ	46	0.672
略取誘拐・人身売買	1	0.015
ひったくり	14	0.204
計	68	0.993

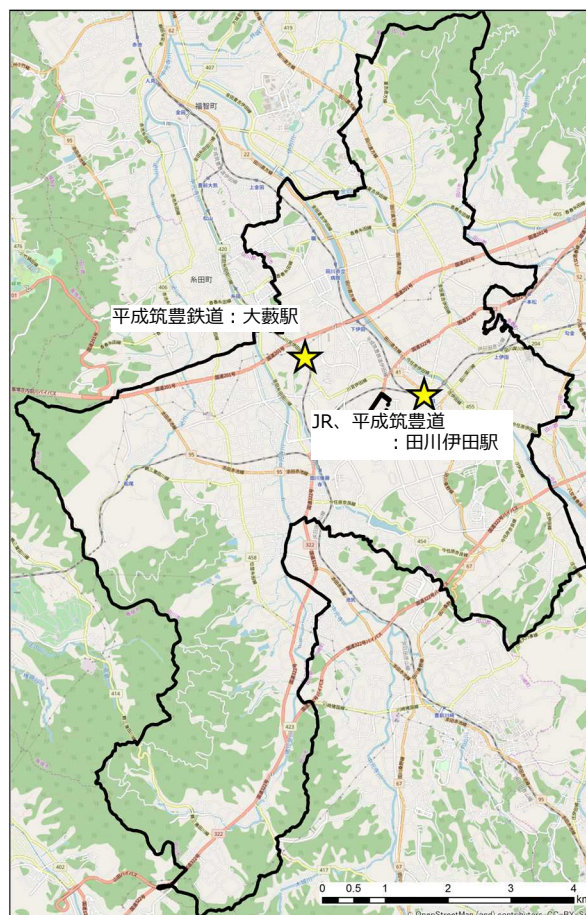
前兆事案	H27～H29合計	事案発生率(事案合計/子供女性人口あたり事案発生率)	事案発生率(事案合計/子供女性千人)
声かけ	50	0.396	0.592
つきまとい等	14	0.111	0.166
露出(公わい)	29	0.230	0.343
卑わい言動(痴漢)	25	0.198	0.296
盗撮	9	0.071	0.107
のぞき見	8	0.063	0.095
計	135	1.071	1.599

平成筑豊鉄道：大藪駅

JR、平成筑豊鉄道：田川伊田駅

口：署管内 ☆：平成筑豊鉄道大藪駅(左側)、JR、平成筑豊鉄道田川伊田駅(右側)

※刑法犯認知件数(子供対象犯罪数、女性対象犯罪数)は田川警察署管内の数値であり、同署が所管する田川郡のデータも含まれる。



IV. 調査研究結果

1 犯罪等の発生の実態について

1-1. GIS を活用した分析から見た犯罪等の発生状況

本調査研究では、各モデル地区において警察が認知した過去5年の犯罪(平成25～29年)及び過去3年の前兆事案(平成27～29年)の発生地点や発生時間の情報を基に、GISを利用して地図上に示しうるデータとして整理し、そのモデル地区における犯罪等の発生に関する空間的な特性や時間的な特徴を分析した。

(1) 犯罪等が発生したエリア

ここでは、過去の犯罪等の発生地点の情報を基に、各モデル地区を一定規模のエリアに区切って発生密度の分析を行い、平均以上の密度のあるエリアを、過去に犯罪等の発生が多かったことをもって今後も犯罪等が発生する「リスクが高い」場所として抽出した。

① 子供を対象とした犯罪

大都市圏・地方部いずれも駅・公園周辺でリスクが高い傾向が見られ、加えて大都市圏では学校周辺、地方部では大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られた。

図表 24 犯罪発生リスクが高いエリアの特徴

罪種	子供対象犯罪	
	大都市圏	地方部
大都市圏・地方部		
駅周辺	○※6	○
学校周辺	○	
公園周辺	○	○
(駅周辺の)住宅街※1		
(幹線道路周辺の)住宅街※1		
低層・戸建て住宅密集地※2		
団地・集合住宅密集地※3		
幹線道路※4周辺		
大規模商業施設※5周辺		○

※1：当該街区が住宅の用途に供せられており、隣接する街区も同様である場所

※2：当該街区が低層共同住宅又は戸建て住宅のみで構成されており、隣接する街区も同様である場所

※3：当該街区が集合住宅・団地のみで構成されており、隣接する街区も同様である場所

※4：国道・県道のことをいう

※5：大規模小売店舗立地法に基づく大規模小売店舗のことをいう

※6：過去に発生した犯罪地点についてその分布状況から発生密度の分析を行った結果から、地区内で平均以上の密度がある箇所（9段階で整理したうち5段階目以上の密度となっている箇所）を「○」として記述している。

(以下同様)

② 女性を対象とした犯罪

ひったくり以外の犯罪（強制性交等、強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、殺人、強盗。以下同じ）では、大都市圏・地方部いずれも駅・公園周辺でリスクが高い傾向が見られ、加えて大都市圏では学校周辺、地方部では大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られた。

ひったくりについては大都市圏・地方部いずれも駅・学校周辺でリスクが高い傾向が見られ、加えて大都市圏では低層・戸建て住宅密集地、地方部では駅周辺の住宅街でリスクが高い傾向が見られた。

図表 25 犯罪発生リスクが高いエリアの特徴の整理

罪種	ひったくり以外の犯罪		ひったくり	
大都市圏・地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部
駅周辺	○	○	○	○
学校周辺	○		○	○
公園周辺	○	○		
（駅周辺の）住宅街				○
（幹線道路周辺の）住宅街				
低層・戸建て住宅密集地			○	
団地・集合住宅密集地				
幹線道路周辺				
大規模商業施設周辺		○		

③ 子供を対象とした前兆事案

声かけ・つきまとい・卑わいな言動については、大都市圏では学校・公園周辺、団地・集合住宅密集地でリスクが高い傾向が見られ、地方部では公園周辺、駅周辺の住宅街、大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られた。

露出については、大都市圏では駅・学校・公園周辺でリスクが高い傾向が見られた。

盗撮・のぞき見については、大都市圏・地方部いずれも学校・公園・大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られ、加えて大都市圏では団地・集合住宅密集地、地方部では駅周辺でリスクが高い傾向が見られた。

図表 26 前兆事案リスクの高いエリアの特徴の整理

罪種	声かけ・つきまとい・卑わいな言動		露出		盗撮・のぞき見	
大都市圏・地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部
駅周辺			○	除地方部は発生件数が少なく分析から除外した。		○
学校周辺	○		○		○	○
公園周辺	○	○	○		○	○
（駅周辺の）住宅街		○				
（幹線道路周辺の）住宅街						
低層・戸建て住宅密集地						
団地・集合住宅密集地	○				○	
幹線道路周辺						
大規模商業施設周辺		○			○	○

④ 女性を対象とした前兆事案

声かけ・つきまとい・卑わいな言動については、大都市圏では駅・学校・公園・幹線道路周辺にリスクが高い傾向が見られ、地方部では駅周辺、幹線道路周辺の住宅街でリスクが高い傾向が見られた。

露出については、大都市圏では駅・学校・公園周辺、低層・戸建て住宅密集地でリスクが高い傾向が見られ、地方部では学校周辺、団地・集合住宅密集地、大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られた。

盗撮・のぞき見については、大都市圏では駅・学校周辺、団地・集合住宅密集地でリスクが高い傾向が見られ、地方部では駅・大規模商業施設周辺でリスクが高い傾向が見られた。

図表 27 前兆事案リスクの高いエリアの特徴の整理

罪種	声かけ・つきまとい・卑わいな言動		露出		盗撮・のぞき見	
	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部	大都市圏	地方部
駅周辺	○	○	○		○	○
学校周辺	○		○	○	○	
公園周辺	○		○			
(駅周辺の) 住宅街						
(幹線道路周辺の) 住宅街		○				
低層・戸建て住宅密集地			○			
団地・集合住宅密集地				○	○	
幹線道路周辺	○					
大規模商業施設周辺				○		○

(2) 犯罪が発生した時間

ここでは、いずれの罪種でも犯罪発生リスクが高いとされた駅周辺地区について、発生場所と発生時間の関係について検討を行った。

【犯罪発生場所と発生時間の関係に関する分析結果の見方】

- 罪種、場所毎に、行方向で各時間帯の発生状況を示し、15%以上の場合その大きさにあわせて着色している。

⇒行方向に見ることで、当該罪種がどの時間帯に発生しているかを確認できる

⇒同じ時間帯で見た場合、駅から500m以内と500m超でどちらの方がより発生率が高いかを確認できる。

罪種	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜1 (18:00～21:00)	夜2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
ひったくり 以外	駅500m以内(n=27)	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	5 20.0%	11 50.1%	8 28.4%	27 100.0%
	駅500m超(n=72)	3 4.2%	2 2.8%	2 2.8%	2 2.8%	2 2.8%	2 2.8%	72 100.0%
	駅500m以内(n=85)	6 7.1%	14 16.5%	16 18.8%	21 24.7%	19 22.4%	9 10.6%	85 100.0%
	駅500m超(n=132)	3 2.3%	2 1.5%	2 1.5%	2 1.5%	2 1.5%	20 15.2%	132 100.0%

① 子供を対象とした犯罪

子供を対象とした犯罪は、大都市圏、地方部ともに夕方の発生が顕著に多く、駅からの距離に関係なく発生している。その他の時間帯については発生件数が少なく、比較が難しい。

図表 28 子供を対象とした犯罪の発生時間帯

罪種	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜1 (18:00～21:00)	夜2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
大都市圏	駅 500m 以内 (n=8)	1	2	5	0	0	0	8
		12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=19)	1	4	12	1	1	0	19
		5.3%	21.1%	63.2%	5.3%	5.3%	0.0%	100.0%
地方部	駅 500m 以内 (n=2)	0	0	1	1	0	0	2
		0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=13)	0	4	9	0	0	0	13
		0.0%	30.8%	69.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは以下の基準に基づいて付している。

15～30%未満  30～50%未満  50%以上 

※地方部の駅 500m 以内は n=2 と少ないため網掛けを付していない。

② 女性を対象とした犯罪

○大都市圏

ひったくり以外では、駅から 500m 以内のエリア（以下「駅 500m 以内エリア」という。）でも駅から 500m 以遠のエリア（以下「駅 500m 超エリア」という。）でも、夜間から深夜での発生が多い。

ひったくりは、「朝（6：00～9：00）」の時間帯を除くと概ねすべての時間帯で一定程度の発生が見られるが、「駅 500m 以内エリア」では特に「夜間（18：00～24：00）」での発生割合が高く、「駅 500m 超エリア」では、特に「日中（9：00～15：00）」の発生割合が高い。モデル地区全体で見ると、日中は「駅 500m 超エリア」でより発生する傾向が強く、夕方から夜間になると「駅 500m 以内エリア」での発生も多くなり、更に深夜になると「駅 500m 超エリア」で再び発生する傾向があることが分かる。

図表 29 大都市圏における女性を対象とした犯罪の発生時間帯

罪種	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜1 (18:00～21:00)	夜2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
ひったくり以外	駅 500m 以内 (n=27)	2	0	1	5	11	8	27
		7.4%	0.0%	3.7%	18.5%	40.7%	29.6%	100.0%
	駅 500m 超 (n=72)	3	2	7	15	26	19	72
		4.2%	2.8%	9.7%	20.8%	36.1%	26.4%	100.0%
ひったくり	駅 500m 以内 (n=85)	6	14	16	21	19	9	85
		7.1%	16.5%	18.8%	24.7%	22.4%	10.6%	100.0%
	駅 500m 超 (n=132)	5	35	19	29	24	20	132
		3.8%	26.5%	14.4%	22.0%	18.2%	15.2%	100.0%

○地方部

ひったくり以外では、大都市圏と同様に、「駅 500m 以内エリア」でも「駅 500m 超エリア」でも、夜間から深夜での発生が多いが、「駅 500m 以内エリア」では深夜に発生する傾向は強い。

ひったくりは、大都市圏と比較すると、「駅 500m 以内エリア」では「夜 1 (18:00～21:00)」に、「駅 500m 超エリア」では夜間に発生が偏っている。モデル地区全体で見ると、大都市圏と比較してひったくりの発生は夜間に集中しており、帰宅ピーク時間が過ぎる「夜 2 (21:00～24:00)」になると、「駅 500m 超エリア」での発生が多くなる様子がうかがえる。

図表 30 地方部における女性を対象とした犯罪の発生時間帯

罪種	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜1 (18:00～21:00)	夜2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
ひったくり以外	駅 500m 以内 (n=14)	1	0	0	2	6	5	14
		7.1%	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	35.7%	100.0%
	駅 500m 超 (n=48)	1	1	2	11	20	13	48
		2.1%	2.1%	4.2%	22.9%	41.7%	27.1%	100.0%
ひったくり	駅 500m 以内 (n=7)	0	1	1	3	1	1	7
		1.0%	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	100.0%
	駅 500m 超 (n=37)	2	0	2	15	12	6	37
		5.4%	0.0%	5.4%	40.5%	32.4%	16.2%	100.0%

③ 子供を対象とした前兆事案

○大都市圏

大都市圏における前兆事案について、「盗撮・のぞき見」についてはサンプル数が少ないため場所と発生時間帯による分析は難しい。

その他の前兆事案についてはいずれも日中から夕方での発生が多い。また、モデル地区全体で見ると、夕方の時間帯では、いずれの前兆事案も「駅 500m超エリア」の方で発生する傾向が強い。

図表 31 大都市圏における子供を対象とした前兆事案の発生時間帯

前兆事案	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜1 (18:00～21:00)	夜2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
声かけ・つきまとい・卑わいな言動	駅 500m 以内 (n=27)	2	8	14	2	0	1	27
		7.4%	29.6%	51.9%	7.4%	0.0%	3.7%	100.0%
	駅 500m 超 (n=53)	1	15	30	7	0	0	53
		1.9%	28.3%	56.6%	13.2%	0.0%	0.0%	100.0%
露出	駅 500m 以内 (n=10)	0	4	5	1	0	0	10
		0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=34)	2	5	23	3	1	0	34
		5.9%	14.7%	67.6%	8.8%	2.9%	0.0%	100.0%
盗撮・のぞき見	駅 500m 以内 (n=5)	0	2	2	0	1	0	5
		0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=3)	1	1	1	0	0	0	3
		33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※盗撮・のぞき見は駅 500m 以内が n=5、駅 500m 超が n=3 と少ないため網掛けを付していない

○地方部

地方部における前兆事案について、「露出」についてはサンプル数が少ないため場所と発生時間帯による分析は難しい。

その他の前兆事案についてはいずれも夕方での発生が多いが、声かけ・つきまとい・卑わいな言動については日中でも、盗撮・のぞき見については朝や夜2でも一定程度の発生が見られる。

また、最も多く発生している夕方の時間帯について、モデル地区全体で見ると、声かけ・つきまとい・卑わいな言動では駅からの距離で発生割合に差は見られないが、盗撮・のぞき見の場合は「駅 500m超エリア」で発生する傾向が強い。

図表 32 地方部における子供を対象とした前兆事案の発生時間帯

前兆事案	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜1 (18:00～ 21:00)	夜2 (21:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)	
声かけ・つきまとい・卑わいな言動	駅 500m 以内 (n=20)	1	4	13	2	0	0	20
		5.0%	20.0%	65.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=74)	6	14	50	4	0	0	74
		8.1%	18.9%	67.6%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
露出	駅 500m 以内 (n=0)	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—
	駅 500m 超 (n=3)	0	0	2	1	0	0	3
		0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
盗撮・のぞき見	駅 500m 以内 (n=9)	2	1	4	0	2	0	9
		22.2%	11.1%	44.4%	0.0%	22.2%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=26)	4	4	14	1	3	0	26
		15.4%	15.4%	53.8%	3.8%	11.5%	0.0%	100.0%

※露出は駅 500m 以内が n=0、駅 500m 超が n=3 と少ないため網掛けを付していない

④ 女性を対象とした前兆事案

○大都市圏

声かけ・つきまとい・卑わいな言動については、「駅 500m以内エリア」、「駅 500m超エリア」のいずれにおいても夜間及び深夜での発生割合が高く、「駅 500m以内エリア」では日中でも一定程度発生している。

露出については、「駅 500m以内エリア」では夕方から夜間での発生が多いが、「駅 500m超エリア」では、朝から夜間までのほぼ一日にわたり、常に一定程度の発生が見られる。

盗撮・のぞき見については、「駅 500m以内エリア」では朝から夕方と夜2で、「駅 500m超エリア」では夜2が突出して高いが、朝以外の時間帯では常に一定程度の発生が見られる。

図表 33 大都市圏における女性を対象とした前兆事案の発生時間帯

前兆事案	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝	日中	夕方	夜1	夜2	深夜	
		(6:00～9:00)	(9:00～15:00)	(15:00～18:00)	(18:00～21:00)	(21:00～24:00)	(24:00～6:00)	
声かけ・つきまとい・卑わいな言動	駅 500m以内 (n=128)	8	25	6	29	36	24	128
		6.3%	19.5%	4.7%	22.7%	28.1%	18.8%	100.0%
	駅 500m超 (n=174)	9	8	23	56	50	28	174
		5.2%	4.6%	13.2%	32.2%	28.7%	16.1%	100.0%
露出	駅 500m以内 (n=48)	5	4	14	12	8	5	48
		10.4%	8.3%	29.2%	25.0%	16.7%	10.4%	100.0%
	駅 500m超 (n=92)	15	12	19	21	20	5	92
		16.3%	13.0%	20.7%	22.8%	21.7%	5.4%	100.0%
盗撮・のぞき見	駅 500m以内 (n=25)	7	6	5	2	5	0	25
		28.0%	24.0%	20.0%	8.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	駅 500m超 (n=36)	1	6	7	5	12	5	36
		2.8%	16.7%	19.4%	13.9%	33.3%	13.9%	100.0%

○地方部

声かけ・つきまとい・卑わいな言動については、「駅 500m以内エリア」では朝から夜 1 の時間帯にかけて多く、「駅 500m超エリア」では夕方から夜 2 で発生割合が高い。モデル地区全体で見ると、朝から日中は「駅 500m以内エリア」で発生し、その後夕方から夜 1 まですべてで発生し、夜 2 については「駅 500m超エリア」で発生する傾向が強い。

露出については、「駅 500m以内エリア」では日中から夜 2 の時間帯にかけて発生割合が高く、「駅 500m超エリア」では朝から夕方と夜 2 の時間帯で発生割合が高い。

盗撮・のぞき見は「駅 500m以内エリア」では日中から夜 2 にかけて発生割合が高く、「駅 500m超エリア」では日中と夜間での発生割合が高い。

図表 34 地方部における女性を対象とした前兆事案の発生時間帯

前兆事案	場所	時間帯（上段：件数、下段：割合）						小計
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜 1 (18:00～21:00)	夜 2 (21:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)	
声かけ・つきまとい・卑わいな言動	駅 500m 以内 (n=83)	18	14	19	16	10	6	83
		21.7%	16.9%	22.9%	19.3%	12.0%	7.2%	100.0%
	駅 500m 超 (n=171)	16	19	43	31	45	17	171
		9.4%	11.1%	25.1%	18.1%	26.3%	9.9%	100.0%
露出	駅 500m 以内 (n=24)	3	5	4	5	4	3	24
		12.5%	20.8%	16.7%	20.8%	16.7%	12.5%	100.0%
	駅 500m 超 (n=98)	23	18	15	11	17	14	98
		23.5%	18.4%	15.3%	11.2%	17.3%	14.3%	100.0%
盗撮・のぞき見	駅 500m 以内 (n=34)	4	6	9	8	7	0	34
		11.8%	17.6%	26.5%	23.5%	20.6%	0.0%	100.0%
	駅 500m 超 (n=60)	4	12	7	20	15	2	60
		6.7%	20.0%	11.7%	33.3%	25.0%	3.3%	100.0%

1-2. 実態調査から見た犯罪発生状況

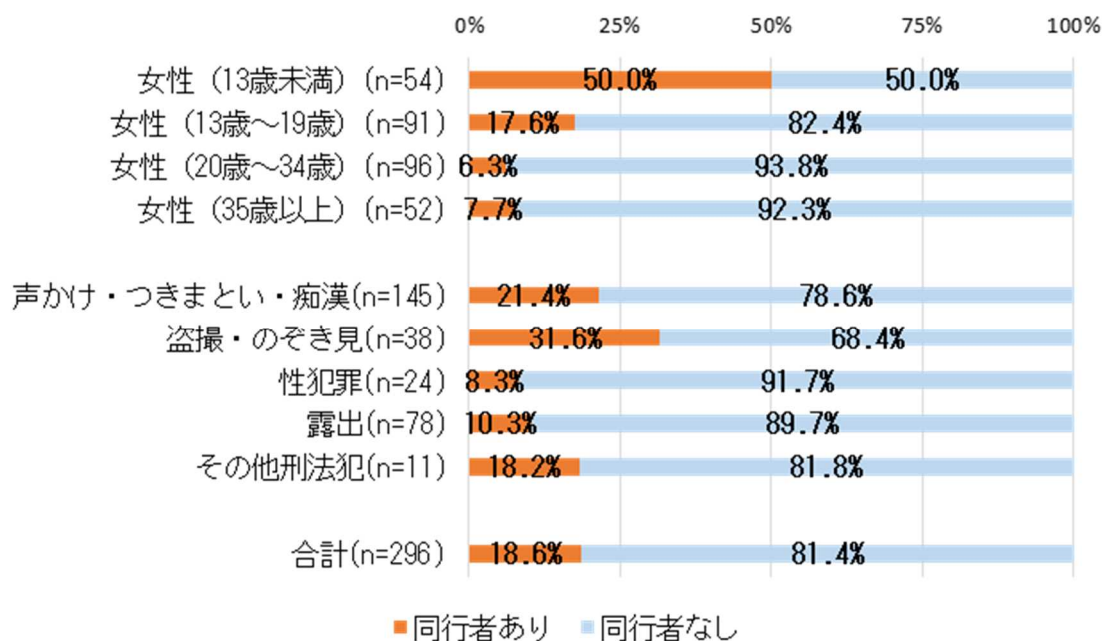
本調査研究では、調査研究の実施期間中にモデル地区内で発生した犯罪等について、事情聴取や取調べの中で警察官が把握した情報を基に作成した被害者、被疑者・行為者の状況調査の結果を用い、被害が発生した際の被害者や被疑者・行為者の行動や被害の発生場所、発生時間の状況等について分析を行った。

ただし、今回の実態調査では、調査期間が短かったこと等から、分析対象の事案数が限られていた（被害に関する実態調査票は 312 件、犯行に関する実態調査票は 26 件）ことに留意が必要である。

（1）被害者の状況

女性が被害に遭った事案のうち、被害時に同行者がいた人の割合を年齢層別に見ると、13 歳未満では友人等の同行者がいる場合に被害に遭うケースが半数に及ぶが、13 歳以上の年齢層では、いずれも同行者がいた人の割合は低い傾向にある。

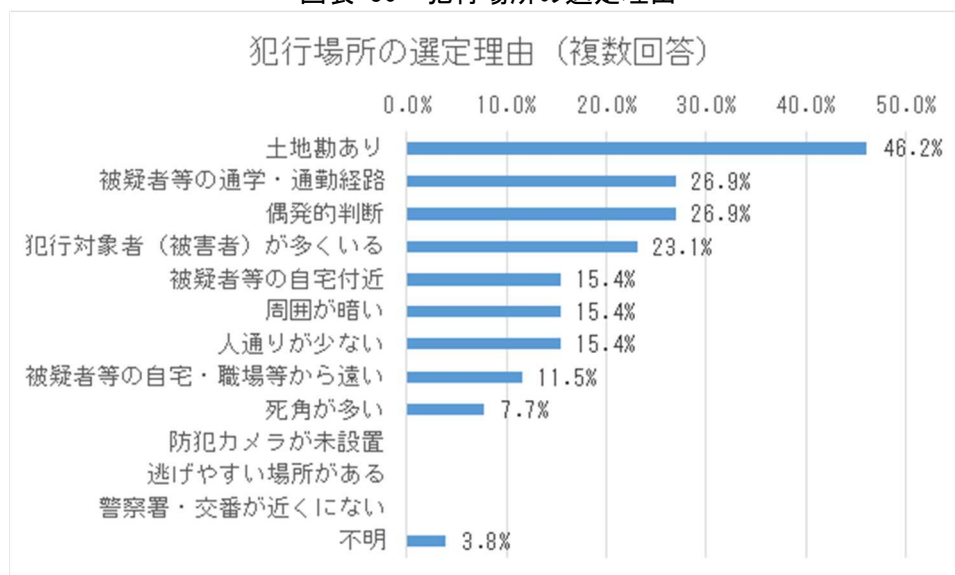
図表 35 同行者の有無



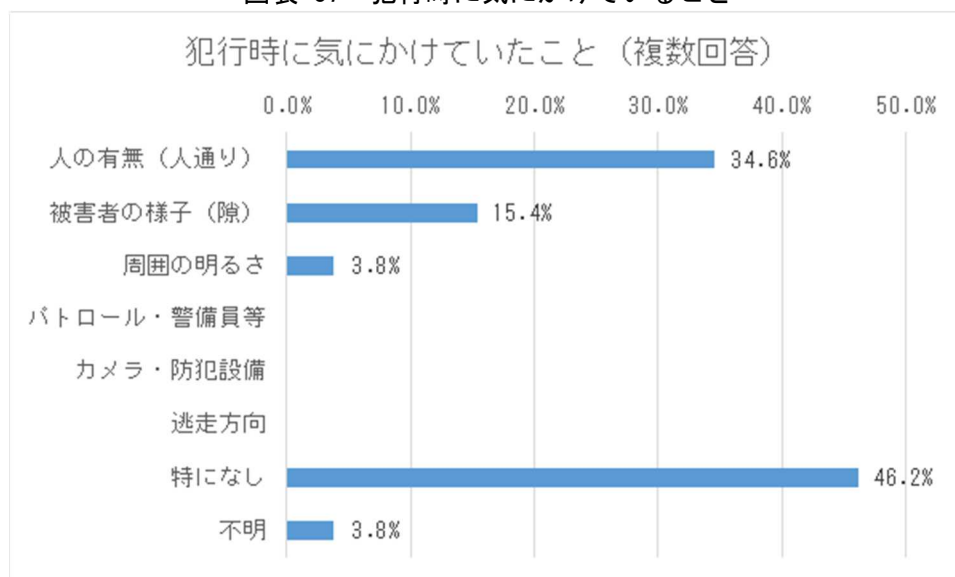
(2) 被疑者・行為者の状況

被疑者・行為者が犯罪等を敢行する場所として、「土地勘あり」、「被疑者等の通学・通勤経路」、「被疑者等の自宅付近」のいずれかに該当する割合は53.8%となっている。また、被疑者・行為者の34.6%が犯行時に人通りの有無を気にしている。

図表 36 犯行場所の選定理由

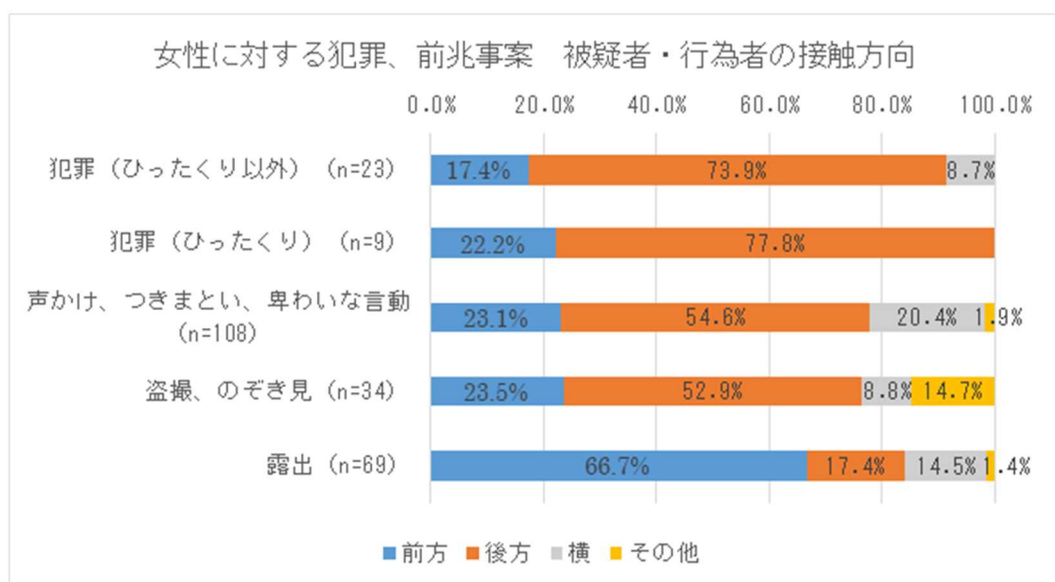
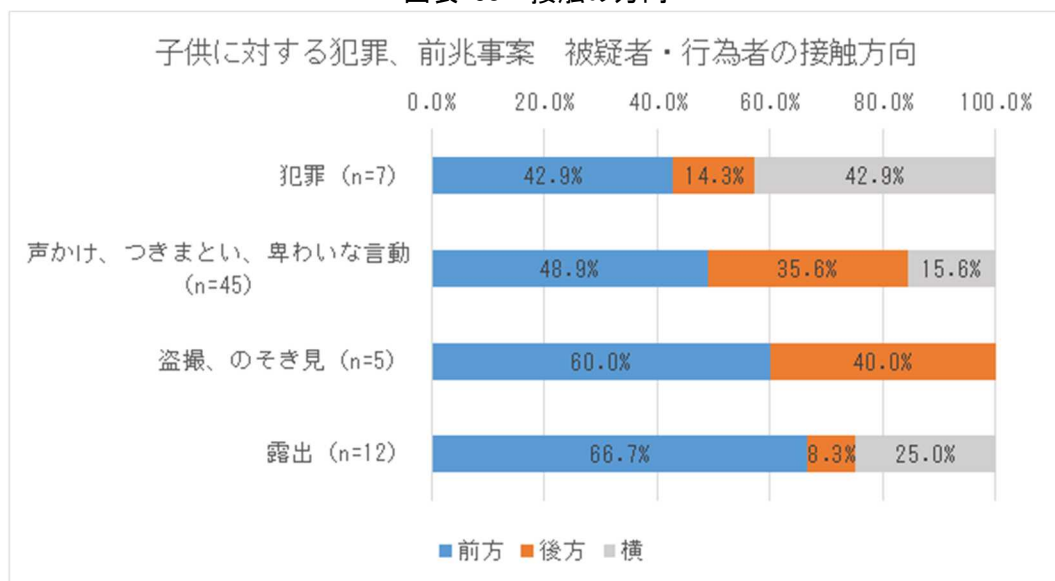


図表 37 犯行時に気にかけていること



また、女性を対象とした事案は露出を除くと前方からの接触に比べ後方からの接触の方が多いのに対し、子供に対する事案は後方からの接触に比べ前方からの接触の方がやや多い。

図表 38 接触の方向

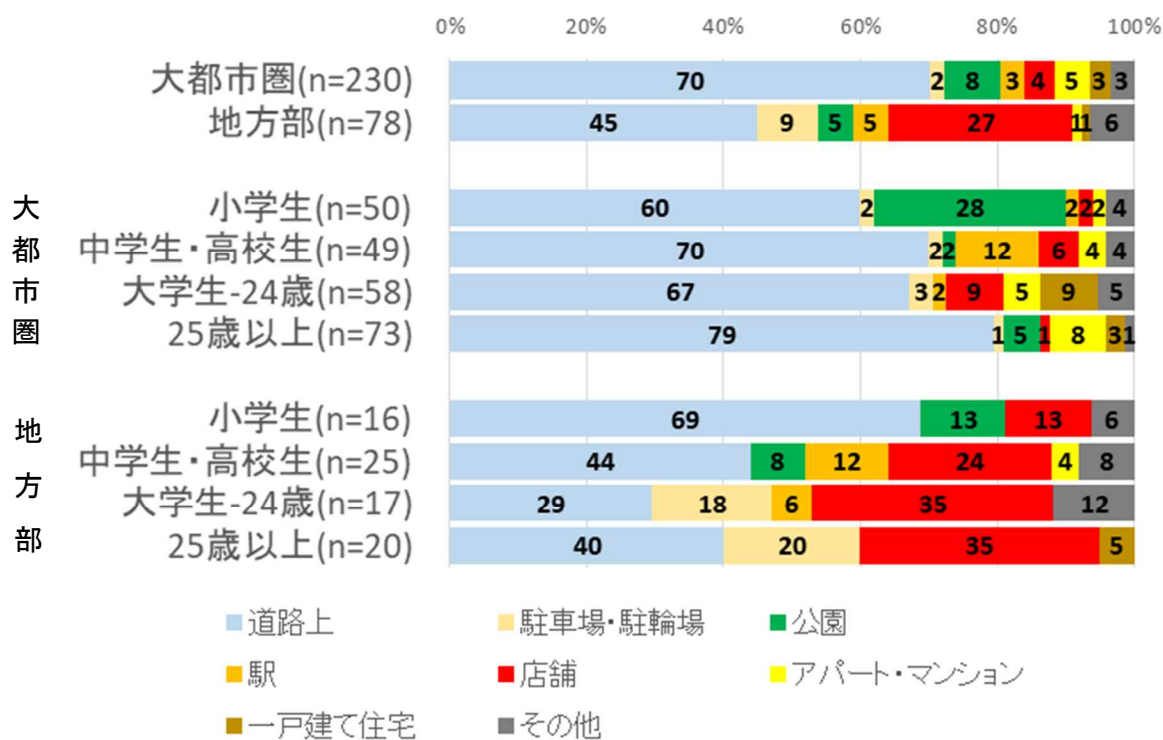


(3) 発生場所

大都市圏では、地方部に比べて道路上の占める割合が高い。また、大都市圏では、年齢層が上がるにつれて道路上の割合が高くなることから、深夜移動中の被害が多いと考えられる。

地方部では、道路以外の発生の占める割合、特に店舗の割合が高い。

図表 39 被害の発生場所

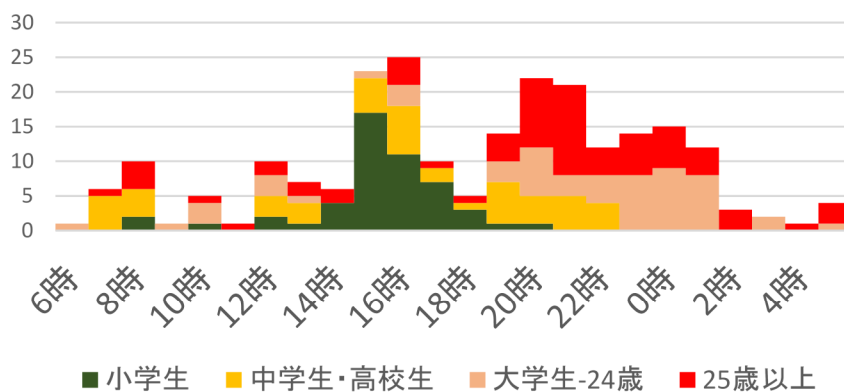


資料) 科学警察研究所分析資料

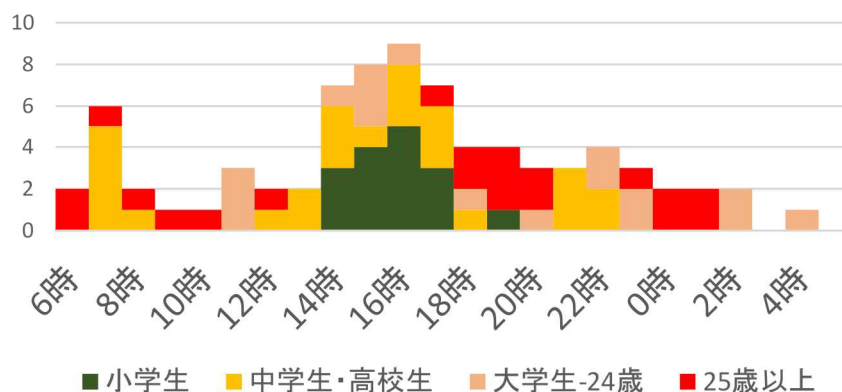
(4) 発生時間

被害発生時間は、大都市圏では、警視庁調査と同様のパターンが見られ、主要なピークは夕方と夜間の2つであるが、地方部では、夕方のピークのみとなっている（ただし、地方部では朝方のピークも相対的に目立っている）。

図表 40 被害の発生時刻
大都市圏



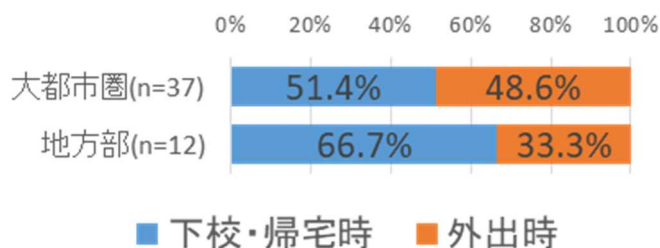
地方部



資料) 科学警察研究所分析資料

小学生の被害について、地方部では、下校後外出の被害の占める割合は相対的に小さい。

図表 41 小学生の被害（下校帰宅時・外出時別）



資料) 科学警察研究所分析資料

1-3. 実地調査から見た各モデル地区における典型性の高い犯罪等が発生した場所の特徴等

(1) 具体的な場所毎の特性

本調査研究では、実地調査の結果から、公共空間の中でも特に事案発生が多い場所、典型性が高いと考えられる場所を「道路上」「駐車場・駐輪場」「公園」「集合住宅の共用部分」に分類し、犯罪企図者の行動や被害者の行動、発生場所の特徴等について整理した。

① 道路上

1) 子供を対象とした犯罪・前兆事案

前兆事案について、登下校時に住宅街の通学路上で声をかけられた事案や、放課後児童クラブ、友人宅や公園から住宅街の道を帰宅する途中で発生した事案が見られた。特に、早朝の通学時間帯は歩行者が少ないことから監視性が低くなることがあるし、部活動等で通常の通学時間帯より早く登校する場合には他の子供がおらず監視性が低下することもあると考えられる。

2) 女性を対象とした犯罪・前兆事案

a) 道路の片側の監視性が低下している場所

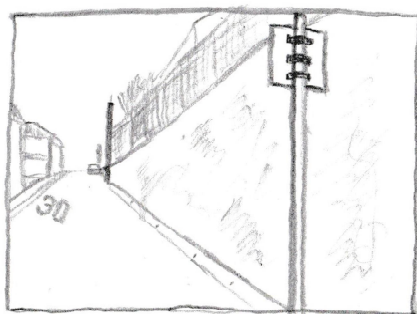
犯罪については、線路・田畑沿いの道路、片側が崖になっている高台の歩道、学校敷地の擁壁となっている道路、片側が駐車場やビルの駐車スペースとなっている道路等、道路の片側の監視性が低い路上で夜間に発生する事案が多く見られた。

大都市圏での具体的な事案としては、急な下り坂で片側が学校の擁壁（イラスト1）、反対側が高台にある住居への階段となっている監視性の低い道路上で夜間に発生した事案、片側が線路で反対側が共同住宅一階の共用部分である路上（イラスト2）で夜間に発生した事案が見られた。

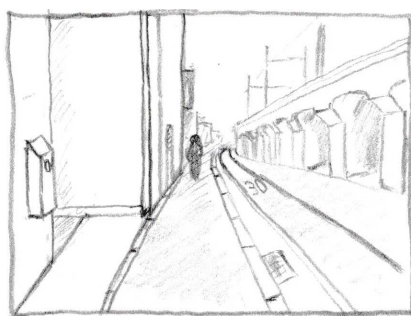
地方部での具体的な事案としては、空き店舗が多くなった駅前付近の線路に面した道路上で夜間に発生した事案、片側に田畑が広がる住宅街の道路上等で夕方に発生した事案が見られた。また、高台に造成された住宅地の端にある駅から通じる自転車・歩行者専用道路で、空き地に面する等の周辺監視性が低下する場所で夜間に発生した事案も見られた。

前兆事案については、変電所や路地裏、シャッターの下りた店舗にはさまれた道路上で声をかけられた事案、集合住宅一階の駐車場脇に止めた車の中での露出事案、片道に二車線の幅の広い道路脇の歩道で交通量の少ない夜間に発生した事案、自転車で夕方に帰宅途中に車両で追跡され中古車置き場と田畑の間を通る道路上で被害に遭った事案が見られた。

(参考：道路の片側の監視性が低下している場所の例)



(イラスト1)



(イラスト2)

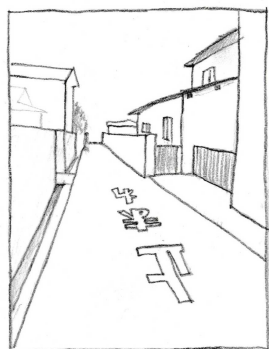
b) 人通りや車の交通量が比較的多い道路から一本入った人通りの少ない住宅街の道路上

犯罪については、大都市圏、地方部ともに、人や車の通りが比較的多い道路から一本入った、付近の住民しか通らないような住宅街の道路上で夜間に発生する事案が多く見られた。このような場所は、街灯が少ないため夜間は暗く人通りも少ないことから、時間帯によっては監視性を期待しにくいことが考えられる。

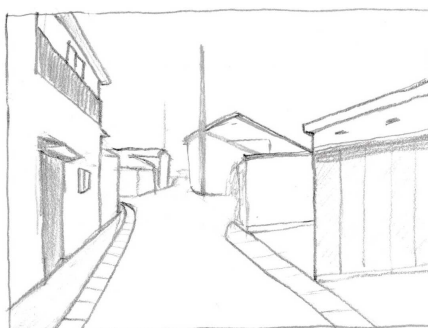
具体的な事案としては、大都市圏において被害者が最寄り駅から徒歩で帰宅している途中、背後から徒歩にて追跡され、人や車の通りが比較的多い道路から一本入った人通りの少ない住宅街の道路上で被害に遭う事案が多く、イヤホンや歩きスマホをしている場合でもしていない場合でも、追跡されていることに直前まで気が付かない事案が多く見られた。また、被害者が夜間に駅から徒歩で帰宅途中で追跡されていることに気が付いたため、商店街にある店舗に入って追跡を逃れようとしたものの追跡を振り切れず、人通りや車の交通量が比較的多い道路から一本入った人通りの少ない住宅街の道路(イラスト3)に入ったところで被害に遭った事案や、被害者が自宅の露見を恐れ、自宅を通り過ぎて人通りの少ない住宅街の道路から大通りに出ようとした途中で被害に遭った事案が見られた。

前兆事案については、被害者が農地の中にある住宅に入ろうとした際に発生した事案、駅近くの車一台程度の道幅の住宅街の路上(イラスト4)で昼間や夕方に発生した事案が見られた。

(参考：住宅街の道路上の例)



(イラスト3)



(イラスト4)

② 駐車場・駐輪場

1) 子供を対象とした犯罪・前兆事案

前兆事案については、ドラッグストアが営業している夜の早い時間帯に、駐車場に面する道路脇の歩道で子供が声をかけられた事案が見られた。この場合、犯罪企図者が駐車場の車内で待機していた可能性が考えられる。

2) 女性を対象とした犯罪・前兆事案

犯罪については、大都市圏・地方部を問わず、前面道路から奥まったところにある駐車場、住宅の裏側（玄関やベランダ、庭等が面していない側）等、監視性が低下している駐車場で発生している。

具体的な事案としては、車内にて物色していた犯罪企図者が夜間帰宅途中の被害者を追跡し、駐車場で犯行に及んだ事案や、被害者が徒歩で帰宅途中に後ろから追跡され、駐車場に入ったところで被害に遭った事案が見られた。

また、駅近傍の駐輪場から自転車に乗って帰宅しようとした際に駐輪場の出口付近で発生した事案が見られた。この場合、犯罪企図者が自転車の利用者を装っていた可能性が考えられる。

前兆事案については、駅から歩いてきて帰宅するために道路に面した駐車場内に入ったところ、突然犯罪企図者が現れて被害に遭った事案が見られた。この場合、犯罪企図者が駐車場内の車中で待機していた可能性が考えられる。

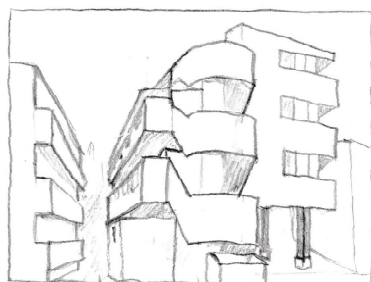
③ 集合住宅

1) 女性を対象とした犯罪・前兆事案

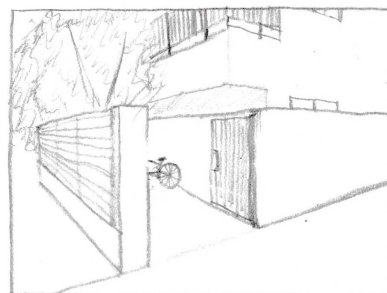
犯罪については、大都市圏・地方部ともに、被害者が夜間に駅等から徒歩で帰宅し、自宅にたどり着いた際にエントランス部分や階段部分（イラスト5）等の外部から見えにくい集合住宅の共用部分で被害に遭った事案が見られた。この中で、道路の片側が田畑や駐車場等監視性が低い場所で発生した事案、女性向けと思われる集合住宅において発生した事案が見られた。また、駅から追跡されブロック塀で死角となった空間や周囲からの視認性が乏しい共同住宅の共用スペースに押し込まれて被害に遭った事案も見られた。

前兆事案についても、被害者が夜間に駅から徒歩で帰宅し、交通量の多い道路から一本入った住宅街にある自宅の集合住宅についた際にエントランス部分（イラスト6）で被害に遭った事案、集合住宅の階段部分で声をかけられた事案、集合住宅の階段に面したルーパース窓から盗撮された事案が見られた。

（参考：集合住の共用部等の例）



（イラスト5）



（イラスト6）

④ 公園

1) 子供を対象とした犯罪・前兆事案

公園内の犯罪・前兆事案のいずれについても、具体的な場所としては、公園自体の監視性に問題は無いが、公園内の遊具に死角があり、そこで被害に遭った事案と、植栽や塀により公園内の監視性に問題が見られる事案の2パターンがあった。また、公園で遊んだ後に公園近傍の自宅に入ろうとした際に声をかけられた事案もあった。

一人で遊んでいる子供だけでなく、複数で遊んでいる子供も対象となる事案があった。また、犯罪企図者が公園内で物色していることが明らかな事案も見られた。

2) 女性を対象とした犯罪事案

犯罪について、大都市圏の比較的大きな公園で、自宅への近道である公園内の道路において、人通りの少ない平日昼間に徒歩で帰宅していた際に被害に遭った事案が見られた。

(2) 被害者と犯罪企図者の行動

① 被害者の行動

被害者の行動として、追跡された場合や被害に遭った場合に声を上げる、手足をバタバタさせる等の対応が取られた事案があり、このような事案では犯行がそれ以上エスカレートせずに被疑者が逃走している。また、通りがかった住民が声をかけることで被疑者が逃走した事案もあった。

ただし、被害者が抵抗することによって犯罪企図者を逆上させる場合もあることにも留意する必要がある。

② 犯罪企図者の行動

女性を対象とした事案について、大都市圏・地方部ともに、犯罪企図者が道路上をうろついたり、ジョギングや散歩を装ったり、車両等で移動したり、駐車した車中で待機したりしながらターゲットを物色し追跡した上で、犯行に及んでいる事案が見られた。

また、特に大都市圏において、電車やバスといった公共交通機関の車内で対象を物色して追跡する事案や、駅改札口に立ってターゲットを物色し追跡する事案が見られた。

2 予防行動等に関する内容について

2-1. アンケート調査結果から見た行動内容

本調査研究では、各地区内ごとに1又は2の小学校の小学生（2・5年生）及びその保護者と、1の大学の女子大生に対してアンケート調査を実施し、日常生活行動や防犯意識・防犯行動、自宅と小学校・大学との間の不安箇所、危険体験時の行動の実態等を把握した。

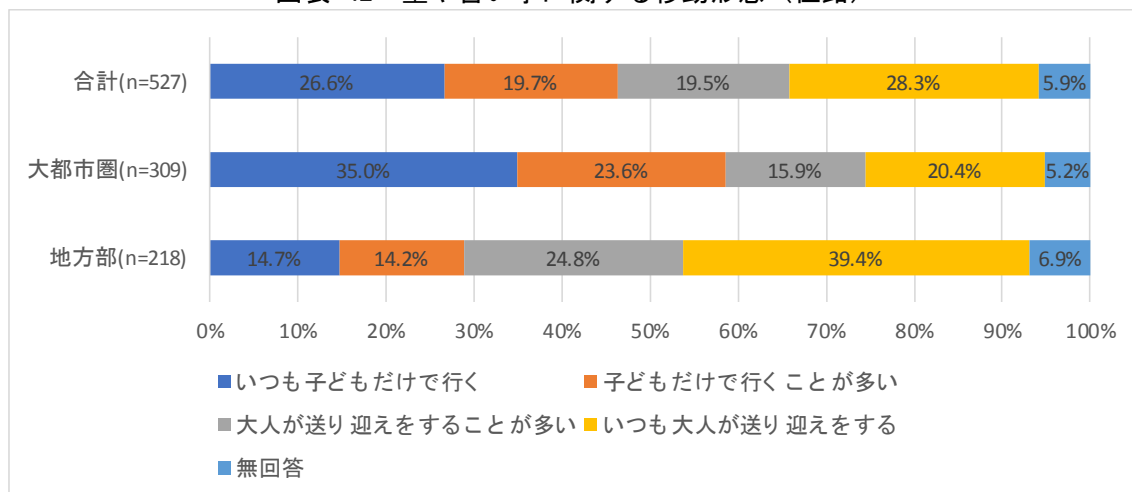
（1）日常的な生活行動

① 小学生

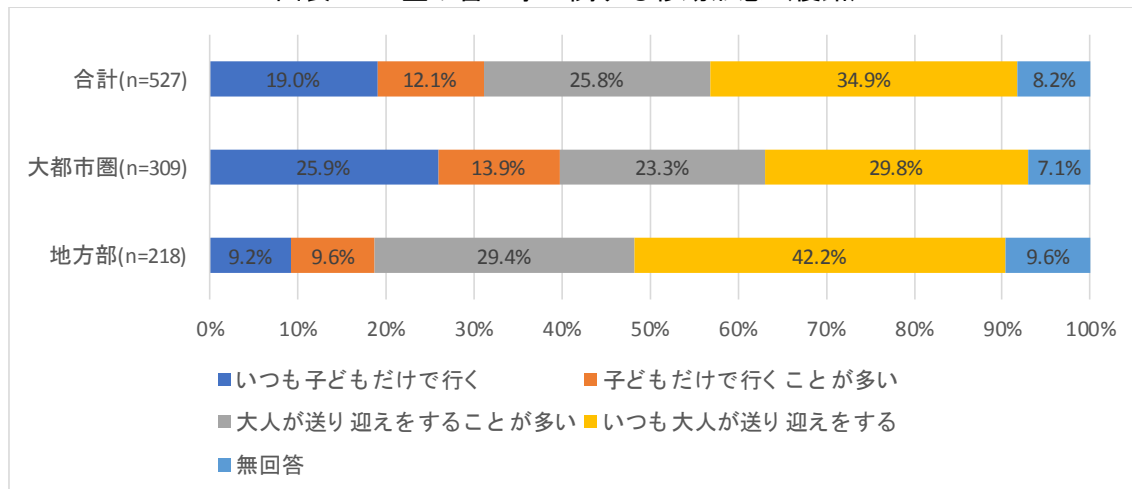
行動するときの同伴者等に関する質問への回答では、塾や習い事については、大都市圏では子供だけで行く割合が高く、地方部では大人が送り迎えすることが多くなっている。これは、大都市圏では徒歩・自転車等での移動が多いのに対して、地方部では車での送迎等が必要になることが要因の1つと考えられる。なお、友人宅や図書館、公園等その他の用途等の行動では同伴者等に関する地域毎の差は見られない。

登下校時の交通手段や下校時間帯における大人の在宅状況について地域毎の差は見られなかった。

図表 42 塾や習い事に関する移動形態（往路）



図表 43 塾や習い事に関する移動形態（復路）



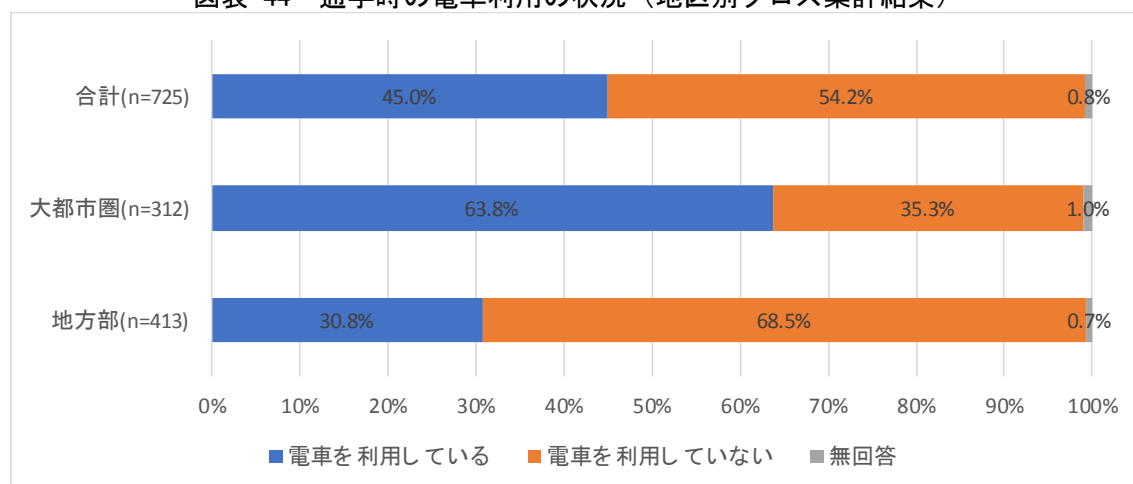
② 女子大生

通学時の交通手段は、大都市圏では比較的電車利用が多く、地方部では電車を利用していない割合が高い。通学で電車を利用していない場合、大都市圏では徒歩通学が多いが、地方部では徒歩・自転車概ね同程度の割合となっている。

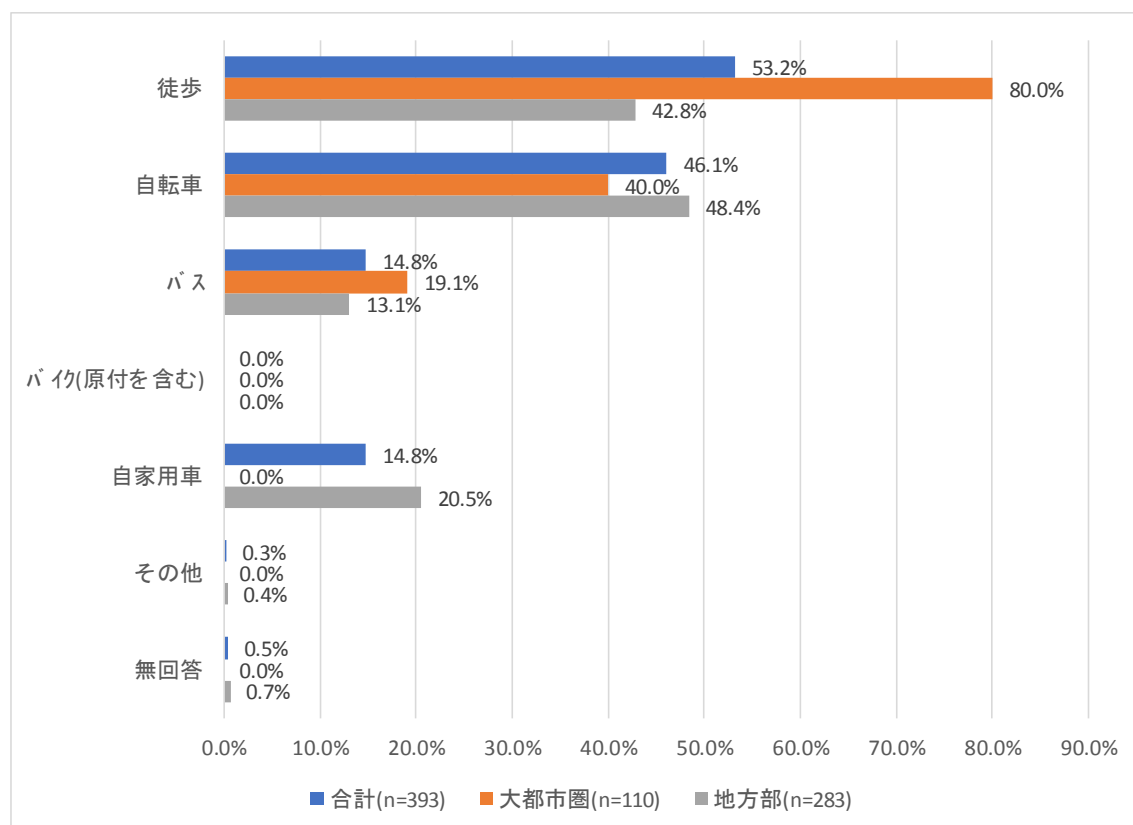
また、通学以外で利用する交通手段は、大都市圏・地方部ともに、自転車・バス・電車が主たる交通手段であるが、地方部の方が自転車利用の割合が高く、電車利用の割合が少ない。

大都市圏より地方部の方が一人暮らしの割合が高い一方で、帰宅が夜9時を過ぎる頻度、深夜0時を過ぎる頻度いずれも、都市と地方部でほとんど差は見られない。

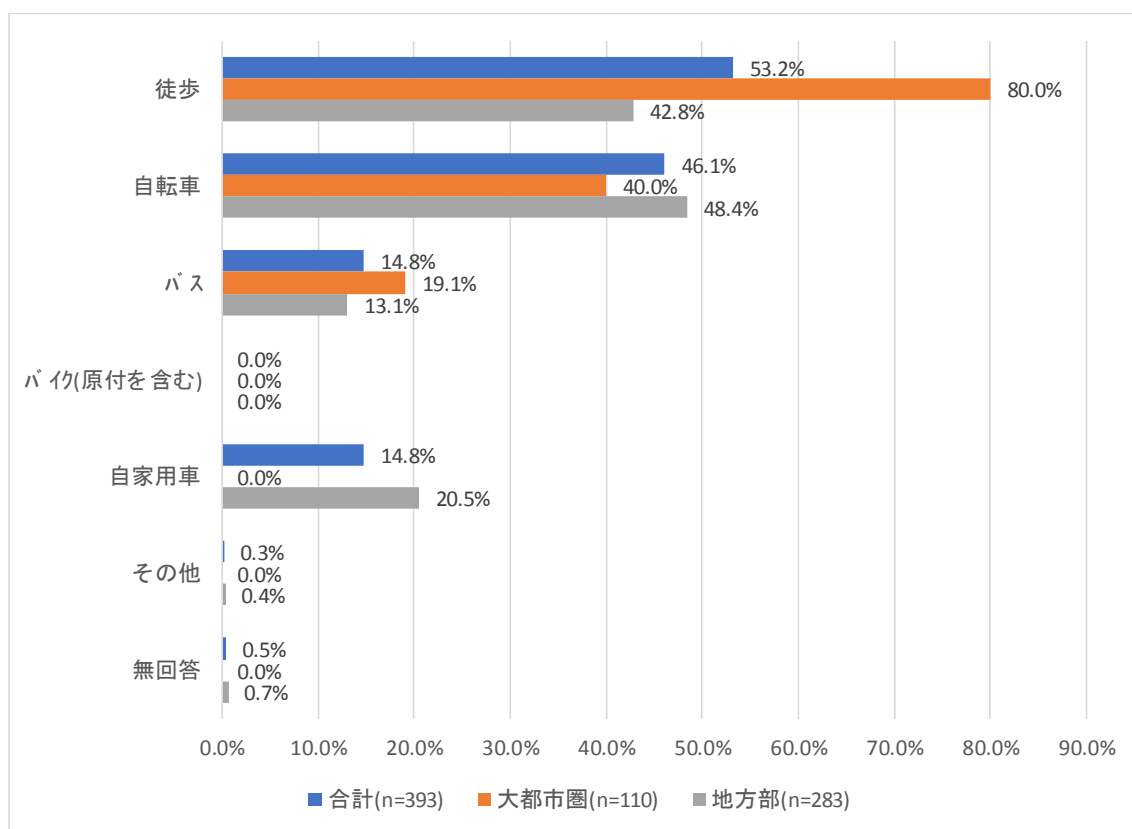
図表 44 通学時の電車利用の状況（地区別クロス集計結果）



図表 45 自宅から大学までの交通手段（電車非利用者）（地区別クロス集計結果）



図表 46 通学時以外に利用する交通手段（地区別クロス集計結果）

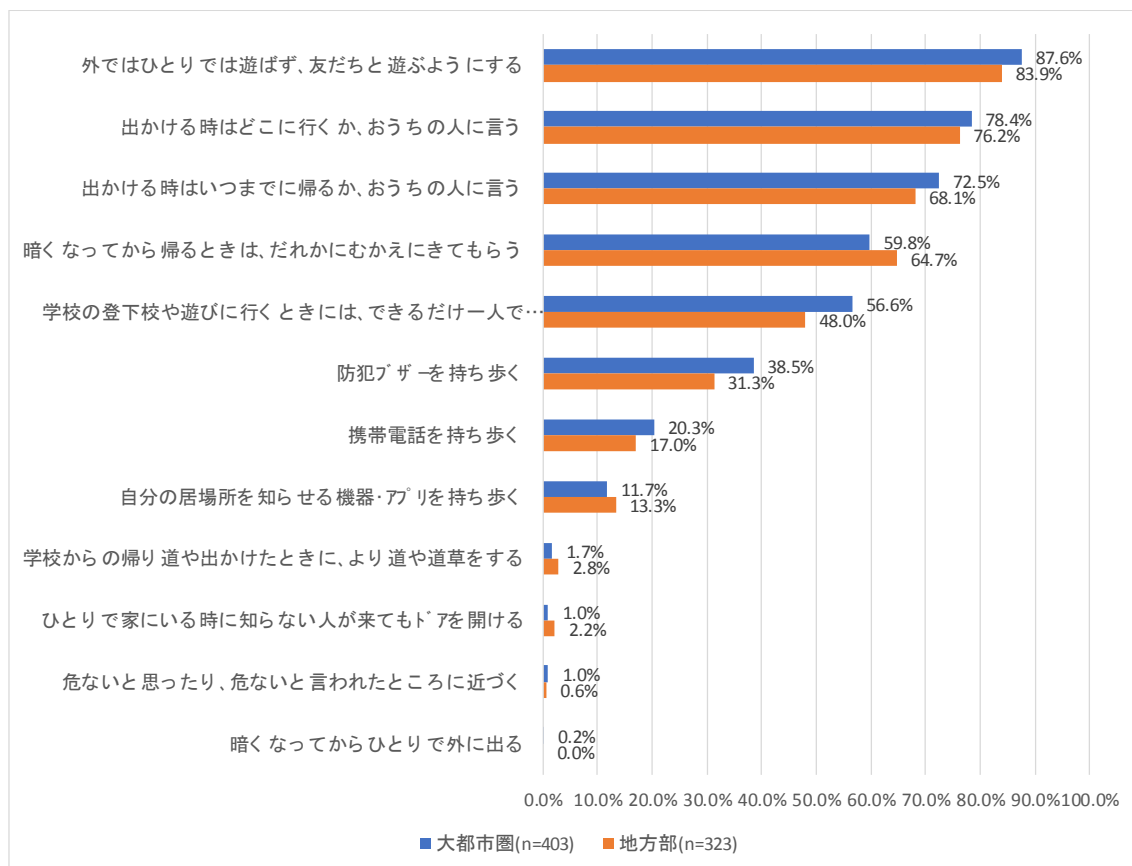


(2) 平時における防犯行動

① 小学生

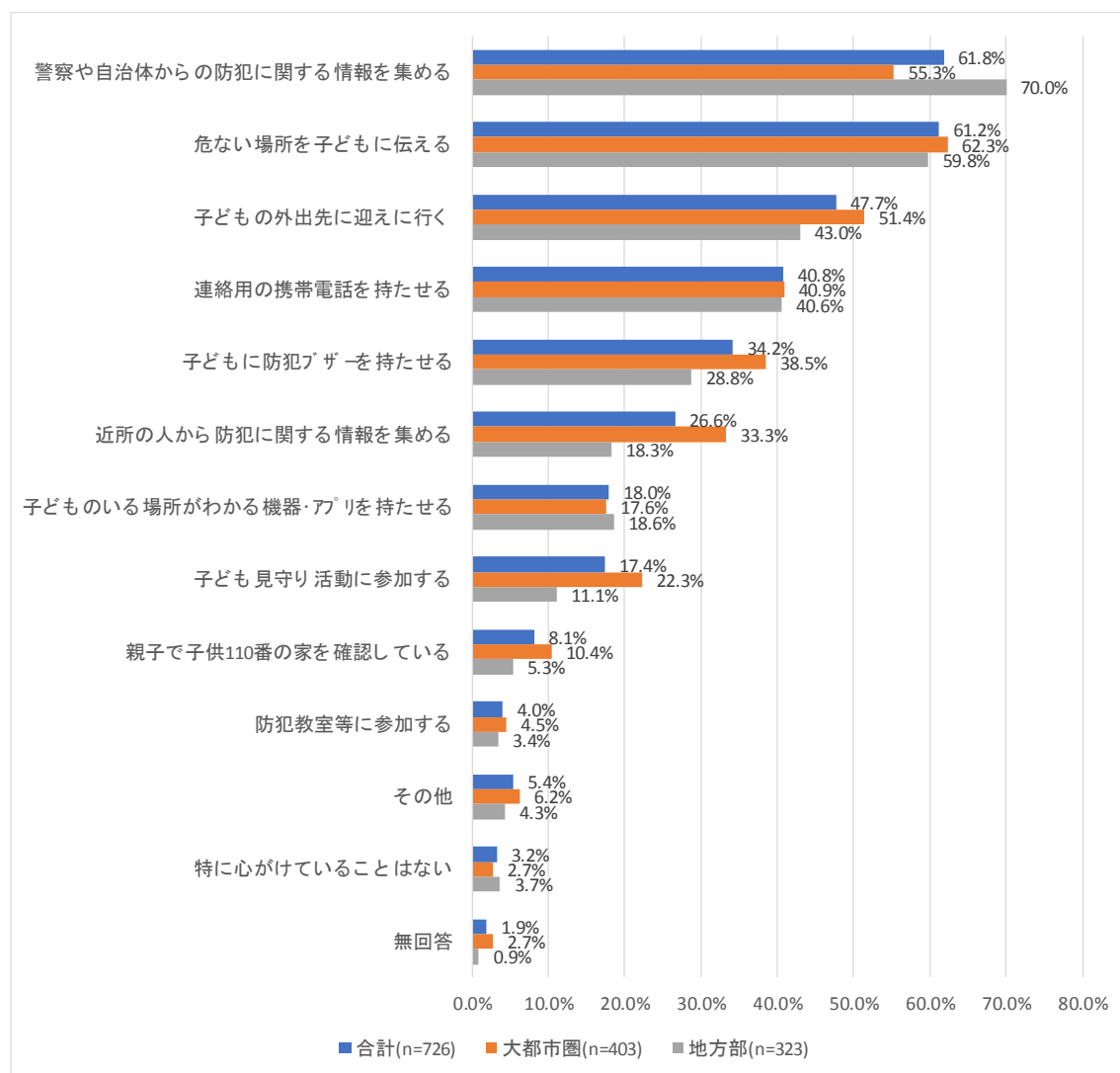
子供が日常的に気をつけていることについては、「外ではひとりでは遊ばず、友達と遊ぶようにする」が最も多く、次いで「出かけるときはどこに行くか、おうちの人に言う」「出かけるときはいつまでに帰るか、おうちの人に言う」の順となっており、大都市圏と地方部で大きな差はない。一方で、「防犯ブザーを持ち歩く」「携帯電話を持ち歩く」については、「いつもする」の割合は低く、特に地方部の方が低い傾向が見られる。

図表 47 日常的な対策の状況（「いつもする」の割合）（地区別クロス集計結果）



親が心がけていることについては、「警察や自治体からの防犯に関する情報を集める」（61.8%）と「危ない場所を子供に伝える」（61.2%）の2項目が突出して高く、次いで「子供の外出先に迎えに行く」（47.7%）「連絡用の携帯電話を持たせる」（40.8%）の順となっている。大都市圏と地方部の違いを見ると、地方部では「警察や自治体からの防犯に関する情報を集める」が、大都市圏では「子供に防犯ブザーを持たせる」「近所の人から防犯に関する情報を集める」「子供見守り活動に参加する」が比較的高い。

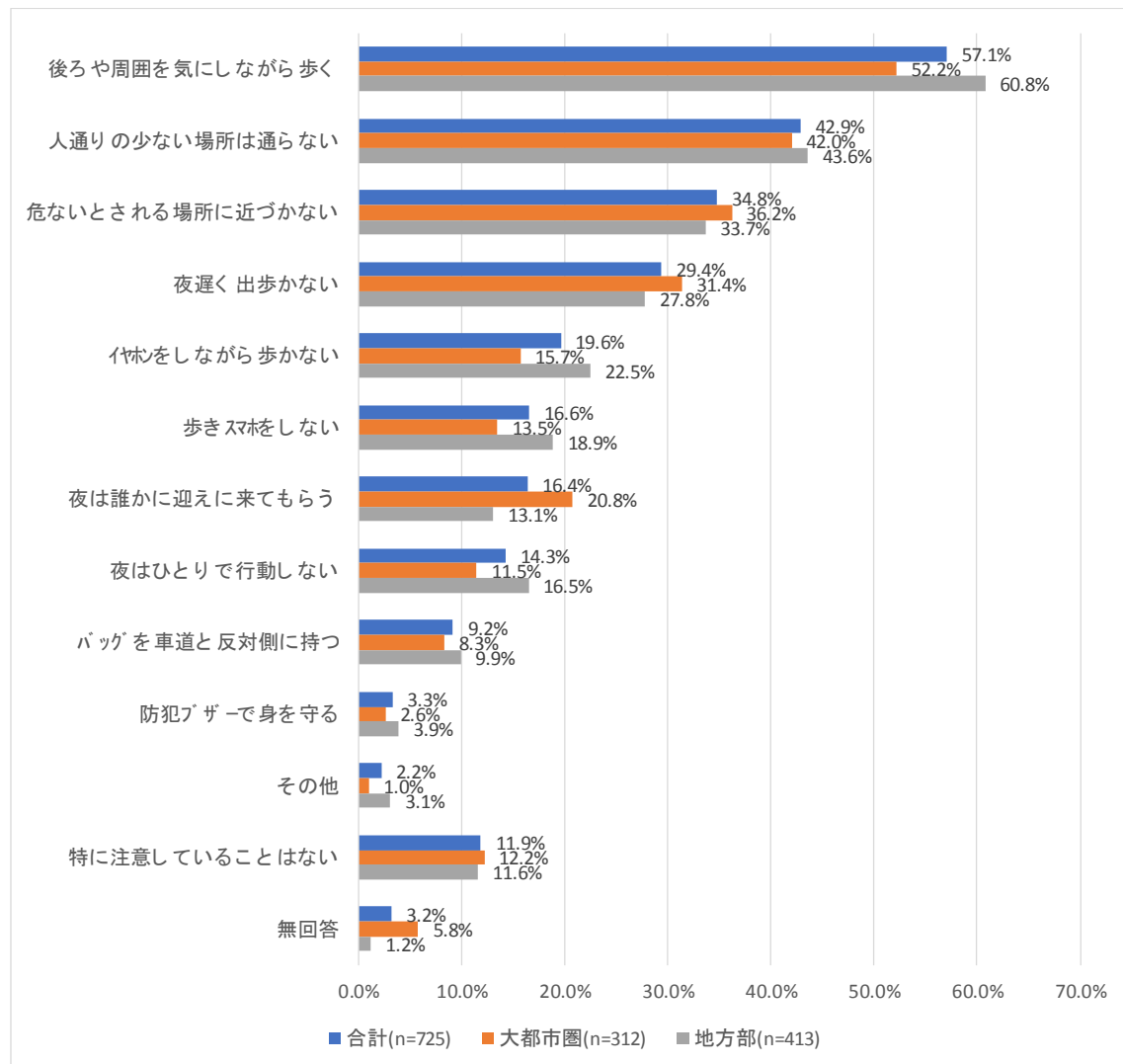
図表 48 子供を犯罪から守るために心がけていること（地区別クロス集計結果）



② 女子大生

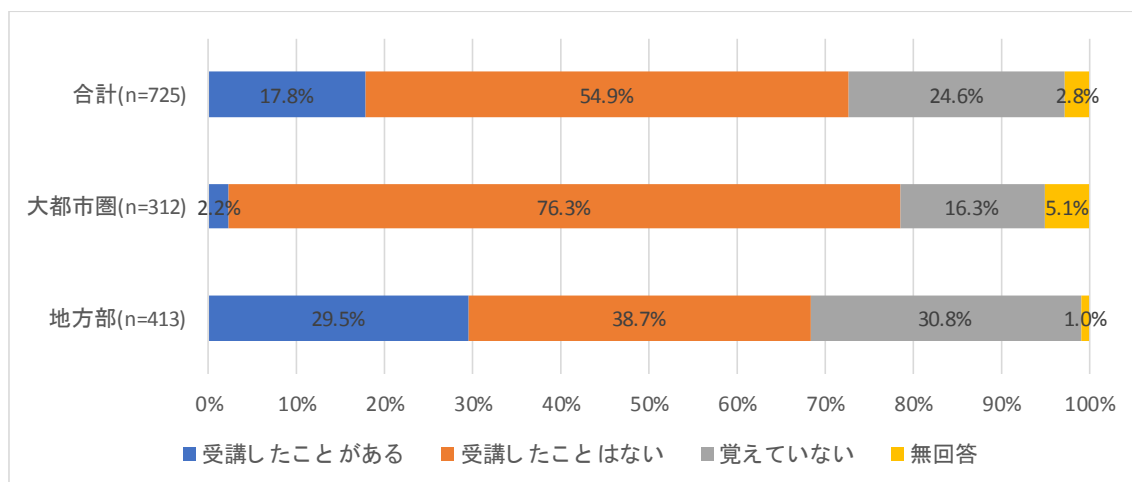
日常的な対策の状況については、「後ろや周囲を気にしながら歩く」（57.1%）が最も多く、次いで「人通りの少ない場所は通らない」（42.9%）「危ないとされる場所に近づかない」（34.8%）の順に多くなっており、大都市圏と地方部で大きな差はみられない。

図表 49 日常的な対策の状況（地区別クロス集計結果）



大学入学以降、防犯教室等を受講した経験について見ると、大都市圏では地方部と比べて受講したことがないとの割合が非常に高い。

図表 50 大学入学以降、防犯教室等を受講した経験（地区別クロス集計結果）

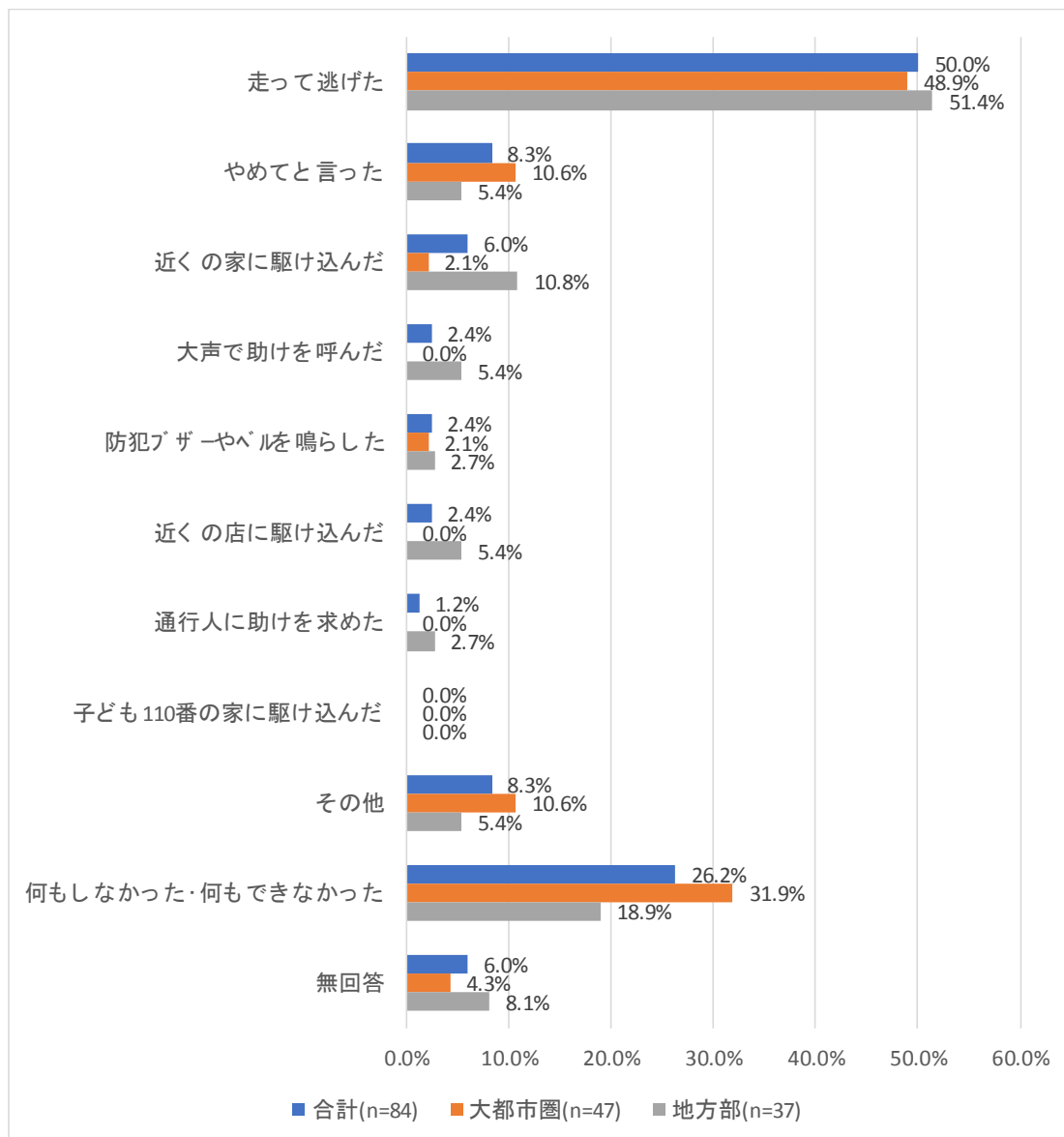


(3) 危険体験をしたときとその後の行動

① 小学生

被害直後に取った子供の行動について見ると、「走って逃げた」が半数を占め最も多くなっている。一方、「何もしなかった・何もできなかった」とした人の割合も約3割程度を占めている（※）。

図表 51 被害直後の子供の行動（地区別クロス集計結果）



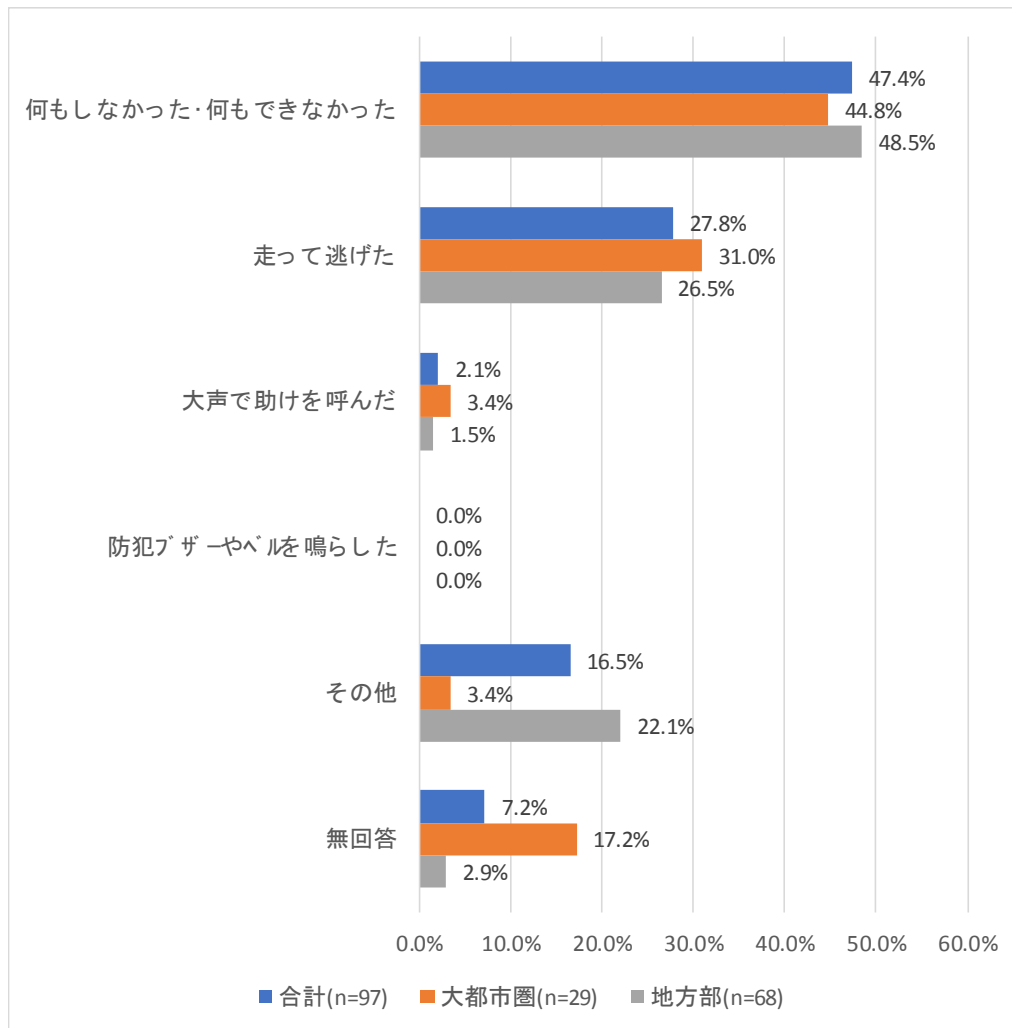
（※）「何もしなかった・何もできなかった」と回答した理由については、今回は調査していない。そのため、防犯教室等を受講しておらず被害時の行動について知識がなかったからなのか、知識はあったものの行動に移せなかったのか等は不明。

② 女子大生

犯罪・危険体験の直後の行動について見ると、半数が「何もしなかった・何もできなかった」（※）、次いで「走って逃げた」（27.8%）となっており、地域差はみられない。

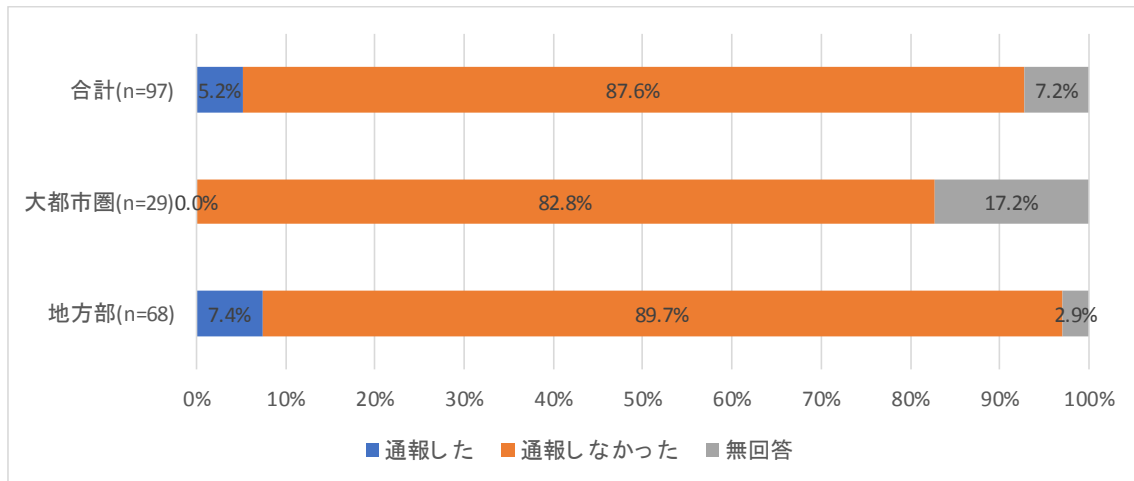
犯罪・危険体験時の警察への通報状況について見ると、ほとんどの人が「通報しなかった」としている。

図表 52 被害直後の行動（地区別クロス集計結果）



（※）「何もしなかった・何もできなかった」と回答した理由については、今回は調査していない。そのため、防犯教室等を受講しておらず被害時の行動について知識がなかったからなのか、知識はあったものの行動に移せなかったのか等は不明。

図表 53 通報状況（地区別クロス集計結果）

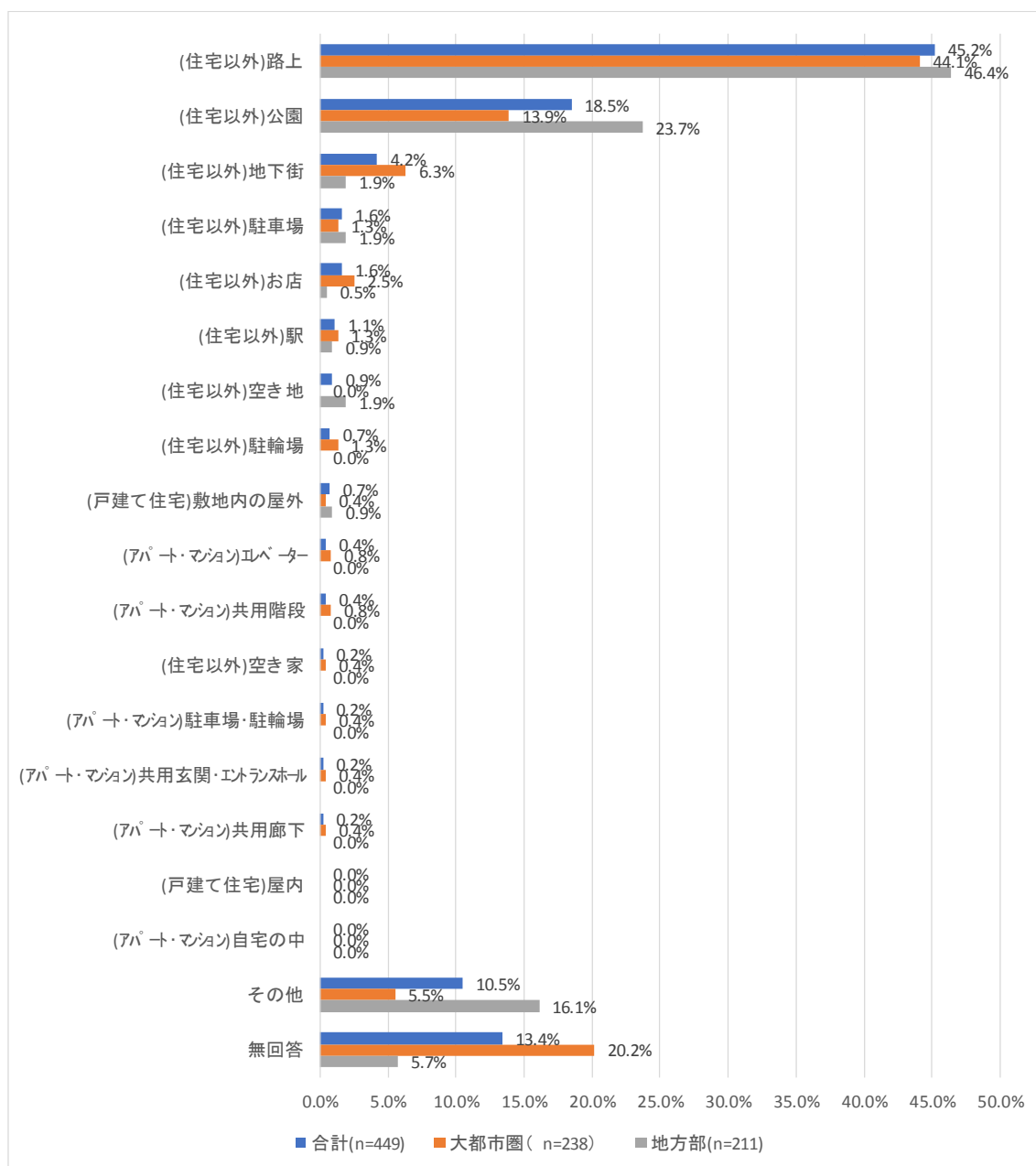


(4) 不安に思う箇所の状況

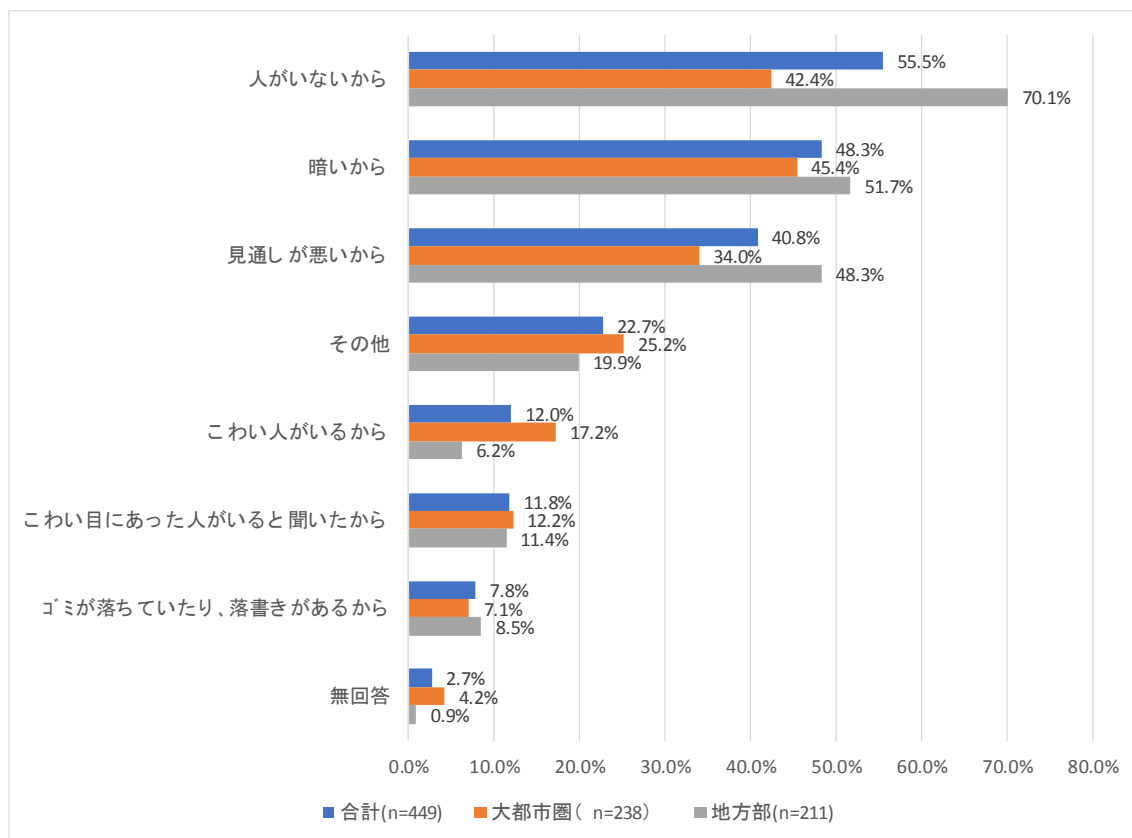
① 小学生

「路上」との回答が多いが、大都市圏では地下街がやや高く、地方部では公園の割合が高い。不安に思う理由としては、「人がいないから」「暗いから」「見通しが悪いから」の割合が高いが、特に地方部では「人がいないから」となっている。また、大都市圏では「こわい人があるから」の割合が高くなっている。

図表 54 不安箇所の種類（地区別クロス）



図表 55 不安に感じた理由（地区別クロス）

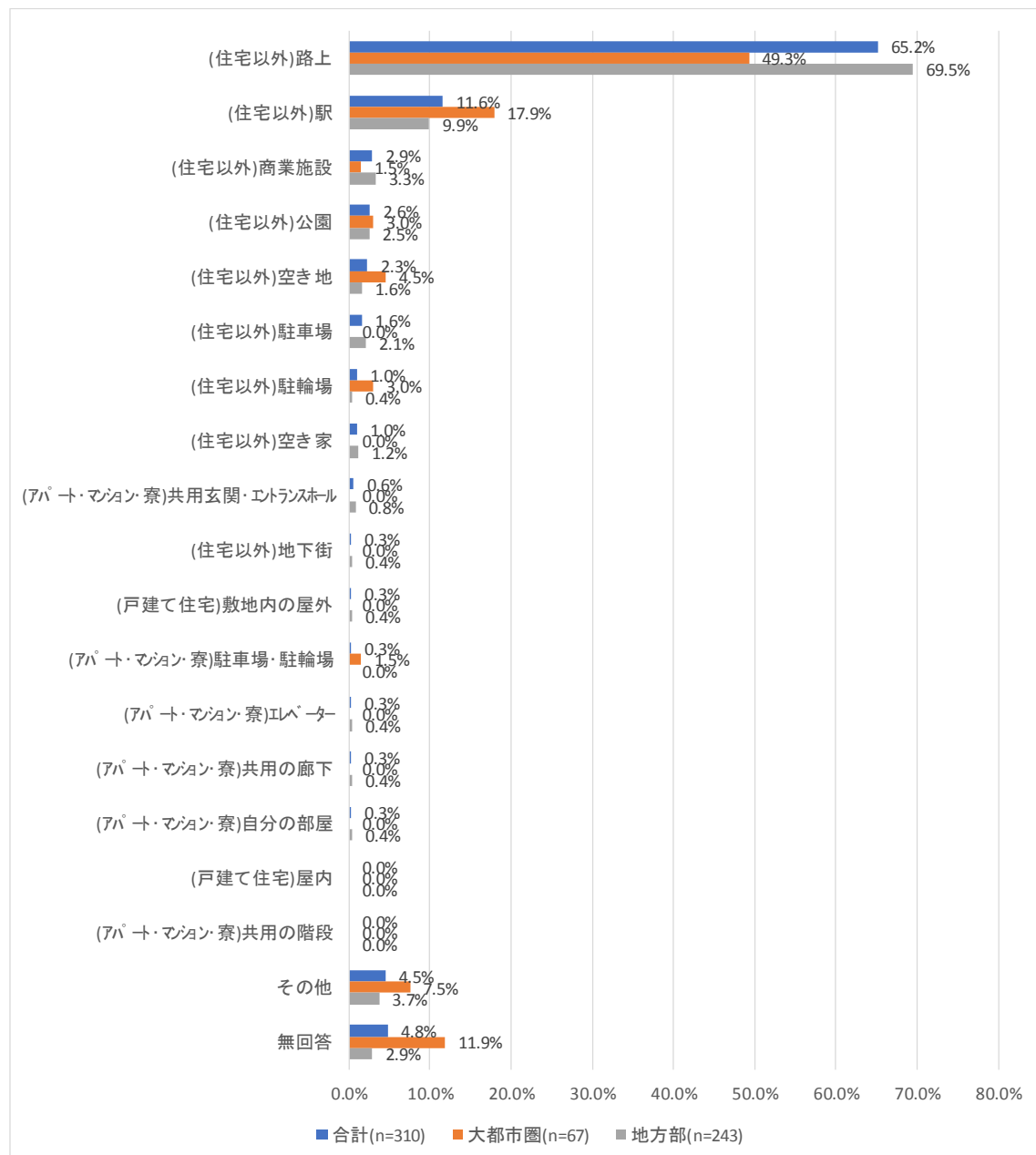


② 女子大生

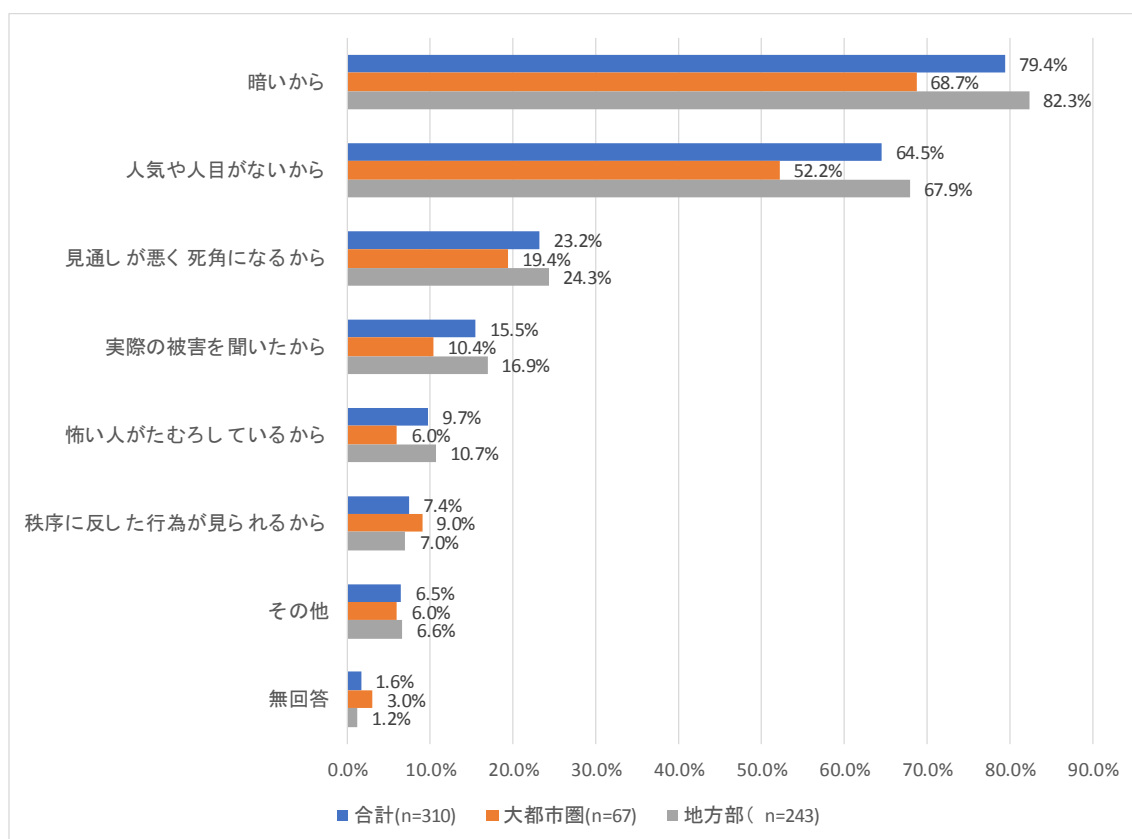
アンケート調査結果によれば、「路上」での不安が圧倒的に多く、地方部の方が大都市圏よりも不安と思う割合は高い。一方で、大都市圏では地方部に比べて「駅」「空き地」の割合がやや高くなっている。

不安に思う理由としては「暗い」「人気や人目がない」が多く、大都市圏と比べて地方部の方がその割合は高い。これは、地方部の方が暗い場所・人気や人目がない場所が多いことが要因の一つと考えられる。

図表 56 不安場所（地区別クロス集計結果）



図表 57 不安に感じた理由（地区別クロス集計結果）



③ 不安箇所と危険体験箇所・犯罪発生場所のずれ

小学生・大学生を対象としたアンケート調査では、危険体験と不安箇所についてモデル地区の地図上に記載する形で回答を得ており、その結果を基にモデル地区の地図を 50m 四方のセルに区切ったメッシュデータとして整理した。

この結果として、危険体験箇所のうち不安箇所にも該当するセルの割合は、田川市小学生 A が最も低く 16.7%、次いで相模原市南区大学生が 42.9%と低かった。つまり、これらの地域では不安とっていない場所で危険体験にあった割合が高いことになる。

また、アンケート対象地区内での実際の犯罪発生場所のうち不安箇所にも該当するセルの割合は、女子大生については福岡県田川市を除いて極端に低い。つまり、不安であると感じていない場所で実際の犯罪が発生していることになる。

この要因の一つとしては実際の犯罪発生場所が通学路等よく利用するエリアから離れている場合には不安と感じる機会がないことから不安箇所として回答がなく、結果として、犯罪発生箇所のうち不安箇所に該当するセルの割合が低くなったことが考えられる。

図表 58 不安箇所と危険体験箇所のずれの状況

アンケート対象		50mメッシュの全セル数	不安箇所セル数	危険体験セル数	刑法犯（子供）	刑法犯（女性）	危険体験箇所のうち、不安箇所にも該当するセルの割合	犯罪発生（子供）箇所のうち、不安箇所にも該当するセルの割合	犯罪発生（女性）箇所のうち、不安箇所にも該当するセルの割合
					発生セル数	発生セル数			
横浜市鶴見区	小学生	1,040	313	96	1		76.00%	0.00%	
	大学	483	111	29		7	93.10%	—	14.29%
相模原市南区	小学生	1,591	368	84	2		73.80%	100.00%	—
	大学生	528	44	14		8	42.90%	—	12.50%
名古屋市瑞穂区	小学生	1,260	49	2	1		0.00%	0.00%	—
	大学生	504	130	11		13	81.80%	—	30.77%
愛知県みよし市	小学生	2,080	297	22	0		77.30%	犯罪発生セルなし	—
	大学生	483	39	1		1	100%	—	0.00%
広島県福山市	小学生	2,200	328	49	2		63.00%	0.00%	—
	大学生	2,709	148	38		32	68.40%	—	6.25%
福岡県田川市※)	小学生A	2,475	95	12	1		16.70%	0.00%	—
	小学生B	1,320	49	11	1		100.0%	0.00%	—
	大学生	462	266	45		11	97.80%	—	72.73%
合計	小学生	11,966	1,499	276	8		71.01%	25.00%	—
	大学生	5,169	738	138		72	81.88%	—	22.22%

※) 田川市では2つの小学校を対象としてアンケート調査を実施しており、それぞれの結果を「小学生 A」「小学生 B」として整理している。

注) 子供については刑法犯の発生件数が少ないため、不安箇所と重なるセル数も小さくなる可能性があることに留意が必要である。

2-2. ワークショップから得られた結果

本調査研究では、アンケート調査に協力頂いた小学生・女子大生のうち一部を対象としてワークショップを実施し、アンケート調査結果や実地調査結果を通じて得られた結果の還元と犯罪が起きやすい場所についての説明を行った。加えて、女子大生については、今後の防犯行動・防犯対策や望ましい情報発信の方法等について、グループディスカッションを行った。

以下では、女子大生を対象としたワークショップから得られた防犯行動・防犯対策に関する意見や望ましい情報発信の方法について整理した。

(1) 防犯行動や防犯対策に関する意見

自らがとるべき防犯行動として、事前に逃げ込むことができるような店舗等について確認しておいた上で、実際の歩行時には逃げ道を意識して周りの状況を確認しておくことや、防犯ブザーを持ち歩くこと、両手を使えるようにしておくこと等の対策をとる必要があるとの意見があった。

また、そもそも被害に遭う可能性のある時間・場所を回避するため、友人宅に宿泊する等による夜間の一人歩きの防止や、細く人通りの少ない道を回避する等の意見もあった。

さらに、地域住民と連携した領域性の確保や、夜間に逃げこむことができる店舗・公共施設の確保等が必要との意見があった。

■事前に実施しておくべき対策

- ・いざというときに逃げ込むことができるよう、普段利用する道のお店の場所や営業時間を確認しておく。

■歩行時にとるべき防犯行動

- ・逃げ道を意識し、常に周りの状況を確認しておく。
- ・ながら歩き（スマホを利用しながら、イヤホンを利用しながらの移動）を避ける。
- ・両手を使えるようにしておく。
- ・防犯ブザーを持ち歩く。
- ・夜間は懐中電灯や携帯のライトを利用する。
- ・露出の多い服装を避け、鞆のかけ方に注意し、常に鞆は閉めておく。
- ・車の真横を通行しない。
- ・携帯電話やスマホをすぐに取り出して利用できる（通報できる）ようにしておく。

■危険を感じたときにとる行動

- ・走ったり自転車等で逃げる。
- ・友人を呼んだり、電話をかけたりする。
- ・迷わず110番通報する。

■被害に遭う可能性のある時間・場所の回避

- ・細い道や人通りの少ない道、暗い道を通らないようにする。
- ・友人宅に宿泊する等により、夜一人で歩くことをできるだけ避ける。
- ・家族等に迎えに来てもらう。

■歩きやすい環境づくり

- 防犯カメラや街灯を増やす。
- 危険な場所を明示する。
- 街並みをきれいにする。
- 地域と連携したパトロール活動を強化する。
- 地域の人への挨拶や地域活動への参加等、地域の人との関わりを増やす。
- 公共施設や店舗等、地域と連携して逃げ込みやすい場所を作る。

■その他

- 公共交通を増やしたり、女性の深夜タクシー利用料金の補助等を設ける。

／等

(2) 望ましい情報発信の方法

防犯に関する情報発信の方法については、SNS の活用や大学からの情報発信が有効であるとの意見があった。

■SNS 等の利用

- 件名を工夫する等により、目に入りやすい SNS や LINE 等で積極的に周知する。

■大学と連携した情報発信

- 大学入学時の配布物と一緒に情報や防犯グッズを配布する。
- 大学ポータル等で発信する。

■著名人の起用

- 大学生向けの講座についても積極的に著名人を起用し、防犯対策・防犯行動を我がこととして捉えやすいように整備する。

■相談窓口の設置

- 相談窓口等を設置し、被害に遭ったときに相談しやすい環境作りを実施する。

■その他

- 広報車による注意喚起を行う。
- 防犯教室を開催する。

／等

V. 子供・女性を対象とした犯罪防止に向けた対策の方向性

1 犯罪等を防ぐ防犯まちづくりに関する取組の方向性

(1) 犯罪等が発生する空間・時間的特徴に着目した対策の方向性

① 犯罪等が発生する空間・時間的特徴

各調査の結果から、大都市圏・地方部それぞれについて、子供や女性を対象とした犯罪が発生しやすい状況について「犯罪企図者の行為」「場所」「時間」「被害者の行動」の4つの観点から整理して見ると、犯罪企図者の行動や被害者となり得る子供・女性の行動に大都市圏と地方部で違いがあり、それが犯罪リスクの高い空間特性や時間特性に影響を及ぼすと考えることができる。

例えば、GISを活用した分析の結果から、大都市圏では、ひったくりについては、日中は駅500m超エリアで発生リスクが高く夜間は駅500m以内エリアの発生リスクが高いことが示唆されたが、これは大都市圏では地方部に比べて深夜に徒歩で帰宅する人が多いことが影響していると考えられる。また、実態調査の結果から地方部では店舗での犯罪等の発生リスクが高いことが示唆されたが、これは地方部では車での移動が多いことから人の集まる店舗での発生リスクが高くなることが要因の一つであると考えられる。

地域の特性のみによって違いが明確に説明できるわけではないが、上記のように地域の特性によって人の行動様式が異なることにより、犯罪等が発生するリスクの高いエリアと時間帯が地域によって異なることには、今後の防犯対策を検討する上で十分留意する必要がある。

以下、今回の調査対象となったモデル地区で発生した事案を基に分析した結果見えてきた大都市圏と地方部の違いを整理している。ただし、対象とする地区が異なれば発生した事案も異なり、空間的特徴も異なるという点に留意が必要である。

【犯罪等が発生する空間・時間的特徴の分析内容について】

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～9:00)	日中 (9:00～15:00)	夕方 (15:00～18:00)	夜 (18:00～24:00)	深夜 (24:00～6:00)
ひったくり 以外	発生場所	【 全般的な傾向 】 駅や学校の周辺、公園の周辺の道路上での発生件数が多い				
		夜間に比べて発生件数は少ない			駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生
ひったくり	発生場所	【 全般的な傾向 】 駅や学校の周辺、戸建て住宅密集地(人が集まりやすい場所や監視性が低くなる場所)の道路上での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	「駅 500m 超エリア」でより多く発生	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生し次第に「駅 500m 以内エリア」での発生が多くなる	「駅 500m 超エリア」でより発生
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 後方から接触を図る傾向が強い 対象が一人で行動する時に犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (女子大生) の行動	通学時に電車利用する人が多く、大学が駅近くに立地することから駅から大学までは徒歩移動が考えられる。電車非利用者についても、徒歩での通学が多い				

発生場所は地理的特性分析の結果を基に記述。
全般的な傾向は発生リスクの高いエリアを記述。
下段は駅からの距離と時間との関係性の分析結果から記述。

発生場所に影響を及ぼし得る犯罪企図者と被害対象者の状況を記述。
犯罪企図者は実態調査^(※)(都市部・地方部の区分なし)、被害対象者はアンケート調査を踏まえて記述。

※今回の実態調査では調査期間が短かったこと等から、分析対象の事案数が限られていたことに留意が必要である。

図表 59 子供を対象とした犯罪の空間・時間的特徴（大都市圏）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
(すべて)	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校、公園周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 前方・後方いずれからの接触も同程度にあり得る 同行者がいても犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (小学生) の行動	塾通いや習い事については一人での行動が多い				

図表 60 子供を対象とした犯罪の空間・時間的特徴（地方部）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
(すべて)	発生場所	【全般的な傾向】 駅、公園周辺、大規模商業施設周辺で発生しやすい				
		発生件数は少ない	「駅 500m 超 エリア」で発生	「駅 500m 超 エリア」で発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 前方・後方いずれからの接触も同程度にあり得る 同行者がいても犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (小学生) の行動	塾通いや習い事については大人の送り迎えによる移動が多い				

図表 61 女性を対象とした犯罪の空間・時間的特徴（大都市圏）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
ひったくり 以外	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校の周辺、公園の周辺の道路上での発生件数が多い				
		夜間に比べて発生件数は少ない			駅からの距離 にかかわらず 発生	駅からの距離 にかかわらず 発生
ひったくり	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校の周辺、戸建て住宅密集地（人が集まりやすい場所や監視性が低くなる場所）の道路上での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	「駅 500m 超 エリア」でより 多く発生	駅からの距離 にかかわらず 発生	駅からの距離 にかかわらず 発生し遅い時 間帯ほど「駅 500m以内エリ ア」での発生が 多くなる	「駅 500m 超 エリア」でより 発生が多い
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 後方から接触を図る傾向が強い 対象が一人で行動する時に犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (女子大生) の行動	通学時に電車利用する人が多く、大学が駅近くに立地することから駅から大学までは徒歩移動が考えられる 電車非利用者についても、徒歩での通学が多い				

図表 62 女性を対象とした犯罪の空間・時間的特徴（地方部）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
ひったくり以外	発生場所	【全般的な傾向】 駅や公園の周辺、大規模商業施設周辺での発生件数が多い				
		夜間に比べて発生件数は少ない			「駅 500m 以内エリア」での発生が多く遅い時間帯ほど駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生
ひったくり	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校の周辺、駅周辺の住宅地（徒歩移動エリアが小さく駅周辺に比較的集中）の道路上での発生件数が多い				
		夜間に比べて発生件数は少ない			駅からの距離にかかわらず発生し、次第に「駅 500m 以内超」で発生が多くなる	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 後方から接触を図る傾向が強い 対象が一人で行動する時に犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (女子大生) の行動	通学時に電車を利用する人が少ない 電車非利用者については徒歩と自転車で通学が概ね同程度で多い				

図表 63 子供を対象とした前兆事案の空間・時間的特徴（大都市圏）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
声かけ・つきまとい・ 卑わいな言動	発生場所	【全般的な傾向】 学校、公園周辺、団地・集合住宅密集地での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
露出	発生場所	【全般的な傾向】 駅、学校、公園の周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	「駅 500m以内エリア」でより発生	「駅 500m超エリア」でより発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
盗撮・のぞき見	発生場所	【全般的な傾向】 学校、公園の周辺、団地・集合住宅密集地、大規模商業施設周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 前方・後方いずれからの接触も同程度にあり得る 同行者がいても犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (小学生) の行動	塾通いや習い事については一人での行動が多い				

図表 64 子供を対象とした前兆事案の空間・時間的特徴（地方部）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
声かけ・つきまとい・ 卑わいな言動	発生場所	【全般的な傾向】 公園周辺、駅周辺の住宅街、大規模商業施設周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
露出		(数が少ないため、分析せず)				
盗撮・のぞき見	発生場所	【全般的な傾向】 駅、学校、公園の周辺、大規模商業施設周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	発生件数は少ない	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 前方・後方いずれからの接触も同程度にあり得る 同行者がいても犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (小学生) の行動	塾通いや習い事については大人の送り迎えによる移動が多い				

図表 65 女性を対象とした前兆事案の空間・時間的特徴（大都市圏）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
声かけ・つきまとい・卑わいな言動	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校、公園周辺、幹線道路周辺での発生件数が多い				
		発生件数は少ない	主に「駅 500m 以内エリア」で発生	主に「駅 500m 超エリア」で発生	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生
露出	発生場所	【全般的な傾向】 駅や学校・公園の周辺、低層・戸建て住宅密集地での発生件数が多い（人が歩いている場所を狙い、時間帯によって場所が異なる）				
		「駅 500m 超エリア」でより発生	「駅 500m 超エリア」でより発生	駅からの距離にかかわらず発生	駅からの距離にかかわらず発生	発生件数は少ない
盗撮・のぞき見	発生場所	【全般的な傾向】 駅・学校の周辺、団地・集合住宅密集地での発生件数が多い				
		主に「駅 500m 以内エリア」で発生	「駅 500m 以内エリア」でより発生	駅からの距離にかかわらず発生	主に「駅 500m 超エリア」で発生	発生件数は少ない
共通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 後方から接触を図る傾向が強い 対象が一人で行動する時に犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 （女子大生） の行動	通学時に電車利用する人が多く、大学が駅近くに立地することから駅から大学までは徒歩移動が考えられる 電車非利用者についても、徒歩での通学が多い				

図表 66 女性を対象とした前兆事案の空間・時間的特徴（地方部）

罪種	視点	時間帯				
		朝 (6:00～ 9:00)	日中 (9:00～ 15:00)	夕方 (15:00～ 18:00)	夜 (18:00～ 24:00)	深夜 (24:00～ 6:00)
声 かけ・つきまとい・ 卑わいな言動	発生場所	【全般的な傾向】 駅周辺、幹線道路沿いの住宅地での発生件数が多い				
		「駅 500 m 以 内エリア」でよ り発生	「駅 500 m 以 内エリア」でよ り発生	駅からの距離 にかかわらず 発生	駅からの距離 にかかわらず 発生し、遅い時 間帯ほど「駅 500 m 超 エリ ア」で発生	「駅 500 m 超 エリア」でより 発生
露 出	発生場所	【全般的な傾向】 学校周辺や団地・集合住密集地、大規模商業施設周辺での発生件数が多い				
		「駅 500 m 超 エリア」でより 発生	駅からの距離 にかかわらず 発生	駅からの距離 にかかわらず 発生	「駅 500 m 以 内エリア」で発 生し、遅い時間 帯ほど駅から の距離にかか わらず発生	駅からの距離 にかかわらず 発生
盗 撮・ のぞき見	発生場所	【全般的な傾向】 駅周辺、大規模商業施設周辺（人の集まる場所）での発生件数が多い				
		発生は少ない	駅からの距離 にかかわらず 発生	「駅 500 m 以 内エリア」でよ り発生	「駅 500 m 超 エリア」でより 発生	発生件数は少 ない
共 通	犯罪企図者	土地勘がある場所を選ぶ傾向が強い 後方から接触を図る傾向が強い 対象が一人で行動する時に犯行に及ぶ傾向が強い				
	被害対象者 (女子大生) の行動	通学時に電車を利用する人が少ない 電車非利用者については徒歩と自転車で通学が概ね同程度で多い				

② 犯罪等が発生する空間・時間的特徴に着目した対策の方向性

犯罪・前兆事案いずれについても、大都市圏・地方部の違い、またモデル地区ごとの土地利用状況の違い（学校、住宅街、商業施設、歓楽街の立地等）や犯罪被害に遭う可能性のある人々の移動形態・経路の違いによって、発生する場所や時間帯が異なることが明らかとなった。各地域において、防犯パトロールの強化等のソフト対策や防犯カメラの設置等のハード対策を推進するに当たっては、各地域の特徴を踏まえてこれを実施することが重要であることが分かる。

【参考：犯罪等の空間・時間的特徴を踏まえた現在の取組の評価の例】

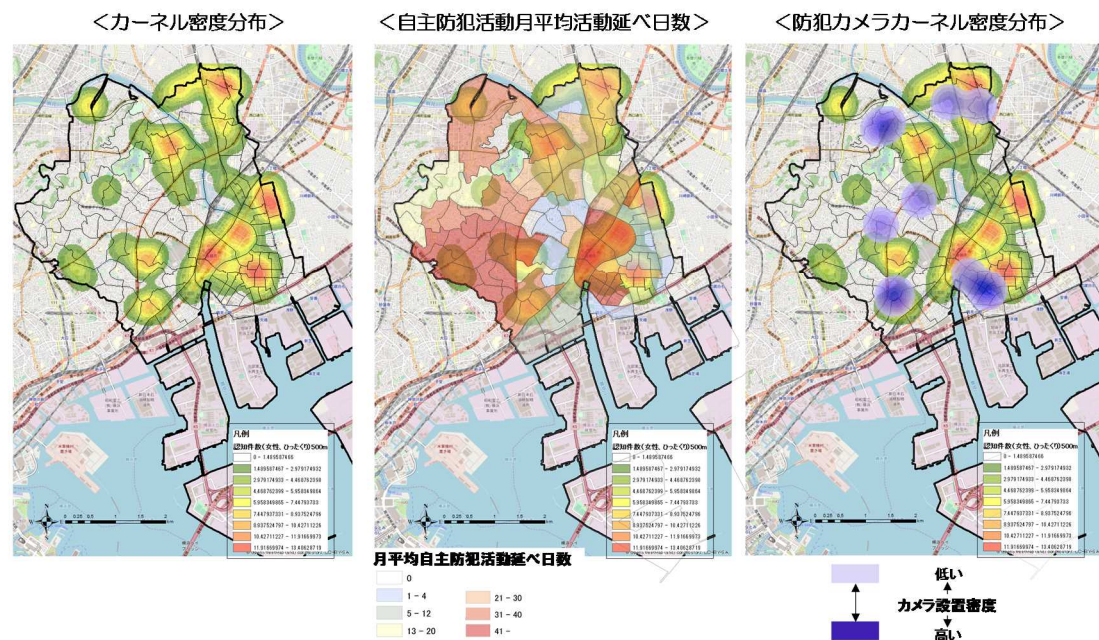
今回のモデル地区を対象として、犯罪・前兆事案のリスクマップと自主防犯活動・街頭防犯カメラの設置状況を重ね合わせて見ることで、犯罪等が発生している場所におけるその防止に向けた取組について評価を行った。

その結果、自主防犯活動については、概ね犯罪・前兆事案のリスクが高いエリアと重なっているものの、リスクが高いエリアであるにもかかわらず活動が行われていないエリアも一定程度見られた。

また、防犯カメラについては、対象とした設置台数が少ないものの、犯罪・前兆事案のリスクが高いエリアと重なる場合もある一方で、犯罪・前兆事案の発生リスクの高いエリアや発生リスクの高いエリアであっても防犯カメラが設置されていないエリアが見られた。

図表 67 重ね合わせた分析の結果（イメージ）

横浜市鶴見区一刑法犯(女性)ひったくり 57件



(2) 具体的な危険箇所の改善の考え方

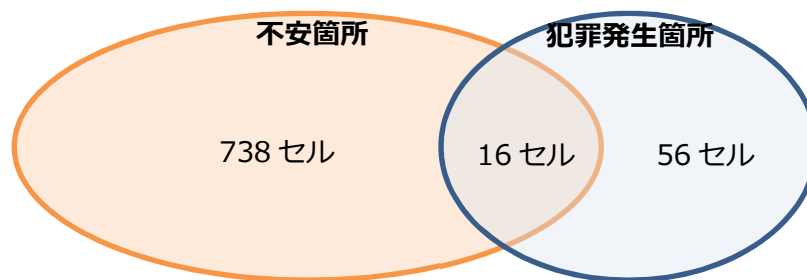
① 不安箇所と犯罪等の発生場所のずれを踏まえた改善の優先順位の考え方

アンケート調査結果で得られた不安箇所の回答と GIS を活用した分析の結果を重ね合わせると、犯罪発生場所のうち不安箇所との回答があった場所は 22.2%（72 セル中の 16 セル）と比較的少ないことが分かる。逆に言えば、犯罪発生の多く（77.8%）は不安箇所以外で発生している。

不安と感じられていない箇所であって実際の犯罪等が発生した箇所については、被害者となり得る人々の防犯意識や防犯行動が低水準になっていると考えられ、犯罪等の発生リスクが高く被害の重篤化も想定し得ることから、対策をとる優先順位が最も高い。不安と感じられている箇所であって実際の犯罪等が発生した箇所については、防犯行動が取られることが想定されるものの実際の犯罪等の発生があることから、上記に次いで対策を取る優先順位が高くなる。

このように、不安箇所と犯罪発生場所のずれや重なりに着目することで、効果的・効率的な防犯対策を実施することが可能となる。

図表 68 不安箇所と犯罪発生場所の差（全地区：女性）



注）セル数は地区内を 50m メッシュで区切った場合のメッシュ数を示す。

子供については犯罪発生件数が少なく図示していない

② 具体的な危険箇所の特徴を踏まえた改善策について

1) 監視性の確保

各種調査結果を基に把握した犯罪・前兆事案の発生が多いエリアや時間帯（先の（1）を参照）において監視性を高める取組を進めることが効果的である。特に、今回の調査研究では、時間によって犯罪・前兆事案の発生が多い場所が異なることが明らかになったことから、事案の発生が多い「時間」と「場所」に着目して現状の対策を見直すことが重要となる。

具体的には、防犯カメラの設置状況や自治会・防犯ボランティア団体等による自主防犯活動の実態、照度の状況等について把握した上で、犯罪・前兆事案や危険体験が発生することが多い場所において事案発生の多い時間帯に優先的に監視性を高める取組を進める必要がある。この際、さらに、防犯カメラが設置されていないエリアや自主防犯活動が行われていない時間帯、照度の低い場所であって事案の発生が多い場合を優先することが望ましい。また、場所や時間帯によっては自主防犯活動を期待しにくいことも考えられることから、タクシー・宅配業者等による「ながら見守り」を強化することや、スーパー、コンビニ、飲食店等の深夜まで営業している店舗に対して時折店舗外や道路に出て付近を見回すといった協

力を求めることで、地域全体の監視性を高めることが考えられる。なお、監視性を高めるといふ観点からは、防犯カメラが設置されていることや自主防犯活動が行われていることを犯罪企図者に視認させることが重要であることから、見えやすいような形で防犯カメラ設置や自主防犯活動実施の掲示を行うことが効果的と考えられる。

今回のモデル地区では、実地調査の過程で、大都市圏でも地方部でも多くの人が利用する移動経路があることが分かった。このような経路沿いであってアンケート調査で危険箇所・不安箇所との回答があった箇所について、例えば、経路沿いの店舗に「ながら見守り」の協力を呼びかける、防犯カメラの設置や自動販売機・門灯を含め照度の確保を進めるといった取組が考えられる。

また、多くの人が利用する移動経路であれば、移動する人同士が互いの状況に気を配ることで、監視性を格段に高めることができる。このためには、普段から地域のつながりを高めるような雰囲気作りや自治体等による広報啓発も重要になってくる。モデル地区での実地調査でも、深夜に帰宅途中の女性が犯罪企図者に襲われているところに通りかかった通行人が「警察へ通報しますか」と声をかけたことにより犯罪企図者が逃走した事案、自動車の車内から帰宅中の小学生に「お菓子を上げるからおいで」と声をかけていた犯罪企図者に対して通りかかった女性が「警察に通報しますよ」と注意したところ犯罪企図者が走り去った事案があったことから、この重要性が裏付けられる。

加えて、今回のモデル地区で典型性の高い事案が発生した場所を調査した実地調査によって、共同住宅の道路に面した一階部分に建て増された監視性を阻害するようなブロック塀、公園内に監視性を阻害するような植樹が見つかった。このような場所については、所有者にとっても自らの所有地で犯罪が起きることは大きなデメリットになり得ることを踏まえ、所有者に対して個別に改善を働きかけていくことが効果的である。

2) 接近の制御

今回のモデル地区では、地方部において、子供・女性を対象として駐車場で発生した事案について、被害者からは犯罪企図者が突然現れたように思えたものが見られた。これらの事案からは、犯罪企図者が駐車場に止めた車内で対象を物色していた可能性が考えられる。

公共・民間の駐車場を含め、特に犯罪企図者が車内から対象を物色することが考えられるエリアを中心に、不必要な利用者が利用できないよう、出入口のゲート管理システムの設置や夜間の施錠・チェーン等の設置を行う等、接近の制御を意識した取組を進める必要がある。

また、車上ねらいや自動車盗難を防止する上では駐車場・駐輪場に防犯カメラを設置することが効果的であるが、駐車場・駐輪場に設置された防犯カメラには副次的な効果として犯罪企図者が一般利用を装って駐車場・駐輪場で対象を物色する行為を防止する効果が期待できる。この場合も、見えやすいような形で防犯カメラ設置の掲示を行うことが必要となる。

(3) 不安箇所の改善に向けた取組

犯罪・前兆事案の不安を下げるという観点では、モデル地区の子供・女性を対象とするアンケート調査や女子大生を対象としたワークショップで得られた不安箇所について改善の取組を進めることが重要である。不安箇所であることの理由の多くが「暗い」「人気がない」

ことであることから、照度の向上や防犯カメラの設置等の改善策が求められる。モデル地区でも、通学路である地下通路や高架下の道路について、防犯カメラを設置したり見守り活動実施中という掲示するといった取組が見られた。

また、モデル地区で行ったアンケート調査では、子供に対するアンケート調査の結果として公園内のトイレや地下通路に不安があるという回答が得られた。このように不安感を覚える空間の印象を変化させるためには、壁面アートを施すといった取組が考えられる。例えば、愛媛県では、住民へのアンケート調査の結果から高架下の公園が暗くて危険であるという結果が得られたが子供達には雨の日や夏の暑い日も遊べるので良いという意見が多かったことから、子供達にも参加してもらって高架の橋脚を壁面アートで装飾したところ、住民の意識が変わり、子供の利用も増えたという取組の実例がある。

また、女子大生を対象としたワークショップの中では、秩序紊乱行為も不安感を覚える理由として指摘されている。このような不安箇所への対策としては、特に繁華街や飲食店街、駅周辺の地域では、客引きやスカウト、酩酊者や素行不良者、不良グループ等のい集の除去や落書き・ゴミの撤去といった迷惑行為の防止と街並みの改善も有効であると考えられる。

2 予防行動等の促進に向けた取組の方向性

(1) 防犯行動の視点

防犯行動には、大別して「危機事象（「何らかの犯罪に巻き込まれること」又は「巻き込まれそうになること」）を回避するための行動」と「危機事象に遭遇した場合にその重篤化を回避するための行動」がある。また、犯罪企図者が公共交通機関から追跡していることに気が付いた場合には、「危機事象を回避するための行動」は「追跡されないための行動」と「追跡された場合の対処」に分類される。

防犯行動については、これらの観点を踏まえた検討が必要である。

(2) 危機事象を回避するための行動

モデル地区での実地調査では、大都市圏・地方部ともに、女性が夜間・深夜に一人で歩いている時に被害に遭う事案、犯罪企図者が駅改札口や電車・バスの車内で物色して追跡し、犯行に及ぶ事案、昼間であっても人气が少ない畑付近や住宅街にある自宅近傍で被害に遭った事案が複数見られた。また、大都市圏・地方部ともに、被害に遭う直前まで犯罪企図者の接近に気が付かなかったという被害者の発言も見られ、照度が低い箇所や死角や物影となる箇所がある道路が少なくない中で周囲への警戒を効果的に行うことが容易ではないことがうかがえた。モデル地区の女子大生を対象とするアンケート調査では「後ろや周囲を気にしながら歩く」という回答が防犯行動の中では最も高く6割近くとなっているが、実態調査の結果を踏まえた上で、一人歩きの際の周囲への警戒の重要性やポイントについて発信すること等が重要である。

また、誰かに追跡されているかもしれないと思った場合には、最寄りの店舗等に入って様子を見る、従業員の助けを求める、家族・友人等に連絡して迎えに来てもらうといった回避行動をとることを発信することが重要である。特に、実地調査では、駅からの追跡に気が付いて一旦深夜まで営業している食料品店に入ったものの追跡を振り切ることができず被害

に遭った事案、追跡に気が付いたものの犯罪企図者に自宅を知られたくないために自宅を通り過ぎて大通りに戻るために一人歩きを続けた結果被害に遭った事案もあった。一旦このような回避行動をとってもなお誰かに追跡されている場合については、再度最寄りの店舗に入って従業員の助けを求める、ためらわずに警察に連絡するといった手段を取ることを発信することが重要である。特に、モデル地区の女子大生を対象としたアンケート調査では、危険な目に遭った場合でも警察に通報したという回答はごくわずかしがなく、調査研究会の中でも110番通報をすることの心理的ハードルが高いことについて指摘があったことから、警察への通報の在り方について丁寧な発信が必要である。

(3) 危機事象に遭遇した場合の行動

モデル地区の女子大生を対象としたアンケート調査からは、危機事象に遭遇した場合の行動として「何もしなかった」「何もできなかった」という回答が約5割に及んだ。また、モデル地区での実地調査では、「びっくりして何もできなかった」「声が出せなかった」という被害者の声が聞かれた。一方で、女子大生を対象としたアンケート調査からは、「走って逃げた」という回答が約3割あった。また、モデル地区での実地調査では、大都市圏でも地方でも、また女性でも子供でも、「大声や悲鳴を上げた」「手足をバタバタさせる等して抵抗した」「走って逃げた」といった行動をとった場合に犯罪企図者がその場から逃走した事案が多く見られた。このような実態を踏まえつつも今回の調査では「何もしなかった」「何もできなかった」理由が不明であること、被害者の抵抗が犯罪企図者を逆上させる場合もあることにも留意しつつ、防犯教室や防犯に係る普及啓発の中で丁寧に発信していくこと必要である。

また、モデル地区での実地調査では、女性でも子供でも、犯罪企図者が被害者に対して犯行に及ぶ前に、道を尋ねる等の声かけ行為を行っている事案が多く見られた。モデル地区の女子大生を対象としたワークショップでも、不安に思う理由として「声をかけてくる人がいる」といった意見が見られた。防犯教室や防犯に係る普及啓発の中で、犯罪企図者が声かけ行為から更に重篤な行為に出ないようにするためにはどうしたら良いかといったことについて発信していくことも重要である。

なお、実際の危機事象に遭遇した場合に何らかの具体的な行動をとることが難しいことも考えられることから、防犯ブザー等の行動を容易にする機器の携行を励行することも重要である。

さらに、モデル地区での実地調査では、女子中学生に対して露出行為をした被疑者が「大学生は通報するリスクが高いが、中高生は通報するリスクが低い」と考えて女子中高生を物色していたということが分かった。モデル地区の女子大生を対象としたアンケート調査では、犯罪・危険体験をしても通報しなかったという回答が約9割あり、理由として「大したことではないと思った」が約8割あった。どんなに小さな情報でも被疑者検挙の手掛かりとなり得ることから、犯罪企図者の次の犯行を可能な限り止めるためにも警察への情報提供は重要であることを、被害者の方に理解してもらうことが重要である。この意味でも警察への情報提供の在り方について丁寧な発信が必要である。

(4) 防犯行動を促進するための情報発信

モデル地区の女子大生を対象としたアンケート調査では、大学入学以降に防犯教室を受講したことがあるという回答は2割に満たなかった。また、防犯情報の入手状況及び入手媒体に関する質問に対しても、「大学のメール配信」という回答が約5割である一方で、「情報は受け取っていない」という回答が約4割あり、被害者になり得る女子大生に対する防犯情報の発信が十分に行えていない状況が見て取れる。

モデル地区の女子大生を対象としたワークショップにおいて防犯情報の発信手段について意見を出してもらったところ、「SNSや大学からのメール、ちらし、ポスターを活用して危険な箇所や犯罪発生情報を提供して欲しい」「危険な箇所や犯罪が多い場所に看板等で掲示をして欲しい」「(女子大生に対する)発信力のある有名人を活用して欲しい」といった意見が見られた。また、ワークショップの中で個人でもできる防犯行動について意見を出し合ってもらうことで、ワークショップを開催すること自体が参加者の防犯意識を高める効果を持つことにもなる。

防犯行動を促進するための情報発信は、複数の手段を組み合わせることにより大きな効果を発揮することができることから、情報発信の対象となる人達の意見を聞くことで実際に届きやすい在り方を工夫することが重要である。

3 地域ぐるみでの防犯対策や子供・女性の防犯意識の向上に向けた取組の方向性

監視性の向上、接近の制御、不安箇所の改善といった防犯対策や今回の調査研究で対象とした犯罪の被害対象となりやすい子供・女性の防犯意識の向上を効果的に進めるには、警察のみならず、自治体、地域住民、家庭、学校、企業等の地域社会の様々な構成員の参加を得て地域ぐるみでこれを行うことが重要となる。

これまで、防犯ボランティアによる活動を始めとして地域住民に期待される役割が大きかったことは言を俟たず、また子供の安全を確保するための取組が小中学校等との連携の下で行われて来たが、今回の調査研究で対象とした犯罪の被害対象となりやすい女子中高生や女子大生、女性従業員を抱える大学・企業等とも連携した取組を進めていくことが効果的である。

例えば、今回のモデル地区の女子大生を対象としたワークショップでは、女子大生に対する意識啓発として大学メールや SNS による情報提供を求める意見が見られたが、過去の調査では、女性従業員に対して、防犯ブザー等を貸与する、防犯に関する講座を開いている事業所の事例も明らかとなっている。こうした事例を紹介しながら警察から地域社会の様々な構成員に対して働きかけを行うことをきっかけに、地域ぐるみで子供・女性の安全確保に取り組んでいくことが重要である。

また、モデル地区での実地調査の中で、自治体・大学・大学周辺の飲食店街等が大学周辺の安全性を高めるための組織を立ち上げてパトロールや広報啓発等の活動を行っているといった事例が把握されており、このような枠組みが地域にあればそれを核として様々な取組が可能となる。特に、監視性の向上には、多くの地域の構成員が参加するこのような地域ぐるみの取組は非常に効果が高いと考えられる。

VI. 今後の取組に向けて

1 今回の調査研究で実施した各種の調査から分かったことと、今後の同様の調査に向けて得られた示唆

ここでは、今回の調査研究手法を実施した結果を踏まえ、今後他の地域でも取り組むことが望ましいと考えられる事項について取りまとめた。

今回の調査研究で実施した各種の調査のうち一つだけを実施した事例、複数の調査を個別に独立したものとして実施した事例は少なくないと考えられる。しかし、今回のように、対象とする犯罪の種類と地域を絞り込み、犯罪が発生した場所、被害者・犯罪企図者に関する調査を一体として実施することで、対象とする地域にとって効果的な防犯対策や防犯行動を見いだすことが可能となる。特に、定量的な数値をもって、犯罪・前兆事案の発生場所や時間を分析するとともに、被害者となり得る人たちの認識や行動を把握することで、より効果的・効率的な防犯対策を実施できるようになることが期待できる。

1-1. 過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した地理的特性分析

今回の調査研究の中で特徴的な調査の一つが、過去の犯罪・前兆事案を地図にプロットした情報を用いた GIS を活用した分析である。

今回実施した GIS を活用した分析では、モデル地区において過去の一定期間に発生した犯罪・前兆事案について罪種・発生場所・発生時間に関する情報をモデル地区の地図に落とし込み、カーネル密度分析²を用いた犯罪・前兆事案発生マップを作成し、これに基づいた分析を行った。

また、モデル地区の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査の一項目として個別に地図上に危険体験箇所や不安箇所を記入してもらう手法で得られた情報を集約して地図に表記し、危険体験箇所・犯罪発生場所と不安箇所の重なりを分析することで、他の各種の調査と併せてモデル地区における防犯対策の検討の基礎とした。

図表 69 地図情報を利用した分析

- ・ 過去の犯罪・前兆事案のデータを活用した犯罪・前兆事案発生マップの作成とリスクの高いエリアの分析
- ・ アンケート調査による危険体験箇所と不安箇所の場所の把握
- ・ 危険体験箇所・犯罪発生場所と不安箇所との重ね合わせによる分析
- ・ 犯罪・前兆事案発生マップと現在の防犯活動（防犯カメラや防犯ボランティア）との重ね合わせによる分析

／等

実際に、モデル地区の女子大生を対象としたワークショップにおいて危険体験箇所・不安箇所の情報を表記した地図を用いたところ、現場の情景や自分の体験を短時間で具体的に

² カーネル密度分析は、ある一定のエリアを設定してそのエリア内の犯罪発生地点間の相対的な距離関係（発生地点ごとの相互作用）を考慮し、エリア全体での発生率の分布を推定する手法。

想起することが可能になり、その後の防犯対策等に関する意見交換を促進したように思われる。

カーネル密度分析を用いた犯罪・前兆事案発生マップを作成するには GIS（地理情報システム）の導入が必要であるが、犯罪・前兆事案が発生した場所を時間帯毎に地図に表記するだけであれば、市販されている地図ソフトを使用することでも可能であるし、紙の地図にシールを貼っていくことでも可能である。その上で、地図を一定の広さで区切ること、どの時間帯にどのエリアでどの犯罪・前兆事案の発生が多いかを視覚的に理解することができ、情報の効果的な活用が可能となる。

この際に重要なのは、「時間」の概念である。これまでの分析でも明らかなように、犯罪・前兆事案の種類によって、時間帯ごとに発生が多くなる場所が異なることがある。警察官による警ら活動は既にこの種類の情報を活用して行われているが、防犯ボランティア団体や青色回転灯装備車の運用団体、地域住民や企業等の地域社会の構成員がこのような情報を把握することにより、パトロールや「ながら見守り」といった自主防犯活動をより効果的に行うことが可能となる。

図表 70 地図情報を利用した分析の効果

- ・ 実際に不安に感じている場所と犯罪が起きている場所の重なり、ズレ等が判明し、パトロール等の自主防犯活動や意識啓発の基礎資料として活用
- ・ 犯罪・前兆事案発生マップを基にして犯罪が起こるリスクの高いエリアの特徴を把握し、パトロール等の自主防犯活動に活用
- ・ 犯罪発生地点と防犯カメラ設置箇所やパトロール活動実施エリアの重ね合わせによって、効果的な活動を行うことのできるエリア・時間帯の洗い出しに活用
- ・ ワークショップ等で地図情報を提供することによって、参加者がイメージしやすく参加に積極的になるとともに、より即地的な検討につながる

／等

1-2. モデル地区内の典型性の高い事案の発生地点の実地調査

今回の調査研究では、モデル地区内の警察署に依頼し、過去の一定期間内に起きた犯罪・前兆事案の発生地点を訪れる実地調査を行った。この際、被疑者・犯罪企図者の供述に基づく事案の発生前後の行動を踏まえ、監視性・領域性（照度や防犯カメラ・死角の有無、通行量、ゴミ・落書き、防犯看板の有無等）等の発生地点の特徴を把握した。また、小学生と女子大生を対象としたアンケート調査で得られた危険体験箇所・不安箇所において発生した事案も含める形で行った。

この結果として、モデル地区内の典型性が高い事案の発生現場において取り得る防犯まちづくりに関する対策や、事案状況において取り得る防犯行動や防犯対策について具体的に検討することができた。特に、事案の状況に応じて、被害対象となり得る人たちが取り得る防犯行動や、地域社会として行うべき防犯対策は異なってくるし、防犯に係る広報啓発や地域ぐるみの防犯まちづくりや防犯対策を進めるに当たっては、その地域の事案の発生状

況を踏まえた提案を行うことが効果的であると考えられる。

この際に重要なのは、いかに典型性の高い事案を適切に選んで実地調査を行ったとしても、次にどのような事案が発生するかは分からないことである。実地調査で得られた場所、犯罪者及び犯行対象から成る事案の具体的な状況はある一定期間において典型性が高いものであることを踏まえ、定期的に典型性の高い事案の把握に努めることが重要である。

1-3. モデル地区内で発生した犯罪等の実態調査

今回の調査研究では、モデル地区内の警察署に依頼し、各署管内において一定の期間内に発生した犯罪・前兆事案について、被害者については被害時の行動等を、被疑者については犯行時の状況等を個別に調査票に記入する実態調査を行った。この調査は、通常は警察官が自ら取り扱った事案について経験として蓄積している情報を、被害者と被疑者の行動を分析して防犯対策に生かすことを目的として、別途調査票に記入したものを集計して具体的な数値として把握したものである。

この結果として、被害者については、被害時の行動として、同行者の有無、スマホ・携帯等の使用状況、被疑者の接触方向、防犯行動、防犯教室の受講状況等について、被疑者については、計画性、犯行場所の選定理由、犯行時に気にかけていること等について把握することができた。これらは、モデル地区内の被害者となり得る人の属性に合わせた効果的な広報啓発を行う上で有用な情報となることに加え、防犯に係る更なる調査研究を行う上での貴重な基礎資料となる。

今回の実態調査では、実施期間が限られていたこと等から事案・前兆事案の件数が少なく、得られた情報の量と質の点で限界があった。しかし、調査対象や調査項目を絞る等の工夫を加えることにより負担を減らしつつ、実施期間を長く取って件数を蓄積することで、得られる情報の量や質が向上することが期待できる。このような実態調査の継続によって、犯罪の三要素と言われる場所、犯罪者、犯行対象のうち二つの要素についての情報収集を進めることが期待される。

1-4. モデル地区内の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査

今回の調査研究では、モデル地区内の小学校・大学に協力を依頼し、小学生・女子大生の行動形態や防犯行動、地域の不安箇所の認識、危険体験等について調査票に記入してもらい集計・分析を行うアンケート調査を行った。

この結果として、被害対象となり得る子供や女子大生の日常の行動や防犯意識を具体的な数値をもって把握することができた。この情報を活用すれば、対象に合った形で防犯に係る広報啓発を効果的に行うことができると考えられる。

特に大学については、入学当初のオリエンテーションの際に防犯に関する内容を行っている大学の女子大生について「防犯教室を受講したことがある」という回答が半数に満たず、「覚えていない」という回答が約4割に達するなど、防犯対策に関する広報啓発が効果的に行われていないとも取れる結果が得られた。また、その他の地域では「受講経験がない」との回答が3／4前後のところが多くあった。まずは被害対象となり得る人たちを対象とし

て直接防犯について教示する機会を設けることが重要であることに加え、具体的な行動につながるような形で防犯教室を実施することが重要である。

今回協力を得た小学校・大学では回収率に差が見られたが、被害対象に合った効果的な広報啓発を行う上では、なるべく回収率を高めることが重要となる。アンケート調査の実施に当たってその趣旨を直接対象者に説明する、回答しやすい形で質問項目を絞る、アンケート調査の結果を踏まえた形で事後に防犯教室を実施する形式を取ることで回答意欲を高めるなど、地域の実情に合った工夫を重ねることが重要である。

1-5. モデル地区内の小学校・大学におけるワークショップ

今回の調査研究では、モデル地区の女子大生を対象としたワークショップを実施し、モデル地区外の危険箇所の情景を示しながら、なぜその場所が危険であるのかを説明するとともに、アンケート調査によって把握されたモデル地区内の危険箇所・不安箇所に関する防犯対策について意見交換を行った。アンケート調査では定型的な質問への回答しか得られないが、ワークショップではある課題に対しての意見交換を通して自由な意見を得ることができ、補足的な情報交換を行うことで、意見交換を深めることができた。

この結果、防犯に関する知識の定着、防犯意識の向上が見られ、被害対象となり得る人たちからの防犯対策に関する提案も得られるなど、一定の成果を上げることができた。一方で、今回は事案発生に至るまでの犯罪企図者の行動に関する情報を盛り込まなかったことから、必ずしも防犯対策として十分な意見交換ができなかった。

今後は、犯罪企図者の犯行前後の行動に関する実態調査や実際に発生した犯罪・前兆事案について実地調査を行うことで、被害者となり得る者から見た危険箇所と犯罪企図者の行動に関する情報を併せて提示することが可能となれば、ワークショップにおいて防犯に関する意識をより効果的に啓発するような手法を用いることができるようになることが期待される。

2 本調査結果を踏まえた今後の継続的な検証の必要性

今後子供・女性に関する防犯対策を継続していく上では、実際の犯罪発生状況の変化と比較しながら、防犯対策の効果について継続的に検証し、その結果を踏まえて防犯対策をよりよい物にしていくことが必要である。

そのため、「1」に示したような今回の調査結果を踏まえた取組を今後継続的に実施し、防犯対策の継続的な検証と見直しを行う PDCA サイクルを構築していくことが必要である。

また、防犯対策の検証に当たっては、犯罪被害や犯罪不安への影響を数量的に分析し、防犯対策の有効性に関するエビデンスを疫学的な方法に基づいて蓄積できるように進めることが求められる。

3 複数の調査を一体として実施した結果から得られる情報のイメージ

今回のように、対象とする犯罪の種類と地域を絞り込み、犯罪が発生した場所、被害者・犯罪企図者に関する複数の調査を一体として実施することで、対象とする地域における危険箇所の状況、犯罪企図者や被害者の認識・行動様式等について具体的なイメージを描くことができ、それによって対象とする地域にとって効果的な防犯対策や防犯行動を見いだすことが可能となる。

今回のモデル地域のうち都市部と地方部のそれぞれ一地域について、今回の複数の調査で得られた結果を基に描くことのできた地域の実情を以下のとおりまとめてみた。今回の調査手法をよりブラッシュアップすることにより、このようなイメージをより具体的に持つことも可能になると考えられる。

3-1. 大都市圏（A市）

（1）対象地区の状況

A市は住宅街で、高校や大学がいくつかの駅付近に集中して立地しており、その近辺は駅と高校や大学の間の道を学生が歩く姿が多く見られる。

「空き巣警戒中」といったステッカーを貼っている住居が多く、防犯意識が高いと考えられる。

（2）女子大生に関する考察

アンケートを実施した大学は最寄り駅から約300メートル、駅から徒歩で数分の距離にある。

「家族と同居」との回答が約83%、通学時の交通手段として「電車を利用している」との回答が約82%、駅から大学までの交通手段として「徒歩」との回答が約95%と高く、県内の離れたところから電車で通い、駅からは歩いて大学に向かう学生が大半を占めると考えられる。また、帰宅が夜9時を過ぎる頻度が「週2～3回程度」と「ほぼ毎日」の回答が合計約80%、帰宅が深夜0時を過ぎる頻度が「週2～3回程度」と「ほぼ毎日」の回答が合計約24%となっており、夜間に帰宅する者が一定数おり、他の調査対象区域と比べてもやや高い。以上から、夜間に駅付近を徒歩で移動する女子学生が一定数いると考えられる。

アンケート調査の結果では、駅と大学の間の住宅街が全般的に、特に駅に近いコンビニ近辺の幹線道路付近が危険箇所として挙げられており、大学周辺地域の不安箇所としては「路上」との回答が約32%、「駅」との回答が約17%となっている。また、GISを活用した分析の結果でも、駅から500メートル以内で発生した強制性交等、強制わいせつ等の犯罪は夜間に多い傾向が確認された。一方で、大学周辺地域の体感治安について、「かなりよい」「よい」との回答は合計約51%となっており、他の調査対象区域に比べて治安が良いという認識があり、大学周辺地域の不安箇所についても「特になし」との回答が約40%となっている。このような実情を踏まえた上で、防犯対策に係る広報啓発を行う必要がある。

犯罪被害・危険体験の内容としては「露出にあった」という回答が57.1%と他の調査対象区域と比べて最も多く、時間帯も日中から夕方にかけて、大学への通学・帰宅途中での被害が大半を占めている。被害直後の行動としては「走って逃げた」との回答が約43%と

なっており、一定の対策行動がとれていると言える。

A 市における実地調査では、駅を起点とした事案が多く、実際の事案の発生と GIS を活用した分析、不安箇所の認識が同様の傾向を示している。近傍に複数の大学や高校が立地する駅だったため、女子大生や女子高生を被害者とする事案が多く、駅改札での待ち伏せや駅・車両内からの追尾といった被疑者の行動が見られた。一方、被害者の多くは直前まで被疑者の追尾に気が付いていなかったことが分かった。このような実情を踏まえた上で、防犯対策に係る広報啓発を行う必要がある。

3-2. 地方部（B 市）

（1）対象地区の状況

B 市は、大手製造業やその関連企業の工場ができたことで他地域からの移住者で人口が増加した都市。近年では、駅から離れた場所や郊外に大規模商業施設が立地し住宅も広がったことから、駅前の昭和時代に建設された商店街や歓楽街が寂れてきており、空き店舗となったところも多く、ビルが取り壊されてアパートや駐車場になったところも少なくないが、道路は昔のままの細く見通しの悪い道が多い。

B 市には、フェンスで囲まれており領域性はあるが、フェンス沿いに 3 メートルくらいの常緑樹が植えられている公園が多い。この常緑樹はちょうど大人の上半身部分に葉が生い茂っており、公園の外からの視線を遮る形になっている。

（2）女子大生に関する考察

アンケートを実施した大学は最寄り駅から約 2 キロ、駅から自転車で 10 分くらいの距離にある。

通学形態は、アンケート調査の回答のうち、「電車を利用している」という回答が約 46 %、「電車を利用していない」という回答が約 54 %。「電車を利用している」と回答した者のうち約 92 %が、「電車を利用していない」と回答した者のうち約 91 %が自転車で通学しており、大学までの交通手段は自転車が圧倒的に多い。

また、アンケート調査では、駅から大学の間の地域のうち、駅周辺や高架線路沿い、大学と駅の間にある歓楽街が不安箇所として挙げられている。GIS を活用した分析の結果からは、このうち駅南口周辺や高架下での発生事案が多いことが確認でき、実地調査でも高架線路沿いの路上や高架下の駐輪場で発生した事案があるなど、アンケート調査の対象者が実際の事案が多い場所を不安箇所として認識できていることが分かった。ただ、アンケート調査に回答した女子大生のうち、帰宅が夜 9 時を過ぎる頻度が「週 2 ～ 3 回程度」と「ほぼ毎日」の回答が合計 65 %、帰宅が深夜 0 時を過ぎる頻度が「週 2 ～ 3 回程度」と「ほぼ毎日」の回答が合計約 16 %となっており、夜間に帰宅する者が一定数いることに留意した上で適切に防犯対策や広報啓発を行う必要があることが分かる。

「犯罪の被害や危険な出来事にあうのではないか」という不安について「たまにある」「よくある」との回答が合計約 31 %、大学周辺地域の体感治安について「悪い」「かなり悪い」との回答が合計約 25 %と、他の調査対象地区と比べてやや高い。大学周辺地域に不安箇所があるとした理由では、「怖い人がたむろしているから」（約 48 %）「秩序に反した行為

が見られるから」（約22%）が比較的高い。このような不安感についても、地域の関係主体と連携した対応を検討する必要がある。

大学周辺の不安箇所として、「路上」との回答が45%、「駅」との回答が約23%となっている。一方、犯罪被害・危険体験の場所として「路上」との回答が約70%、「駅」との回答が約18%となっており、不安箇所に係る回答と概ね同様の傾向となっている。

犯罪から身を守るための対策状況として、「人通りの少ない場所を通らない」（約48%）「危ないとされる場所に近づかない」（約44%）「夜遅く出歩かない」（35%）の割合が調査対象地区の中で最も高く（「特に注意していることはない」が約18%）、不安の程度と理由に対応した防犯行動が比較的とられている。「夜は誰かに迎えに来てもらう」との回答（約23%）が比較的高いことも、注目に値する。また、犯罪被害・危険体験について「体験したことがある」との回答が約16%と比較的高い。

B市における現地調査では、駐輪場や駐車場で発生した事案が複数あった。いずれも、犯行を企図する者が待ち伏せしたり利用者を装っていても不審に思われない場所である。犯罪被害・危険体験の場所としても「（住宅以外）駐輪場」（約6%）「（住宅以外）駐車場」（約6%）という回答が比較的高いが、不安場所としての回答は少ない。女子大生を対象としたアンケート調査では駅から大学まで自転車で通学している人が9割程度という結果となっていることも踏まえ、防犯に係る広報啓発を適切に行っていく必要がある。

ワークショップでは、「街灯が少ない、暗い」「人気がない」「怖い人やヤンキーがたむろしている」「飲酒している人が多い」といった危険認識が提示され、また「事案があった場所にパネルを掲示してほしい」「SNSで情報を発信してほしい」「駅周辺に見守り隊にいてほしい」「明るいところを通るようにする」といった対策行動も提示された。地域の関係主体による対策のヒントとして、有用であると考えられる。

（3）小学生に関する考察

「出かける時はどこにいくか、おうちの人に言う」（約72%）「出かける時はいつまでに帰るか、おうちの人に言う」（約62%）という回答が比較的低かった。

犯罪被害・危険体験の発生時の詳細として、「休みの日」との回答が65%、「遊んでいるとき」との回答が60%、発生場所が「（住宅以外）路上」（40%）「（住宅以外）公園」（30%）が高かった。不安箇所としても「（住宅以外）公園」が約58%と高い。

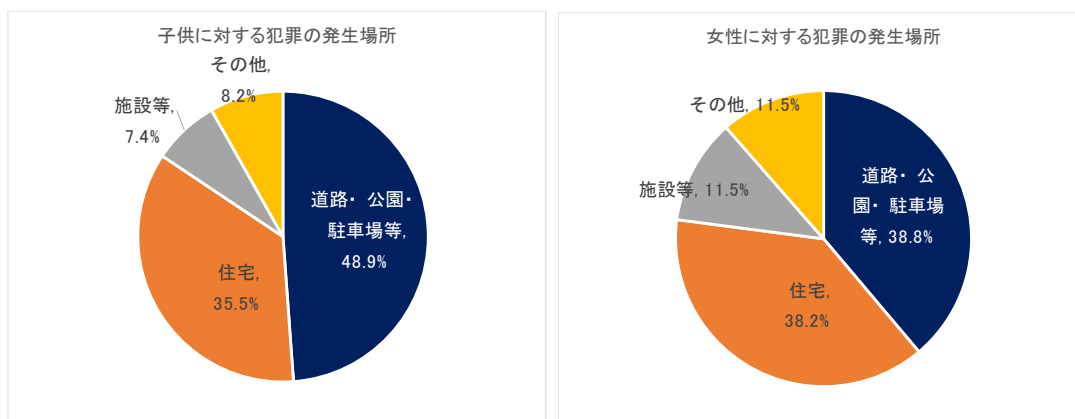
A市における実地調査でも、小学生が被害者となった公園での事案が複数あった。A市内の小学校におけるワークショップでも「樹木に囲まれていて外から見えにくい公園がある」「塀の上にフェンスがあり、道路からは様子が見えにくい公園がある」との意見があり、子供たち自身も公園に不安を持っていることがうかがえる。GISを活用した分析の結果からは公園周辺での事案が多く発生しているという結果は得られなかったものの、アンケート調査の結果から利用者が不安を感じていることが分かり、公園において子供が被害者となった事案も発生していることから、何らかの対策を検討する必要がある。

VII. 参考資料

1 対象となる犯罪等の検討に係るデータ

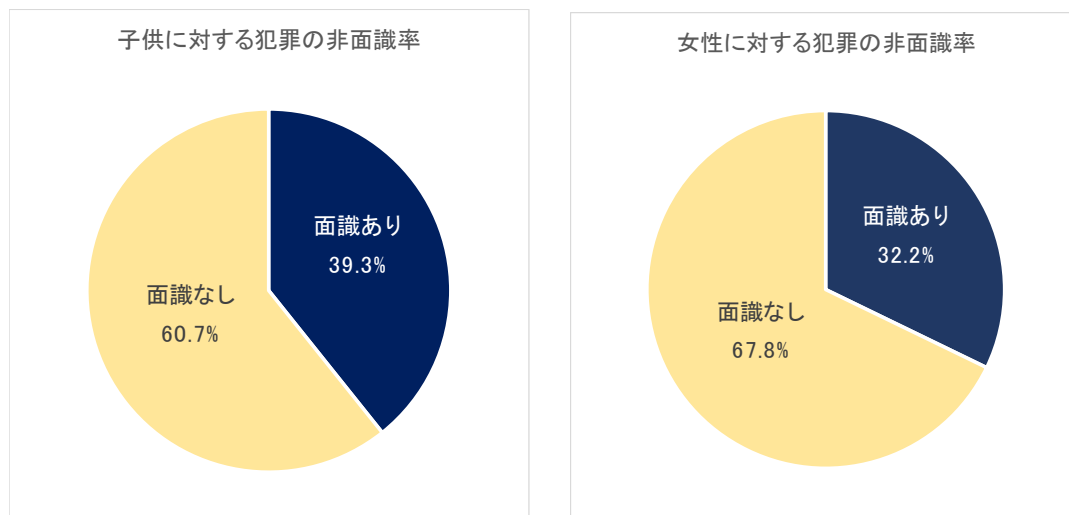
子供・女性に対する犯罪の全国的な情報を俯瞰すると、その多くは、道路、公園、駐車場等の公共空間において発生しており、被害者と被疑者・行為者の間で面識がない割合が高い。

図表 71 過去5年間（平成25年～29年）の刑法犯認知件数の発生場所割合
（全刑法犯対象）



資料) 警察庁資料

図表 72 過去5年間（平成25年～29年）の刑法犯認知件数の面識・非面識の割合
（全刑法犯対象）



資料) 警察庁資料

2 各調査研究の実施内容

2-1. 過去の犯罪等の情報を基にした GIS を活用した分析

(1) 対象とした犯罪等の概要

神奈川県横浜市鶴見区、神奈川県相模原市南区、愛知県名古屋市瑞穂区、愛知県みよし市、広島県福山市のうち広島県福山市福山東警察署管内、福岡県田川市の6地域における、犯罪・前兆事案のデータを収集した。

犯罪は平成25年～29年の5年間、前兆事案は平成27年～29年の3年間におけるデータである。データには、「罪種」のほか、「犯罪発生地点住所」、「犯罪発生地点の分類（道路、公園、駐車場、集合住宅の共用部分等）」、「犯罪発生時間帯」、「被害者の年齢」、「被害者の職業」等の情報が含まれている。

図表 73 犯罪の分類と地域ごとの件数（5年合計）

分類			地域	罪種	分析対象 件数
犯罪	子供 (小学生以下)	(すべて)	鶴見区	強制わいせつ、傷害、暴行	14
			相模原南区	強制わいせつ、暴行	7
			瑞穂区	強制わいせつ、暴行	6
			みよし市	傷害	1
			福山東署	強制わいせつ、傷害、暴行、略取誘拐・人身売買	11
			田川市	強制わいせつ	3
			全地域合計		42
	女性 (中学生以上)	ひったくり	鶴見区	ひったくり	57
			相模原南区	ひったくり	90
			瑞穂区	ひったくり	70
			みよし市	ひったくり	1
			福山東署	ひったくり	36
			田川市	ひったくり	7
			全地域合計		261
		ひったくり以外	鶴見区	強制わいせつ	26
			相模原南区	強制わいせつ、略取誘拐・人身売買	44
			瑞穂区	強制わいせつ、略取誘拐・人身売買、強制性交等	29
			みよし市	強制わいせつ	9
			福山東署	強制わいせつ、強制性交等	40
			田川市	強制わいせつ	13
			全地域合計		161

注) ひったくり以外のうち、強盗・殺人のデータは除外

図表 74 前兆事案の分類と地域ごとの件数（3年合計）

分類		地域	分析対象件数			
			合計	声かけ つきまとい 卑わいな言動	露出	盗撮 のぞき見
前兆事案	子供 （１２歳以下）	鶴見区	65	29	32	4
		相模原南区	47	36	9	2
		瑞穂区	20	15	3	2
		みよし市	10	4	2	4
		福山東署	108	78	1	29
		田川市	15	13	0	2
		全地域合計	265	175	47	43
	女性 （１３歳以上）	鶴見区	187	101	64	22
		相模原南区	227	144	56	27
		瑞穂区	90	58	20	12
		みよし市	26	12	10	4
		福山東署	395	212	96	87
		田川市	49	30	16	3
		全地域合計	979	562	262	155

注) 前兆事案の内、被害者年齢又は性別不明の事案は除外

(2) 具体的な分析内容

① 犯罪・前兆事案発生場所と公共空間との関係の分析

対象地域で発生した犯罪及び前兆事案について、大都市圏・地方部それぞれにおいて、駅からの距離と時間の関係性を整理した。

具体的には、駅の地点情報は国土数値情報センターから取得し、犯罪・前兆事案発生地点との距離を算出するとともに、駅からの距離が 500m 以内と 500m 超とで犯罪・前兆事案を分類し、発生時間帯毎の駅 500m 以内と駅 500m 超それぞれの発生時間帯の割合を整理した。

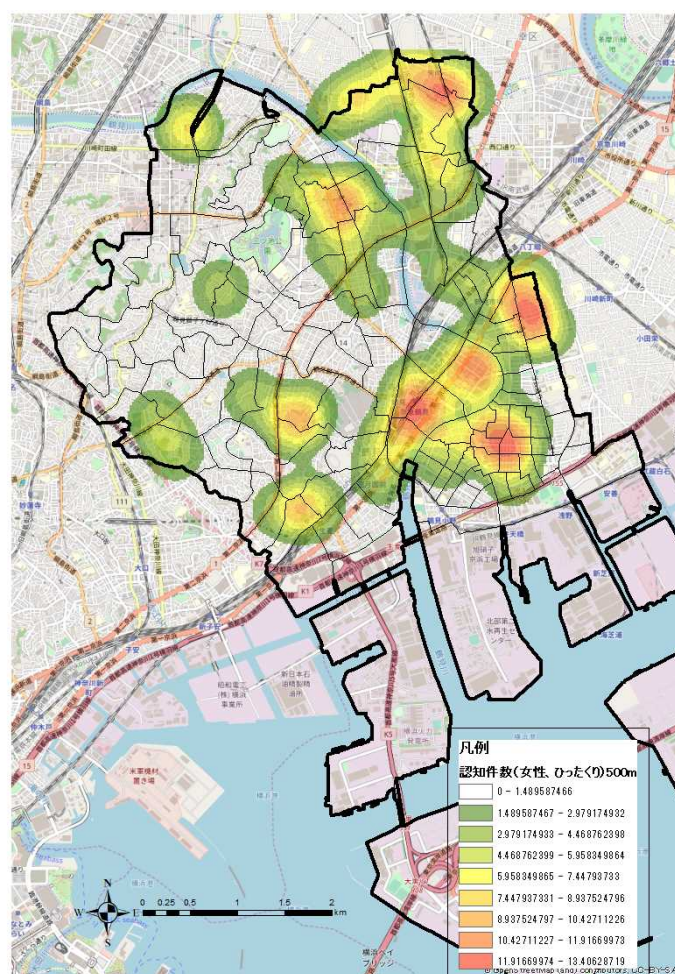
② 犯罪・前兆事案リスクマップ分析

対象地域で発生した犯罪及び前兆事案について、犯罪・前兆事案ごとにカーネル密度推定法を用いて発生リスクマップを作成し、一定以上のリスクレベルとなった地点³の周辺環境の特徴を整理した。

周辺環境については、犯罪については大都市圏・地方部別に罪種毎にその特徴を、前兆事案については事案内容毎に、大都市圏・地方部別かつ被害者種別（子供・女性）にその特徴を、それぞれ地図情報から土地利用状況を可能な範囲で把握し、整理した。

³ カーネル密度推定法により分析した結果、リスク段階は 9 段階に定義される。そのうち、リスク段階が 5 以上となった地域を「一定以上のリスクレベル」として取り扱った。

図表 75 リスクマップのイメージ（鶴見区：女性ひったくり）



2-2. モデル地区内で発生した犯罪等の実態調査

調査研究の一定期間中にモデル地区内で発生した犯罪等について、事案を取り扱った警察官に対し、事情聴取や取調べの中で把握した情報を基に被害状況や犯行状況に関する調査票の作成を依頼した。

図表 76 実態調査の実施方法

【実施期間】

- 平成 30 年 7 月 1 日（日）から同年 12 月 31 日（月）まで

【実施方法】

- 犯罪等の被害に関する実態調査

モデル地区内において犯罪等の被害を認知した際に、被害者に対する事情聴取等、警察活動を通じて把握した事項に基づき、警察官が「認知時調査票（被害状況）」を作成

- 犯罪等の犯行に関する実態調査

モデル地区内において犯罪等の被疑者・行為者を検挙（指導警告等を含む。）した際に、被疑者・行為者に対する取調べ等、警察活動を通じて把握した事項に基づき、警察官が「検挙時調査票（犯行状況）」を作成

調査期間中に作成された被害に関する実態調査票は 312 件、犯行に関する実態調査票は 26 件であった。

具体的な調査項目は以下のとおり。

図表 77 実態調査の調査項目

■認知時調査票（被害状況） ・被害者の属性（性別、年齢、職業） ・被害日時、場所 ・被害時の状況（通行形態、同行者、被疑者・行為者の接触方向、被害者の行動、被害場所の利用頻度、被疑者・行為者との面識、防犯器具携帯状況） ・防犯教室の受講状況等 ■検挙時調査票（犯行状況） ・被疑者・行為者の属性（性別、年齢、職業、犯罪歴等） ・犯行日時、場所 ・犯行時の状況（被害者との面識、飲酒の有無、犯行動機、犯行場所の選定理由、犯行の計画性、犯行時に気にかけていたこと、被害者を選定した理由） ・犯行前後の移動（交通）手段等

2-3. モデル地区内で発生した犯罪等の発生場所の実地調査

対象地域で、過去、子供・女性を対象とした犯罪等の中からできるだけ典型的な内容の抽出を各県警に依頼し、合計 56 事案について有識者、事務局で実地視察を行う形で実施した。

実施スケジュールは以下のとおり。

図表 78 実地調査の実施結果

日時	場所	参加者
12 月 10 日	横浜市鶴見区	雨宮委員、清永委員、樋野委員 他
12 月 13 日	相模原市南区	中谷座長、齊藤委員 他
1 月 22 日	福岡県田川市	雨宮委員、樋野委員 他
1 月 23 日	広島県福山市	雨宮委員、樋野委員 他
1 月 28 日	愛知県名古屋市	荒井委員、島田委員 他
1 月 29 日	愛知県みよし市	荒井委員、島田委員 他

2-4. モデル地区内の小学生・女子大生を対象としたアンケート調査

モデル地区内の小学校及び大学に通う小学生及び女子大生を対象としてアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施方法等は以下のとおり。

図表 79 アンケート調査の配付・回収状況

【配付】

- ・各県警において小学校・大学宛てにアンケート調査の実施協力を依頼の上、各県警又は学校宛てにアンケート調査表を送付し、各県警から小学校及び大学に配付
※一部調査対象地区内の大学では県警から調査趣旨を説明
- ・調査票には詳細な記入方法の説明のほか、被害等に遭った場合の相談先等に関する資料を添付した。

【回収】

- ・小学校については、小学校経由で回収又は郵送回収
- ・大学は授業等で記入し、その場で回収又は持ち帰りにて記入し、郵送回収
- ・各県警において、アンケート調査の実施時期、配付方法、回収方法等について学校と協議を実施し、回収率を上げるため、可能な限りアンケート調査票記入前に、当該アンケートの回答要領について直接又は間接に説明する機会を得るよう努めた。（一部大学では、授業等でアンケート回答要領を説明後に記入し、その場で回収を行うことで、90%を超える回収率が得られた。）

調査対象者数及び回収状況等、具体的な調査項目は以下のとおりである（調査票は末尾参考資料を参照のこと）。

図表 80 アンケート調査の配付・回収状況

	小学生 (2年生及び5年生)	女子大生
配付数	1,407	1,500
回収数	726	725
回収率	51.6%	48.3%

図表 81 アンケート調査の調査項目

■小学生

＜調査票 A：安全・安心に関する意識調査＞

- ・子供自身が犯罪から身を守るための対策状況
- ・小学校周辺地域における危険体験の有無／具体状況
- ・危険体験箇所・不安箇所
- ・保護者属性（性別、続柄、子供の学年・性別、住宅種別、居住場所、同居状況、居住年数、登下校の交通手段、通学時間、下校時間帯の在宅状況）
- ・門限の有無
- ・子供の外出頻度・目的／子供のみ行動頻度
- ・保護者の体感治安・不安箇所
- ・住民による防犯パトロール等の認知状況

- ・犯罪から子供の身を守るための対策状況

<調査票 B：大学周辺地域の危険体験・不安箇所マップ>

- ・危険体験箇所・不安箇所

<調査票 C：犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表>

- ・危険体験の詳細状況（発生場所、犯罪種別、発生時間・季節、一緒にいた人、目的、対応・行動、相談の有無、通報の有無及び理由）

■女子大生

<調査票 A：安全・安心に関する意識調査>

- ・回答者属性（年齢、学年、住宅種別、同居状況、居住場所、通学時の交通手段、帰宅時間の傾向、地域内の施設・場所等の利用状況・利用目的）
- ・大学周辺地域の安全・安心に関する体感治安状況／不安箇所
- ・犯罪から身を守るための対策状況
- ・防犯教室の受講状況
- ・住民による防犯パトロール等の認知状況
- ・防犯情報の入手状況及び入手媒体
- ・大学周辺地域における危険体験・不安感の有無／具体状況

<調査票 B：大学周辺地域の危険体験・不安箇所マップ>

- ・危険体験箇所・不安箇所

<調査票 C：犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表>

- ・危険体験等の詳細状況（発生場所、犯罪種別、発生時間・季節、一緒にいた人、目的、対応・行動、相談の有無、通報の有無及び理由）

2-5. モデル地区内の小学校・大学におけるワークショップ

モデル地区内の小学校・大学それぞれにおいて、アンケート調査結果及び実地調査結果を踏まえて実施した。

実施内容及び実施スケジュールは以下のとおり。

(1) 実施内容

■小学生

・ アンケート調査結果の紹介

犯罪から身を守るために普段実施していること

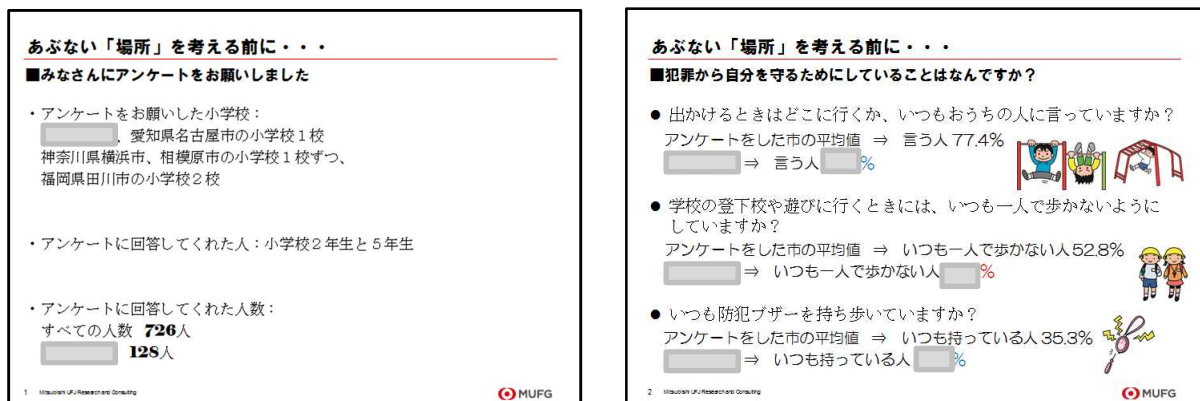
危険体験をした日時

危険箇所・不安箇所の実際の空間 / 等

・ 犯罪発生の危険がある場所の紹介

現地調査で把握した犯罪発生地点・不安箇所について、主に被害者が小学生以下である事案について、対象地区以外の写真を活用して危険な場所の特徴を説明した。ただし、具体的な事案の説明は実施していない。

図表 82 小学生向け資料のイメージ



注) 小学校名及び小学校別の回答数についてはマスキングを行っている

■大学生

・ アンケート調査結果の紹介

大学周辺の地域の体感治安や不安箇所の状況、犯罪から身を守るための対策状況、危険体験・不安箇所の有無とその詳細、危険体験・不安箇所の実際の空間 / 等

・ 犯罪発生の危険がある場所の紹介

現地調査で把握した犯罪発生地点・不安箇所について、主に被害者が中学生以上である事案について、対象地区以外の写真を活用して危険な場所の特徴を説明した。ただし、具体的な事案の説明は実施していない。

・ グループワーク

アンケート調査にて危険箇所・不安箇所として挙げられた地点の理由の検討

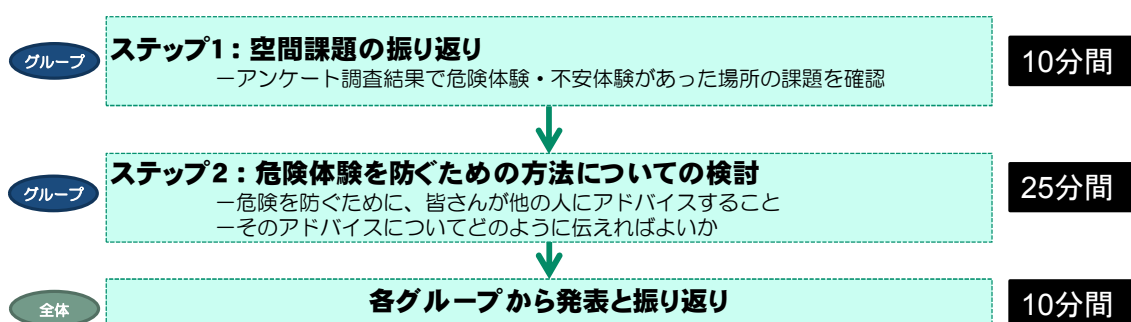
実施すべき防犯対策の検討

防犯対策の啓発・伝達方法の検討

図表 83 大学生向けワークショップのタイムスケジュール（例）

時刻	時間	内容
14:00-14:05	5分	■開会 ■本日の進め方
14:05-14:25	20分	■アンケート結果の紹介 ー皆さんにご協力頂いたアンケート調査結果をご紹介
14:25-14:35	10分	■犯罪発生の危険がある場所の紹介
14:35-15:25	50分	■グループワーク
15:25-15:30	5分	■閉会

図表 84 大学生向けグループワークの内容



3 アンケート調査票

3-1. 小学生向け

(1) 送付文

ID-11

まちの安全・安心についてのアンケート ご協力をお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、刑法犯の認知件数は全体として減少しておりますが、子供や女性を狙った犯罪は、依然として増減を繰り返しながら推移しています。子供や女性を狙った犯罪へのさらなる対策を講じるためには、犯罪被害や関連する危険な出来事があった場所に着目する分析が必要となっています。

そこで、本年度警察庁が実施している「子供・女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究」の一環として、小学生の皆さまを対象としてアンケート調査を企画致しました。全国から分析地区を選定した上で、各学校のご協力をあおぎ、本調査票をお送りさせていただきました。保護者の皆さま方には、お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解賜り、お子様と一緒に協力いただければ幸いです。

なお、本調査は警察庁が選定した委託業者である、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社により実施されます。

敬具

平成 30 年 9 月

警察庁 生活安全局 生活安全企画課

【ご回答にあたって】

- ・本アンケートへ回答するかどうかは、**皆さまの意思で自由に決める**ことができます。
- ・アンケートは一部お子様の状況についてお尋ねしています。これらの箇所は **お子様と一緒にご回答** くださいようお願い申し上げます。
- ・**それぞれの設問への回答は任意** です。答えたくない質問には答えなくても問題ありません。また、途中で回答をやめたくなった場合には、回答を中断していただいてもかまいません。アンケートを中断すること、回答を飛ばすことによる **不利益は一切生じません**。
- ・ご回答いただいた内容によって、皆さまが不利益を被ることも一切ございません。
- ・調査結果はすべて統計処理され、**回答者ご自身が特定される形で公表されることは一切ございません**。また、得られたデータは本調査研究の研究目的以外に使用することは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。
- ・本アンケート調査にご回答いただいたことによって、本調査への参加にご同意いただいたものとさせていただきます。

【ご提出について】

- ・小学校で回収する場合には、指示された回収方法・期限に従ってください。その際、プライバシー保護のため、**必ずご自身で回収・返信用封筒に入れて封** をしてください。
- ・小学校等で回収できなかった場合には、お手数ですが同封の回収・返信用封筒にて **10 月 2 日(火)** までにご投函いただきますようお願い致します（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

- ・アンケートの内容に不明な点や問い合わせ等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社
公共経営・地域政策部 担当：大垣・国友・土方・中井
電 話：03-6733-3400（平日：10：00～12：00、13：00～17：00）

— 個人情報のお取り扱いについて —

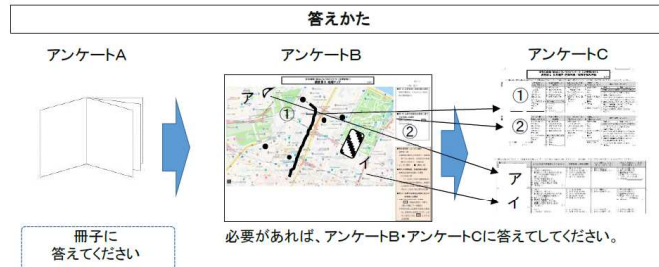
- ・ご記入いただきました調査票は、委託元である警察庁、本調査の実施主体である三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)が取り扱います。お預かりする個人情報は、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)の「個人情報保護方針」(<http://www.murc.jp/corporate/privacy>) 及び「個人情報の取り扱いについて」(<http://www.murc.jp/privacy/>) に従って適切に取り扱います。
- ・ご回答いただいた内容は、本アンケートの分析のために利用させていただきます。回答者が特定されない形で統計的に処理いたしますので、個々の回答が他に知られることはありません。

裏面に回答と提出の流れを記載しておりますので必ずお読みください

<回答と提出の流れ>

<回答手順>

アンケートはA・B・Cと全部で3種類あります。アンケートAの流れにそって回答を進めて、**すべての調査票にご回答**ください。



【アンケートA まちの安全・安心についてのみなさんの考えについて】(A4冊子 8ページ)

- ・まちの安全・安心に関する皆様の意識をおたずねしております。この調査票にそって回答を進めてください。
- ・1～4ページは保護者の方がお子様に聞き取りながら、5ページ以降は保護者の方がお答えください
- ・設問文の指示に従い、あてはまる選択肢の番号に○を付けたり、具体的内容を枠内に記入したりしてください。
- ・記入欄が不足する場合には、適宜余白等をご活用ください。
- ・必要に応じて、【アンケートB】【アンケートC】に回答を記入してください。その際別紙の記入方法もご参照ください。

【アンケートB 地域マップ】(A3サイズの地図)

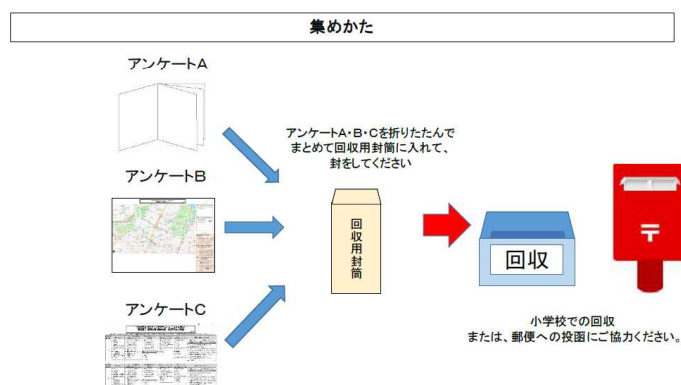
- ・マップの範囲において、犯罪の被害や危険な出来事を体験した場所・犯罪の被害や危険な出来事にあう不安を感じている場所について記入してください。

【アンケートC 危ない目にあったこと・危険を感じたことについて】(A3サイズ縦版の表)

- ・犯罪の被害や危険な出来事の体験の詳細、犯罪の被害や危険な出来事にあう不安の詳細について、調査票Cに内容を回答してください。

<提出方法>

アンケートA・B・Cの3点すべてをセットにして回収・返信用封筒に入れて、封をしてから提出(または郵送)してください。



(2) 調査票

ID-11

あんぜん あんしん しょうがくせいむ まちの安全・安心についてのアンケート【小学生向け】 あんぜん あんしん かんが アンケートA まちの安全・安心についてのみなさんの考えかたについて 警察庁
--

ここから先は保護者の皆様とお子様とご一緒にお答えください。

※ これから聞く「犯罪」や「危ない自」とは次のことをいいます。

- 「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖いことやエッチなことを言われる
 - 追いかけられたり、後をつけられる
 - 体をさわられる
 - 物やお金をひったくられたり、無理やり取られる
 - のぞき見される
 - 顔や体の写真を撮られる（盗撮）
 - 裸などの恥ずかしいものを見せられる（露出）
- ※ このほかの犯罪や、車や自転車による交通事故、地震や大雨などの災害での怪我などは除いてください。

1. 犯罪から身を守るために、お子様自身が気をつけていることを教えてください。

問1. お子様は普段、次のようなことをどのくらいしていますか。下の(ア)～(シ)について、それぞれお子様に確認いただきながら、「いつもする」「ときどきする」「しない」のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

ア) 出かける時はどこに行くか、おうちの人に言う……………	いつもする・ときどきする・しない
イ) 出かける時はいつまでに帰るか、おうちの人に言う……………	いつもする・ときどきする・しない
ウ) 外ではひとりでは遊ばず、友だちと遊ぶようにする……………	いつもする・ときどきする・しない
エ) 学校の登下校や遊びに行くときは、できるだけ一人で歩かないようにする……………	いつもする・ときどきする・しない
オ) 学校からの帰り道や出かけたときに、より道や道草をする……………	いつもする・ときどきする・しない
カ) ひとりで家にいる時に知らない人が来てもドアを開ける……………	いつもする・ときどきする・しない
キ) 防犯ブザーを持ち歩く……………	いつもする・ときどきする・しない
ク) 携帯電話を持ち歩く……………	いつもする・ときどきする・しない
ケ) 自分の居場所を知らせる機器・アプリを持ち歩く……………	いつもする・ときどきする・しない
コ) 危ないと思ったら、危ないと言われたところに近づく……………	いつもする・ときどきする・しない
サ) 暗くなってからひとりで外に出る……………	いつもする・ときどきする・しない
シ) 暗くなってから帰るときは、だれかにむかえにきてもらう……………	いつもする・ときどきする・しない

II. お子様^{こさま}が危ない目^{あぶめ}にあったことがあるかどうかについて教えてください^{おし}。

(問2・問3は、【アンケートB 地域マップ】【アンケートC 危ないと感じることの内容】も使って教えてください^{つか}。そのとき、別紙「答えかたの説明」も見てください。)

問2. お子様^{こさま}は、現在の小学校^{げんざい しょうがっこう}に入学^{にゅうがく}(または転入^{てんにゅう})してからいままでに、【アンケートB 地域マップ】の地図^{ちい}のなかで、次のような危ない目^{あぶめ}にあったことがありますか。

<聞きたいこと>

- 時期^{じ き} : 現在^{げんざい}の小学校^{しょうがっこう}に入学^{にゅうがく}(または転入^{てんにゅう})してからいままで
- 場所^{ばしょ} : 【アンケートB 地域マップ】のなかで起きたこと^{おきたこと}について教えてください^{おた}。
- 危ないこと^{あぶめ}をしてきた人^{ひと} :
友だちや学校^{がっこう}の人などよく知っている人^{ひと}にされたことは答え^{こた}えないでください。

<答えかた>

- (1) 右^{みぎ}のページの<答えを書くところ>の「ア」～「キ」それぞれについて、あった・なかったのどちらかに○をつけてください。
- (2) 「あった」に○をつけたときは、何回^{なんかい}あったか数字^{すうじ}を書いてください。
- (3) 「あった」に○をつけたときは、危ない目^{あぶめ}にあった場所^{ばしょ}を、【アンケートB 地域マップ】のなかに○(白丸^{しろまる})印^{しるし}で書きこんでください。そして○(白丸^{しろまる})印^{しるし}のなかに①から順^{しゆん}に番号^{ばんごう}を入れてください(お子様^{こさま}が危ないと思った順^{しゆん}に4つまで)。
※ただし、危ない目^{あぶめ}にあったのが自分^{じぶん}の家^{いえ}の場合は、地図^{ちず}には印^{しるし}をつけず、地図^{ちず}の横^{よこ}の「自分^{じぶん}の家^{いえ}で起きたことに○(白丸^{しろまる})印^{しるし}と番号^{ばんごう}を書いてしてください。自分^{じぶん}の家^{いえ}で何回^{なんかい}も危ない目^{あぶめ}にあったときは、その回数^{かいすうどん}分^{ぶん}だけ書いてしてください。
- (4) ○(白丸^{しろまる})印^{しるし}の場所^{ばしょ}で起きた危なかったことについて、【アンケートC 危ないと感じることの内容】の<問2: 危ない目^{あぶめ}にあった体験^{たいけん}について>に、(3) でつけた番号^{ばんごう}の出来事^{できごと}の内容^{ないよう}を書いてください(「自分^{じぶん}の家^{いえ}で起きたこと」に書いた番号^{ばんごう}についても内容^{ないよう}を書いてください)。

(次ページに続きます)

<答えを書くところ>

	できごとの種類 (しゅるい)	けんぜい しょうがっこう にゅうがく てんにゅう 現在の小 学 校 に 入 学 (又は転入)	してからこれまでに
ア	「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖い ことやエッチなことを言われたりした	あった・なかった	() 回 (かい)
イ	追いかけられたり、後をつけられた	あった・なかった	() 回 (かい)
ウ	からだ 体をさわられた	あった・なかった	() 回 (かい)
エ	もの お金やお金をひったくられたり、無理やり取られ た (取られそうになった)	あった・なかった	() 回 (かい)
オ	のぞき見された	あった・なかった	() 回 (かい)
カ	かお 顔や からだ 体の写真を撮られた (撮られそうになっ た)	あった・なかった	() 回 (かい)
キ	はだか 裸などの恥ずかしいものをみせられた (みせら れそうになった)	あった・なかった	() 回 (かい)



(3) 経験した
ものについて
は、【アンケート
B 地域 マッ
プ】に場所を○
(白丸)印をつ
けて番号を書い
てください。

(4)【アンケー
トC 危ないと
感じることの
内容】の<問2:
危ない目にあっ
た体験につい
て>に内容を書
いてください。

(次ページに続きます)

Ⅲ. お子様^{こさま}がまちのなかで^{あぶ}危ないことをされそうだと感じて^{かん}いる場所^{ばしょ}について教えてください^{おし}。

問3. お子様^{こさま}がまちのなかで、下の＜聞きたいこと＞^きのような危ないことをされそうだと感じて^{かん}いる場所^{ばしょ}をお答え^{こた}ください。

＜聞きたいこと＞

- 「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖いことやエッチなことを言われる
- 追いかけられたり、後をつけられる
- 体をさわられる
- 物やお金をひたつられたり、無理やり取られる
- のぞき見される
- 顔や体の写真を撮られる（盗撮）
- 裸などの恥ずかしいものを見せられる（露出）

※ 車や自転車の事故、転んだりぶつかったりして怪我をしそう、危ないものが置いてある、地震や大雨などの災害のときに危ない、などの場所は書かないでください。

※ お子様本人が危ないことをされそうだと感じて^{かん}いる場所^{ばしょ}だけをお答え下さい。

＜答えかた＞

（1）お子様が、＜聞きたいこと＞のような危ないことを、だれかにされそうだと感じて^{かん}いる場所^{ばしょ}を、【アンケートB 地域マップ】にで囲って示してください。

※ただし、自分の家が危ないと感じる場合は、地図の横の「自分の家で危ないことをされそうところ」にを書いください。

（2）の横に、「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」、「オ」の順にカタカナをつけてください（お子様が危ないと感じる程度の高い順に5つまで）。

（3）最後に、「ア」から「オ」の場所で感じる不安の内容を、【アンケートC 危ないと感じることの内容】の＜問3:危ないと感じる場所について＞にそって答えてください。

（次ページに続きます）

これから先は保護者の皆様がお答えください。

IV. 保護者の皆様（以下「あなた」と表記）とお子様のことについて教えてください。

問4. 以下の質問について、あてはまる番号に○をつけたり、カッコのなかに回答してください。

あなたの性別（１つに○）		1. 男性 2. 女性
あなたとお子様の続柄		1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. 祖母 5. その他（ ）
４ページまでの回答方法 （１つに○）		1. 主にあなた（保護者）が記入した 2. 主に子どもが記入した 3. 子どものみで記入した
お子様の学年（１つに○）		1. ２年生 2. ５年生
お子様の性別（１つに○）		1. 男の子 2. 女の子
お子様の学童保育の利用有無		1. 利用している 2. 利用していない
お住まいの住宅 （１つに○）		1. 戸建て 2. 集合住宅（マンション・アパート） 3. その他（ ）
お住まいの地区（町丁目名）		（ ） （例：霞が関２丁目）
今の地区にお住まいの年数		（ ） 年
ご家族 の状況	未成年者の人数	（ ） 人 うち小学生（ ） 人
	お子様の祖父母の お住まい （１つに○）	1. 同居している（二世帯住宅を含む） 2. 普段から行き来できる場所に住んでいる 3. その他（遠隔地に住んでいるなど）
お子様の登下校の方法 （それぞれあてはまるもの すべてに○）		1. 徒歩 2. 自転車 3. その他（ ）
家から学校までの通学時間 （数字を記入）		学校まで（ ）分程度 うちお子様が１人でいる時間 登校時：（ ）分程度 下校時：（ ）分程度
下校時間帯の 大人（両親や祖父母などの）の 在宅の有無 （１つに○）		1. いつも大人が１人以上在宅している 2. 大人が１人以上在宅していることが多い 3. 大人が在宅していないことが多い 4. いつも大人は在宅していない

V. 保護者の皆様自身がまちの安全・安心について感じていることを教えてください。

問5. お子様に帰宅の門限を決めていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。「1. 門限を決めている」場合には、おおよその時間を書いてください。

1. 門限を決めている→午後（ ）時頃 2. 門限を決めていない

問6. 平日の放課後に、お子様が外出する頻度は週にどの程度ですか(回答欄①)。また、その際子どもだけで行くことはありますか(回答欄②)。それぞれ、行き先毎に回答欄①、回答欄②に選択肢欄からあてはまる番号を選び記入してください。

	【回答欄① 選択肢】		【回答欄② 選択肢】
	1. まったくない 2. 月に1～2回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回程度 5. ほぼ毎日		1. いつも子どもだけで行く 2. 子どもだけで行くことが多い 3. 大人が送り迎え(送迎バス等も含みます)をすることが多い 4. いつも大人が送り迎えをする
	それぞれの回答欄に 当てはまる選択肢の番号を記入		
	【回答欄①】 頻度		【回答欄②】 子どもだけの行動頻度 往路 復路
(記入例) 塾や習い事	2		3 3
塾や習い事		「回答欄①」で 「2.」～「5.」を 選んだ場合には 回答欄②も記入 	
友人宅			
図書館や児童館などの施設			
公園等の屋外の遊び場			
その他の場所			

問7. あなたは、【アンケート B 地域マップ】内で、お子様が犯罪や危ない目にあうのではないかと、という不安を感じることがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
「2. あまりない」～「5. よくある」を選んだ方は問7-1もお答えください。

1. まったくない 2. あまりない 3. どちらともいえない 4. たまにある 5. よくある

問 7-1 問7で「2. あまりない」～「5. よくある」を選んだ方のみお答え下さい。

あなたは、【アンケートB 地域マップ】内で、お子様が犯罪や危ない目にあうのではないかと感じる場所はどこですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 路上	2. 地下街	3. 公園	4. 駐車場	5. 駐輪場
6. 空き地	7. 空き家	8. 商業施設	9. 駅	10. 自宅
11. その他 ()				
(選択肢 12～16は【アンケートB 地域マップ】内のマンション・アパートに住んでいる人のお選びください)				
12. 共用の廊下	13. 共用の階段	14. 共用の駐車場・駐輪場	15. エレベーター	
16. 共用玄関・エントランスホール				

問8. あなたは、【アンケートB 地域マップ】内で行われている、住民等の夜間の防犯パトロールや青色回転灯をつけたパトロールカー(青パト)などの見守り活動を、見たり知ったりしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 見たことがある	2. 知っているが見たことはない	3. 知らない
------------	------------------	---------

問9. あなたは、【アンケートB 地域マップ】内では、以下のア)～ウ)のそれぞれについて、どのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	1 全く そう 思わない	2 あまり そう 思わない	3 どちら とも いえない	4 やや そう 思う	5 とても そう 思う
ア) この地域の人たちは、子供が危ない目にあわないように気配りしてくれる	1	2	3	4	5
イ) この地域には、子供のことで相談できる人がいる	1	2	3	4	5
ウ) この地域の人たちは子どもの防犯活動について協力的である	1	2	3	4	5

(次ページに続きます)

VI. あなたがお子様の身を守るためにお感じのこと・お取り組みのことを教えてください。

問10. お子様の身を守るために、あなたご自身はどのようなことを心がけていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

特にない場合は「12. 特に心がけていることはない」だけを選んでください。

1. 防犯メールに登録するなど、警察や自治体からの防犯に関する情報を集める
2. 近所の人から防犯に関する情報を集める
3. 子ども見守り活動に参加する
4. 防犯教室等に参加する
5. 危ない場所を子どもに伝える
6. 子どもの外出先に迎えに行く
7. 子どもに防犯ブザーを持たせる
8. 連絡用の携帯電話を持たせる
9. 子どものいる場所がわかる機器・アプリを持たせる
10. 親子で子供 110 番の家を確認している
11. その他 ()
12. 特に心がけていることはない

問11. お子様の身を守るために、お子様に対して次の様なことを言い聞かせていますか。以下のア)～カ)のそれぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

	1 よく 注意して いる	2 たまに 注意して いる	3 あまり 注意して いない	4 まったく 注意して いない
ア) 知らない人にはついていかない	1	2	3	4
イ) 知らない人の車に乗らない	1	2	3	4
ウ) あぶないと思ったら大きな声を出す	1	2	3	4
エ) あぶないと思ったらすぐに逃げる	1	2	3	4
オ) あぶないことがあったらすぐに大人に知らせる	1	2	3	4
カ) 一人だけで遊ばない	1	2	3	4

問12. その他、お子様の身を守る上でお感じのことや、今回のアンケートへの感想などがあればご自由にお書き下さい。

--

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。



ID-11
＜自分の家で起きたこと＞

■問2 危ない自にあったところ
自分の家の場合は、こちらに○（白丸）印と番号を書く

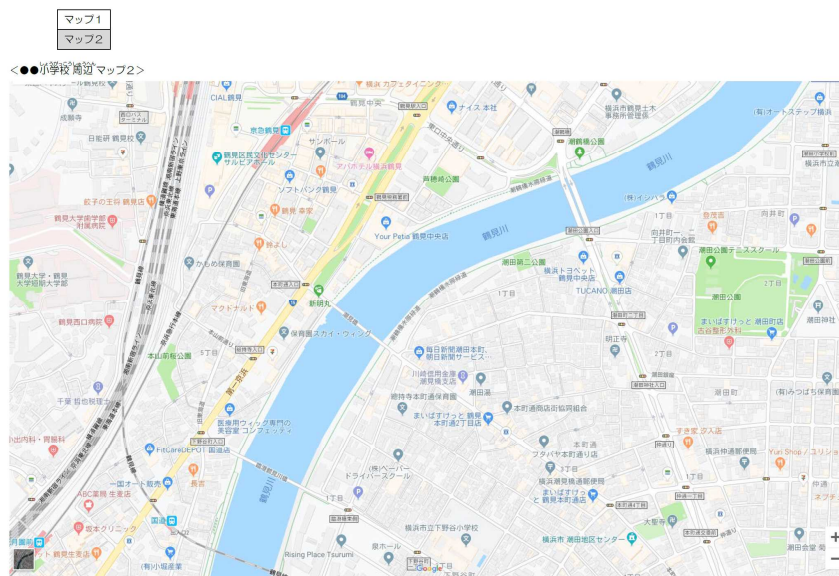
＜自分の家で危ないことを
されそうところ＞

■問3 危ないことをされそうだと感じる場所
自分の家の場合は、こちらに
□とカタカナを書く

＜記入方法＞

■問2 危ない自にあったところ
・危ない自にあった場所に
：○（白丸）印
（○（白丸）のなかに番号を書く）
※場所が自分の家の場合は、地図には印をつけます。上の＜自分の家で起きたこと＞に○（白丸）印と番号を書く

■問3 危ないことをされそうだと感じる場所
・危ないことをされそうだと感じる場所を：□（自由な形）で囲う
（四角の横にア～を添える）
※自分の家が危ないと感じる場合は、地図内には印をつけます。上の＜自分の家で危ないことをされそうところ＞内に□とカタカナを書く



ID-11
＜自分の家で起きたこと＞

■問2 危ない自にあったところ
自分の家の場合は、こちらに○（白丸）印と番号を書く

＜自分の家で危ないことを
されそうところ＞

■問3 危ないことをされそうだと感じる場所
自分の家の場合は、こちらに
□とカタカナを書く

＜記入方法＞

■問2 危ない自にあったところ
・危ない自にあった場所に
：○（白丸）印
（○（白丸）のなかに番号を書く）
※場所が自分の家の場合は、地図には印をつけます。上の＜自分の家で起きたこと＞に○（白丸）印と番号を書く

■問3 危ないことをされそうだと感じる場所
・危ないことをされそうだと感じる場所を：□（自由な形）で囲う
（四角の横にア～を添える）
※自分の家が危ないと感じる場合は、地図内には印をつけます。上の＜自分の家で危ないことをされそうところ＞内に□とカタカナを書く

まちの安全・安心についてのアンケート【小学生向け】 アンケートC 危険と感じることの内容

＜問2: 危険な目にあった体験について＞(アンケートB 地域マップに、○印をつけて番号を振ったところ) ※あてはまるものに○をつけてください

場所の番号	危険な目にあった学年・とき・時間 (1つに○または記入)	場所の種類 (1つに○)	どのような危険な目にありましたか (もっとも当てはまるもの1つに○)	あなたはどのような行動をしましたか (あてはまるものすべてに○)	(保護者の方へ) どなたに連絡しましたか (あてはまるものすべてに○)
①	◆学年 () 年生のとき ◆季節 □春(3～5月) □夏(6～8月) □秋(9～11月) □冬(12～2月) ◆日にち □学校に行く日 □休みの日 ◆いつ □学校に行くとき □学校からの帰り □遊んでいるとき □学校以外への行き帰り ◆なんじごろ 午前・午後 () 時頃	(住宅以外) (戸建て住宅) □路上 □敷地内の屋外 □地下街 □屋内 □公園 (P・T・A・マッソ) □駐車場 □駐車場 □駐輪場 □駐輪場 □空き地 □エレベーター □空き家 □共用玄関・エ □駅 □トランスホール □お店 □共用廊下 □共用階段 □自宅の中 (その他) □その他	□「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖いことやエッチなことを言われたりした □追いかけられたり、後をつけられた □体をさわられた □物やお金をひたつくれたり、無理やり取られた(取られそうになった) □のぞき見された □顔や体の写真を撮られた(撮られそうになった) □裸などの恥ずかしいものを見せられた(見せられそうになった) 差し支えなければ、どのようなものだったかお書きください	□やめてと言った □大声で助けを呼んだ □走って逃げた □防犯ブザーやベルを鳴らした □子ども110番の家に駆け込んだ □近くの家に駆け込んだ □近くの店に駆け込んだ □通行人に助けを求めた □その他 □何もなかった □何もできなかった	□自分の親や親戚 □担任など学校 □近所の人 □PTA関係者 □防犯ボランティア団体 □警察 □その他 () □誰にも連絡・相談しなかった □今回初めて知った

場所の番号	危険な目にあった学年・とき・時間 (1つに○または記入)	場所の種類 (1つに○)	どのような危険な目にありましたか (もっとも当てはまるもの1つに○)	あなたはどのような行動をしましたか (あてはまるものすべてに○)	(保護者の方へ) どなたに連絡しましたか (あてはまるものすべてに○)
②	◆学年 () 年生のとき ◆季節 □春(3～5月) □夏(6～8月) □秋(9～11月) □冬(12～2月) ◆日にち □学校に行く日 □休みの日 ◆いつ □学校に行くとき □学校からの帰り □遊んでいるとき □学校以外への行き帰り ◆なんじごろ 午前・午後 () 時頃	(住宅以外) (戸建て住宅) □路上 □敷地内の屋外 □地下街 □屋内 □公園 (P・T・A・マッソ) □駐車場 □駐車場 □駐輪場 □駐輪場 □空き地 □エレベーター □空き家 □共用玄関・エ □駅 □トランスホール □お店 □共用廊下 □共用階段 □自宅の中 (その他) □その他	□「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖いことやエッチなことを言われたりした □追いかけられたり、後をつけられた □体をさわられた □物やお金をひたつくれたり、無理やり取られた(取られそうになった) □のぞき見された □顔や体の写真を撮られた(撮られそうになった) □裸などの恥ずかしいものを見せられた(見せられそうになった) 差し支えなければ、どのようなものだったかお書きください	□やめてと言った □大声で助けを呼んだ □走って逃げた □防犯ブザーやベルを鳴らした □子ども110番の家に駆け込んだ □近くの家に駆け込んだ □近くの店に駆け込んだ □通行人に助けを求めた □その他 □何もなかった □何もできなかった	□自分の親や親戚 □担任など学校 □近所の人 □PTA関係者 □防犯ボランティア団体 □警察 □その他 () □誰にも連絡・相談しなかった □今回初めて知った

場所の 番号	危ない目にあった 学年・とき・時間 (1つに✓または記入)	場所の種類 (1つに✓)	どのような危ない目にありましたか (もっとも当てはまるもの1つに✓)	あなたはどのような 行動をしましたか (あてはまるものすべてに✓)	(保護者の方へ) どなたに連絡しましたか (あてはまるものすべてに✓)
③	◆学年 () 年生のとき ◆季節 ☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ◆日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ◆いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ◆なんじごろ 午前・午後 () 時頃	(住宅以外) (戸建て住宅) ☐ 路上 ☐ 敷地内の屋外 ☐ 地下街 ☐ 屋内 ☐ 公園 (P・T・マッソン) ☐ 駐車場 ☐ 駐 車 場 ☐ 駐 輪 場 ☐ 駐 輪 場 ☐ 空き地 ☐ エレベーター ☐ 空き家 ☐ 共用玄関・エ ☐ 駅 ☐ トランスホール ☐ お店 ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖い ことやエッチなことを言われたりした ☐ 追いかけられたり、後をつけられた ☐ 体をさわられた ☐ 物やお金をひたたくられたり、無理やり取られ た(取られそうになった) ☐ のぞき見された ☐ 顔や体の写真を撮られた(撮られそうになっ た) ☐ 裸などの恥ずかしいものを見せられた(見せら れそうになった) 差し支えなければ、どのようなものだったかお書きく ださい ()	☐ やめてと言った ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを 鳴らした ☐ 子ども110番の家に 駆け込んだ ☐ 近くの家に駆け込ん だ ☐ 近くの店に駆け込ん だ ☐ 通行人に助けを求め た ☐ その他 () ☐ 何もしなかった ・何もできなかった	☐ 自分の親や親戚 ☐ 担任など学校 ☐ 近所の人 ☐ P T A関係者 ☐ 防犯ボランティア団体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 誰にも連絡・相談 しなかった ☐ 今初めて知った

場所の 番号	危ない目にあった 学年・とき・時間 (1つに✓または記入)	場所の種類 (1つに✓)	どのような危ない目にありましたか (もっとも当てはまるもの1つに✓)	あなたはどのような 行動をしましたか (あてはまるものすべてに✓)	(保護者の方へ) どなたに連絡しましたか (あてはまるものすべてに✓)
④	◆学年 () 年生のとき ◆季節 ☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ◆日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ◆いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ◆なんじごろ 午前・午後 () 時頃	(住宅以外) (戸建て住宅) ☐ 路上 ☐ 敷地内の屋外 ☐ 地下街 ☐ 屋内 ☐ 公園 (P・T・マッソン) ☐ 駐車場 ☐ 駐 車 場 ☐ 駐 輪 場 ☐ 駐 輪 場 ☐ 空き地 ☐ エレベーター ☐ 空き家 ☐ 共用玄関・エ ☐ 駅 ☐ トランスホール ☐ お店 ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 「一緒に遊ぼう」などと声をかけられたり、怖い ことやエッチなことを言われたりした ☐ 追いかけられたり、後をつけられた ☐ 体をさわられた ☐ 物やお金をひたたくられたり、無理やり取られ た(取られそうになった) ☐ のぞき見された ☐ 顔や体の写真を撮られた(撮られそうになっ た) ☐ 裸などの恥ずかしいものを見せられた(見せら れそうになった) 差し支えなければ、どのようなものだったかお書きく ださい ()	☐ やめてと言った ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを 鳴らした ☐ 子ども110番の家に 駆け込んだ ☐ 近くの家に駆け込ん だ ☐ 近くの店に駆け込ん だ ☐ 通行人に助けを求め た ☐ その他 () ☐ 何もしなかった ・何もできなかった	☐ 自分の親や親戚 ☐ 担任など学校 ☐ 近所の人 ☐ P T A関係者 ☐ 防犯ボランティア団体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 誰にも連絡・相談 しなかった ☐ 今初めて知った

＜問3: 危ないと感じる場所について＞(アンケートB 地域マップに  で囲んで番号を振ったところ)※あてはまるものに☑をつけてください

危ないと感じる場所の記号	場所の種類 (1つに☑)	どうして危ないと感じているのですか (あてはまるものすべてに☑)	不安を感じる時間帯 (1つに☑)	不安は最初に自分で感じたものですか (1つに☑)
ア	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ お店 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (P/A・マッパ) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人がいないから ☐ ゴミが落ちていたり、落書きがあるから ☐ こわい人がいるから ☐ こわい自にあった人がいると聞いたから ☐ 見通しが悪いから ☐ その他 ()	☒ 日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ☒ いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ☒ なんじごろ 午前・午後 () 時頃	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きした (他から見聞きした場合) ☐ 誰から聞きましたか ☐ 先生から聞いた ☐ 友達から聞いた ☐ 家族から聞いた ☐ 警察官から聞いた ☐ 新聞・テレビ・インターネット のニュースで見た ☐ その他 ()

危ないと感じる場所の記号	場所の種類 (1つに☑)	どうして危ないと感じているのですか	不安を感じる時間帯	不安は最初に自分で感じたものですか
イ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ お店 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (P/A・マッパ) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人がいないから ☐ ゴミが落ちていたり、落書きがあるから ☐ こわい人がいるから ☐ こわい自にあった人がいると聞いたから ☐ 見通しが悪いから ☐ その他 ()	☒ 日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ☒ いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ☒ なんじごろ 午前・午後 () 時頃	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きした (他から見聞きした場合) ☐ 誰から聞きましたか ☐ 先生から聞いた ☐ 友達から聞いた ☐ 家族から聞いた ☐ 警察官から聞いた ☐ 新聞・テレビ・インターネット のニュースで見た ☐ その他 ()

危ないと感じる場所の記号	場所の種類 (1つに☑)	どうして危ないと感じているのですか	不安を感じる時間帯	不安は最初に自分で感じたものですか
ウ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ お店 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (P/A・マッパ) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人がいないから ☐ ゴミが落ちていたり、落書きがあるから ☐ こわい人がいるから ☐ こわい自にあった人がいると聞いたから ☐ 見通しが悪いから ☐ その他 ()	☒ 日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ☒ いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ☒ なんじごろ 午前・午後 () 時頃	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きした (他から見聞きした場合) ☐ 誰から聞きましたか ☐ 先生から聞いた ☐ 友達から聞いた ☐ 家族から聞いた ☐ 警察官から聞いた ☐ 新聞・テレビ・インターネット のニュースで見た ☐ その他 ()

危ないと感じる場所の記号	場所の種類 (1つに☑)	どうして危ないと感じているのですか	不安を感じる時間帯	不安は最初に自分で感じたものですか
エ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ お店 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (P/A・マッパ) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人がいないから ☐ ゴミが落ちていたり、落書きがあるから ☐ こわい人がいるから ☐ こわい自にあった人がいると聞いたから ☐ 見通しが悪いから ☐ その他 ()	☒ 日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ☒ いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ☒ なんじごろ 午前・午後 () 時頃	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きした (他から見聞きした場合) ☐ 誰から聞きましたか ☐ 先生から聞いた ☐ 友達から聞いた ☐ 家族から聞いた ☐ 警察官から聞いた ☐ 新聞・テレビ・インターネット のニュースで見た ☐ その他 ()

危ないと感じる場所の記号	場所の種類 (1つに☑)	どうして危ないと感じているのですか	不安を感じる時間帯	不安は最初に自分で感じたものですか
オ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ お店 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (P/A・マッパ) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用廊下 ☐ 共用階段 ☐ 自宅の中 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人がいないから ☐ ゴミが落ちていたり、落書きがあるから ☐ こわい人がいるから ☐ こわい自にあった人がいると聞いたから ☐ 見通しが悪いから ☐ その他 ()	☒ 日にち ☐ 学校に行く日 ☐ 休みの日 ☒ いつ ☐ 学校に行くとき ☐ 学校からの帰り ☐ 遊んでいるとき ☐ 学校以外への行き帰り ☒ なんじごろ 午前・午後 () 時頃	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きした (他から見聞きした場合) ☐ 誰から聞きましたか ☐ 先生から聞いた ☐ 友達から聞いた ☐ 家族から聞いた ☐ 警察官から聞いた ☐ 新聞・テレビ・インターネット のニュースで見た ☐ その他 ()

(3) 別紙等

別紙

<問2、問3のアンケートB・Cを用いた答えかた>

アンケートA

問2. お子様は、現在の小学校に入学(または転入)してからいままでは、アンケートBの地図のなかで、次のような危ない目にあったことがありますか。

危ない目にあった・なかったかと、回数をそれぞれ回答してください

(書きかた)

写真の場面	頻りにあった回数	危ない目にあった回数
1. 校庭、運動場の土や砂の飛び散り、転倒	あつた () 回	あつた () 回
2. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
3. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
4. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
5. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
6. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
7. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
8. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
9. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回
10. 校舎、廊下、トイレ、給食室、図書室、校庭、運動場の雨、雪、氷、風、暑さ、寒さ	あつた () 回	あつた () 回

※5回以上体験がある場合、影響が大きかった順に4つを選ぶ

アンケートB

地図のなかに書いてしてください

危ない目にあった場所を①、②、③、④で書いてください

自分の家以外の場所、自分の家の場合は地図の外の「自分の家で起きたこと」に記入

(書きかた)

アンケートC

それぞれの場所の具体的な内容を書いてください

(書きかた)

地図の①～④にあわせて、内容を書いてください

アンケートB

危ないと感じる場所を「ア」「イ」...で書いてください

危ないと感じる場所が5箇所の場合、順にア～オとする。(自分の家の場合は「自分の家で危ないところ」をそれぞれに書く)

アンケートC

それぞれの場所の具体的な内容を書いてください

地図のア～オにあわせて、内容を書いてください

問3の回答はアンケートB・Cにお答えください

101

調査にご協力いただいた保護者と児童のみなさまへ

ご協力いただいた調査について

このたびは、アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

この調査の目的は、小学生が被害にあう犯罪を防止し、地域の安全を守るためには何が必要か、小学生のみなさまのご経験や考えを通して把握することです。そのために、みなさまの日常生活、通学環境、過去の危険な事案などによる被害、行っている防犯対策、安全についてのお考えなどを幅広く調査しました。

本調査を通じて、不安な気持ちを抱かれた方、過去の事案等や今後の防犯対策について相談を希望される方等がおられれば、下記の窓口等をご利用下さい。

【警察における連絡・相談窓口】

・相談は「警察相談専用電話」

9 1 1 0

※原則として、平日 8 : 30 から 17 : 15（都道府県警察により異なります。）

執務時間外・土日祝日は当直に接続又はテープによる案内で対応

・相談は「全国共通性犯罪被害相談専門ダイヤル」

8 1 0 3 「ハートさん」

※原則として、平日 8 : 30 から 17 : 15（都道府県警察により異なります。）

執務時間外・土日祝日は当直に接続又はテープによる案内で対応

以上の窓口は、相談者の電話発信場所を管轄する警察本部につながります。

※ 緊急時は 1 1 0 番してください。

その他、調査対象地区を管轄する警察本部の連絡先は、

- ・神奈川県警察本部 0 4 5 - 2 1 1 - 1 2 1 2（代表）
- ・愛知県警察本部 0 5 2 - 9 5 1 - 1 6 1 1（代表）
- ・広島県警察本部 0 8 2 - 2 2 8 - 0 1 1 0（代表）
- ・福岡県警察本部 0 9 2 - 6 4 1 - 4 1 4 1（代表）

となります。相談については、電子メールでも受け付けることができます。

詳しくは、各県警本部のホームページをご確認ください。

なお、事件・不審者情報や防犯情報についても、各県警本部からメールで配信しております。受信を希望される方は、各県警察本部のホームページに登録方法等が掲載されていますので、ご確認ください。

- ・神奈川県警察本部 「ビーガルくん子ども安全メール」
- ・愛知県警察本部 「バトネットあいち」
- ・広島県警察本部 「広島県警察メールマガジン」
- ・福岡県警察本部 「ふっけい安心メール」

<調査実施機関>

警察庁生活安全局生活安全企画課

3-2. 女子大生向け

(1) 送付文

ID-11

まちの安全・安心についてのアンケート ご協力をお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、刑法犯の認知件数は全体として減少しておりますが、子供や女性を狙った犯罪は、依然として増減を繰り返しながら推移しています。子供や女性を狙った犯罪へのさらなる対策を講じるためには、犯罪被害や関連する危険な出来事があった場所に着目する分析が必要となっています。

そこで、本年度警察庁が実施している「子供・女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究」の一環として、女子大学生の皆様を対象としてアンケート調査を企画致しました。全国から分析地区を選定した上で、大学のご協力をあおぎ、本調査票をお送りさせていただきました。皆様方には、お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解賜り、ご協力いただければ幸いです。

なお、本調査は警察庁が選定した委託業者である、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社により実施されます。

敬具

平成 30 年 7 月

警察庁 生活安全局 生活安全企画課

【ご回答にあたって】

- ・本アンケートへ回答するかどうかは、**皆さまの意思で自由に決める**ことができます。
- ・**それぞれの設問への回答は任意**です。答えたくない質問には答えなくても問題ありません。また、途中で回答をやめたくなった場合には、回答を中断していただいてもかまいません。アンケートを中断すること、回答を飛ばすことによる**不利益は一切生じません**。
- ・ご回答いただいた内容によって、皆さまが不利益を被ることも一切ございません。
- ・調査結果はすべて統計処理され、**回答者ご自身が特定される形で公表されることは一切ございません**。また、得られたデータは本調査研究の研究目的以外に使用することは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。
- ・本アンケート調査にご回答いただいたことによって、本調査への参加にご同意いただいたものとさせていただきます。なお、アンケートは**ご自身でご回答**くださいますようお願い申し上げます。

【ご提出について】

- ・大学の講義などで回答・回収する場合には、指示された回収方法・期限に従ってください。その際、プライバシー保護のため、**必ずご自身で回収・返信用封筒に入れて封**をしてください。
- ・大学等で回収できなかった場合には、お手数ですが同封の回収・返信用封筒にて**8月20日(月)**までにご投函いただきますようお願い致します（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

- ・アンケートの内容に不明な点や問い合わせ等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
公共経営・地域政策部 担当：大垣・国友・土方・中井
電話：03-6733-3400（平日：10：00～12：00、13：00～17：00）

— 個人情報のお取り扱いについて —

- ・ご記入いただきました調査票は、委託元である警察庁、本調査の実施主体である三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)が取り扱います。お預かりする個人情報は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)の「個人情報保護方針」(<http://www.murc.jp/corporate/privacy>)及び「個人情報の取り扱いについて」(<http://www.murc.jp/privacy/>)に従って適切に取り扱います。
- ・ご回答いただいた内容は、本アンケートの分析のために利用させていただきます。回答者が特定されない形で統計的に処理いたしますので、個々の回答が他に知られることはありません。

裏面に回答と提出の流れを記載しておりますので必ずお読みください

<回答と提出の流れ>

<回答手順>

調査票はA・B・Cと全部で3種類あります。調査票Aの流れにそって回答を進めて、すべての調査票にご回答ください。



【調査票A 安全・安心に関する意識調査】(A4冊子 4ページ)

- まちの安全・安心に関する皆様の意識をおたずねしております。この調査票にそって回答を進めてください。
- 設問文の指示に従い、あてはまる選択肢の番号に○を付けたり、具体的内容を枠内に記入したりしてください。
- 記入欄が不足する場合には、適宜余白等をご活用ください。
- 必要に応じて、【調査票B】【調査票C】に回答を記入してください。その際別紙の記入方法もご参照ください。

【調査票B 地域マップ】(A3サイズの地図)

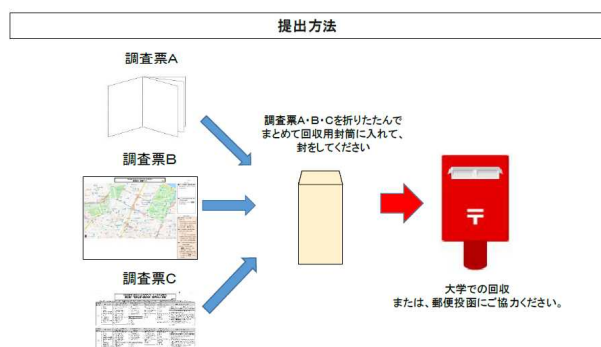
- マップの範囲において、犯罪の被害や危険な出来事を体験した場所・犯罪の被害や危険な出来事にあう不安を感じている場所について記入してください。

【調査票C 犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表】(A3サイズ縦版の表)

- 犯罪の被害や危険な出来事の体験の詳細、犯罪の被害や危険な出来事にあう不安の詳細について、調査票Cに内容を回答してください。

<提出方法>

調査票A・B・Cの3点すべてをセットにして回収・返信用封筒に入れて、封をしてから提出(または郵送)してください。



(2) 調査票

ID-11

まちの安全・安心についてのアンケート【大学生向け】
調査票 A 安全・安心に関する意識調査

警察庁

I. あなたご自身について教えてください。

以下の項目について、あてはまる番号に○を付けたり、カッコ内に内容を記入してください。

F1	ご年齢（数字を記入）	（ ） 歳	
F2	学年 （1つに○、数字を記入）	1. 学部（ ）年生 2. 修士課程・博士課程 3. その他（ ）	
F3	お住まいの住宅 （1つに○）	1. 戸建て 2. 集合住宅（アパート・マンション）【持家】 3. 集合住宅（アパート・マンション）【賃貸】 4. 集合住宅（学生寮） 5. その他（ ）	
F4	同居している人 （1つに○）	1. 家族 2. 友人・知人 3. 一人暮らし 4. その他（ ）	
F5	現在住んでいる場所 （1つに○）	1. 調査票 B 地域マップ内 2. 調査票 B 地域マップ外（大学と同一県内） 3. 調査票 B 地域マップ外（大学と別の都道府県）	
F6	入学直前に住んでいた場所 （1つに○）	1. 調査票 B 地域マップ内 2. 調査票 B 地域マップ外（大学と同一県内） 3. 調査票 B 地域マップ外（大学と別の都道府県）	
F7	通学時の電車の利用 （1つに○）	1. 電車を利用している 2. 電車を利用していない	
F8	通学交通手段 （あてはまるもの すべてに○）	①電車を利用している場合 （大学最寄り駅から大学まで） 1. 徒歩 2. 自転車 3. バス 4. その他（ ）	②電車を利用していない場合 （自宅から大学までの交通手段） 1. 徒歩 2. 自転車 3. バス 4. バイク（原付を含む） 5. 自家用車 6. その他（ ）
F9	通学以外に使っている 交通手段（あてはまるもの すべてに○）	1. 自転車 2. バイク（原付を含む） 3. バス 4. 電車 5. 自家用車 6. その他（ ）	
F10	帰宅が夜9時 を過ぎる頻度 （1つに○）	1. ほぼ毎日 2. 週2～3回程度 3. 週1回程度 4. ほとんどない	
F11	帰宅が深夜0時を 過ぎる頻度 （1つに○）	1. ほぼ毎日 2. 週2～3回程度 3. 週1回程度 4. ほとんどない	
F12	【調査票 B 地域マップ】内の 大学・自宅以外の 場所・施設・お店 （マップに名称のないものを含む） を利用する目的 （あてはまるものすべてに○）	1. アルバイト 2. 買い物 3. 外食 4. 部活動・サークル活動 5. その他（ ） 6. ほとんど利用しない	

Ⅱ. あなたご自身が大学周辺の地域（【調査票B 地域マップ】の範囲）の安全・安心について全体的に感じていることを教えてください。

※各設問の文中にある「犯罪や危険な出来事」とは、以下を指します。

声かけ・卑猥（ひわい）な言動、つきまとい・待ち伏せ、痴漢、ひったくり・路上強盗、のぞき見、盗撮、露出 ※その他の犯罪や、交通事故、災害等の被害は除いてください。

問1. あなたは日頃、ご自身が犯罪の被害や危険な出来事にあうのではないかと不安を感じることがありますか。あてはまる 番号1つ に○をつけてください。

1. 全くない 2. ほとんどない 3. どちらともいえない 4. たまにある 5. よくある

問2. あなたが通学している【調査票B 地域マップ】内は、治安がよいと思いますか。あてはまる 番号1つ に○をつけてください。

1. かなりよい 2. よい 3. どちらともいえない 4. 悪い 5. かなり悪い
6. わからない

問3. あなたが通学している【調査票B 地域マップ】内で、あなた自身が犯罪の被害や危険な出来事にあうのではないかと感じる場所はどこですか。あてはまる 番号すべて に○をつけてください。
特にない場合は「16. 特になし」だけを選んでください。

- | | | | | |
|--|----------------|------------|--------|--------|
| 1. 路上 | 2. 地下街 | 3. 公園 | 4. 駐車場 | 5. 駐輪場 |
| 6. 空き地 | 7. 空き家 | 8. 商業施設 | 9. 駅 | 10. 自宅 |
| 11. その他（ ） | | | | |
| (選択肢 12～15は【調査票B 地域マップ】内のアパート・マンション・寮に住んでいる人のみお選びください) | | | | |
| 12. 共用の廊下や階段 | 13. 共用の駐車場・駐輪場 | 14. エレベーター | | |
| 15. 共用玄関・エントランスホール | | | | |
| 16. 特になし | | | | |

Ⅲ. あなたご自身の安全・安心に関する取組・知っていることについて教えてください。

問4. あなたは、犯罪の被害や危険な出来事にあわないように、外出時・歩行時に、普段どのようなことに注意していますか。あてはまる 番号すべて に○をつけてください。
特にない場合は「12. 特に注意していることはない」だけを選んでください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 防犯ブザーで身を守る | 2. 人通りの少ない場所は通らない |
| 3. 危ないとされる場所に近づかない | 4. 夜遅く出歩かない |
| 5. 夜はひとりで行動しない | 6. 夜は誰かに迎えに来てもらう |
| 7. バッグを車道と反対側に持つ | 8. 歩きスマホをしない |
| 9. 後ろや周囲を気にしながら歩く | 10. イヤホンをしながら歩かない |
| 11. その他（ ） | |
| 12. 特に注意していることはない | |

1. 受講したことがある（最後に受講した時期：_____年_____月）
2. 受講したことはない 3. 覚えていない

1. 見たことがある 2. 知っているが見たことはない 3. 知らない

1. 警察の SNS・Twitter 2. 警察のメール配信 3. 自治体の SNS・Twitter
4. 自治体のメール配信 5. 大学の SNS・Twitter 6. 大学のメール配信
7. その他（ ） 8. 情報は受け取っていない

1. 警察のホームページ 2. 警察の情報誌・チラシ 3. 自治体のホームページ
4. 自治体の広報誌・チラシ 5. 大学のホームページ 6. 大学の広報誌・チラシ
7. 大学の掲示板 8. 個人・企業のホームページ 9. 新聞・テレビ
10. 雑誌・書籍 11. 口コミ・知人からの情報 12. 家族からの情報
13. その他（ ） 14. 見たり聞いたりしていない

＜対象とする犯罪・危険な出来事＞

- 時期 : 大学1年生は入学以降、大学2年生以上は昨年(2017年)4月以降の出来事を記入してください。
- 場所 : 【調査票B 地域マップ】内で起きたことについて教えてください。
- 加害者 : 知らない人からされたことのみを教えてください。
- 家族・親戚・知人等の面識のある人にされたことは除いてください。

<回答手順>

(1)「体験の有無」を<回答欄1>に記入する a)～g)それぞれについて、犯罪の被害や危険な出来事を 体験したことがある場合には<回答欄1>の「あった」に○を、体験が無ければ「なかった」に○をつけてください。一度に同じ場所でa)～g)の2つ以上を体験した場合は、もっとも当てはまるもの1つに○をつけてください。
(2)「体験した回数」を<回答欄2>に記入する <回答欄1>で「あった」に○をつけた場合には、犯罪の被害や危険な出来事を 体験した回数を数字で記入してください。
(3)【調査票B】に体験場所を記入する 犯罪の被害や危険な出来事を 体験した場所を、【調査票B 地域マップ】内に○(白丸)印で書き込んでください。そして ○(白丸)印の中に①から順に番号を振ってください(あなたにとって影響が大きかった順に最大4つまで)。 ただし、体験場所が 自宅の場合は、地図内には印をつけず、地図欄外の「別記」欄に○(白丸)印と番号を記載してください。自宅で複数回体験した場合は、体験した回数分記入してください。
(4)【調査票C】のおもて面に記入する (3)で記入した ○(白丸)印の場所での出来事について、【調査票C 犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表】のおもて面に、(3)で振った番号に対応させて、出来事の内容を書いてください(「別記」欄に記入した番号についても出来事の内容を書いてください)。

	<回答欄1> 体験の有無	<回答欄2> 体験した回数	
a) すれ違いざま声をかけられたり 恥ずかしいことを言われた	… あった・なかった	() 回	(3)「あった」と回答したものは、【調査票B 地域マップ】に場所を○印で書き込んで番号を振ってください。 (4)【調査票C 犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表】に内容を書いてください。
b) 待ち伏せられたりつきまとわれた	… あった・なかった	() 回	
c) 体を触られた	… あった・なかった	() 回	
d) ひったくりや路上での強盗にあった	… あった・なかった	() 回	
e) のぞき見された	… あった・なかった	() 回	
f) 盗撮された	… あった・なかった	() 回	
g) 露出にあった	… あった・なかった	() 回	

- 問11.【調査票B 地域マップ】内で、あなたが、以下のような犯罪や危険な出来事にあう不安を感じる場所を、で囲って示してください(不安を感じる場所が自宅の場合は、地図欄外の「別記」欄にを記入してください)。
- 次に、の横に「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」、「オ」、「カ」の順にカタカナ文字を振ってください(不安を感じる順に最大6つまで)。
- さらに、「ア」から「カ」の場所での不安の内容を、【調査票C 犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表】のうら面に、「ア」から「カ」に対応させて記入してください。

<対象とする犯罪や危険な出来事の種類>

声かけ・卑猥(ひわい)な言動、つきまとい・待ち伏せ、痴漢、ひったくり・路上強盗、のぞき見、盗撮、露出 ※その他の犯罪や、交通事故、災害等の被害は除いてください。

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました

まちの安全・安心についてのアンケート〔大学生向け〕
調査票 B 地域マップ

警察庁

ID-11

<別記>

■問 10 犯罪被害・危険体験の場所 自宅の場合は、こちらに○（白丸）印と番号を記入	■問 11 犯罪や危険な出来事に遭う不安を感じる場所 自宅の場合は、こちらに  とカタカナを記入
---	--

<記入方法>

■問9 通学路・よく行く場所 ・通学路：線 ※通学路は駅から大学まで（電車通学でない場合は、自宅近辺や駐車場から大学まで）の道のり ・よく行く場所：●（黒丸）印	■問 10 犯罪被害・危険体験の場所 ・危険な出来事を経験した場所 ：○（白丸）印 （○（白丸）の中に連番を振る） ※体験場所が自宅の場合は、地図内には印をつけず、上記の「別記」内に○（白丸）印と番号を記載
■問 11 犯罪や危険な出来事にあう不安を感じる場所 ・犯罪にあう不安を感じる場所 ：  （自由な形状）で囲う （囲いの横にア～を振る） ※不安を感じる場所が自宅の場合は、地図内には印をつけず、上記の「別記」内に  とカタカナを記載	



まちの安全・安心についてのアンケート【大学生向け】
調査票 C 犯罪被害・危険体験／犯罪不安の一覧表

警察庁

＜問10:犯罪被害・危険体験の詳細について＞(調査票 B 地域マップ)に、○印をつけて番号を付けたところ)

危険体験場所の番号	場所の詳細 (1つに✓)	どのような犯罪や危険体験を経験しましたか (もっとも当てはまるものを1つに○)	経験したのはどの時間帯でしたか (1つに✓)	季節はいつでしたか (1つに✓)	あなたはどのような行動をしましたか (あてはまるものすべてに✓)	警察に通報しましたか (1つに✓)
①	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランス ホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ すれ違いざま声をかけられたり恥ずかしいことを言われたり ☐ 待ち伏せられたりつきまとわれたり ☐ 体を触られたり ☐ ひったくりや路上での強盗にあった ☐ のぞき見された ☐ 盗撮された ☐ 露出にあった 差し支えなければ、どのようなものだったか お書きください ()	☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00 ☐ 誰と一緒にいましたか (1つに✓) ☐ ひどい ☐ 友人 ☐ 家族 ☐ その他 ()	☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ☐ 通学 ☐ 通学中 ☐ 帰宅中 ☐ それ以外	☐ 何もなかった ・何もできなかった ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ その他() ☐ 被害について 誰に相談しましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 家族や親戚 ☐ 友人 ☐ 知人 ☐ 大学 ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ 自治体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 相談しなかった	☐ 通報した ☐ 通報しなかった (通報しなかった場合) ☐ しなかった理由は (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大したことはないと思ったから ☐ 通報が面倒だったから ☐ 誰かに知られるのが恥ずかしかったから ☐ これ以上事件に関わりたくなかったから ☐ 警察は取り合ってくれないと思ったから ☐ 警察での事情聴取が不安だったから ☐ 自分や家族が解決したから ☐ 犯人からの仕返しに怖かったから ☐ その他 ()
②	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランス ホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ すれ違いざま声をかけられたり恥ずかしいことを言われたり ☐ 待ち伏せられたりつきまとわれたり ☐ 体を触られたり ☐ ひったくりや路上での強盗にあった ☐ のぞき見された ☐ 盗撮された ☐ 露出にあった 差し支えなければ、どのようなものだったか お書きください ()	☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00 ☐ 誰と一緒にいましたか (1つに✓) ☐ ひどい ☐ 友人 ☐ 家族 ☐ その他 ()	☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ☐ 通学 ☐ 通学中 ☐ 帰宅中 ☐ それ以外	☐ 何もなかった ・何もできなかった ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ その他() ☐ 被害について 誰に相談しましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 家族や親戚 ☐ 友人 ☐ 知人 ☐ 大学 ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ 自治体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 相談しなかった	☐ 通報した ☐ 通報しなかった (通報しなかった場合) ☐ しなかった理由は (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大したことはないと思ったから ☐ 通報が面倒だったから ☐ 誰かに知られるのが恥ずかしかったから ☐ これ以上事件に関わりたくなかったから ☐ 警察は取り合ってくれないと思ったから ☐ 警察での事情聴取が不安だったから ☐ 自分や家族が解決したから ☐ 犯人からの仕返しに怖かったから ☐ その他 ()
③	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランス ホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ すれ違いざま声をかけられたり恥ずかしいことを言われたり ☐ 待ち伏せられたりつきまとわれたり ☐ 体を触られたり ☐ ひったくりや路上での強盗にあった ☐ のぞき見された ☐ 盗撮された ☐ 露出にあった 差し支えなければ、どのようなものだったか お書きください ()	☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00 ☐ 誰と一緒にいましたか (1つに✓) ☐ ひどい ☐ 友人 ☐ 家族 ☐ その他 ()	☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ☐ 通学 ☐ 通学中 ☐ 帰宅中 ☐ それ以外	☐ 何もなかった ・何もできなかった ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ その他() ☐ 被害について 誰に相談しましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 家族や親戚 ☐ 友人 ☐ 知人 ☐ 大学 ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ 自治体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 相談しなかった	☐ 通報した ☐ 通報しなかった (通報しなかった場合) ☐ しなかった理由は (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大したことはないと思ったから ☐ 通報が面倒だったから ☐ 誰かに知られるのが恥ずかしかったから ☐ これ以上事件に関わりたくなかったから ☐ 警察は取り合ってくれないと思ったから ☐ 警察での事情聴取が不安だったから ☐ 自分や家族が解決したから ☐ 犯人からの仕返しに怖かったから ☐ その他 ()
④	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランス ホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ すれ違いざま声をかけられたり恥ずかしいことを言われたり ☐ 待ち伏せられたりつきまとわれたり ☐ 体を触られたり ☐ ひったくりや路上での強盗にあった ☐ のぞき見された ☐ 盗撮された ☐ 露出にあった 差し支えなければ、どのようなものだったか お書きください ()	☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00 ☐ 誰と一緒にいましたか (1つに✓) ☐ ひどい ☐ 友人 ☐ 家族 ☐ その他 ()	☐ 春 (3～5月) ☐ 夏 (6～8月) ☐ 秋 (9～11月) ☐ 冬 (12～2月) ☐ 通学 ☐ 通学中 ☐ 帰宅中 ☐ それ以外	☐ 何もなかった ・何もできなかった ☐ 大声で助けを呼んだ ☐ 走って逃げた ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ その他() ☐ 被害について 誰に相談しましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 家族や親戚 ☐ 友人 ☐ 知人 ☐ 大学 ☐ 防犯ブザーやベルを鳴らした ☐ 自治体 ☐ 警察 ☐ その他 () ☐ 相談しなかった	☐ 通報した ☐ 通報しなかった (通報しなかった場合) ☐ しなかった理由は (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大したことはないと思ったから ☐ 通報が面倒だったから ☐ 誰かに知られるのが恥ずかしかったから ☐ これ以上事件に関わりたくなかったから ☐ 警察は取り合ってくれないと思ったから ☐ 警察での事情聴取が不安だったから ☐ 自分や家族が解決したから ☐ 犯人からの仕返しに怖かったから ☐ その他 ()

続いて【調査票 A】の問11にお答えください。

<問11:犯罪にあう不安を感じる危険な場所について>〔調査票 B 地域マップ〕に、☒で囲んでア、イ…を付けたところ

犯罪不安場所の番号	場所の詳細 (1つに✓)	不安を感じている理由は何ですか (あてはまるものすべてに✓)	この場所の危なささは自ら感じたものですか、 他から見聞きましたか (1つに✓)
ア	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()
イ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()
ウ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()
エ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()
オ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()
カ	(住宅以外) ☐ 路上 ☐ 地下街 ☐ 公園 ☐ 駐車場 ☐ 駐輪場 ☐ 空き地 ☐ 空き家 ☐ 駅 ☐ 商業施設 (戸建て住宅) ☐ 敷地内の屋外 ☐ 屋内 (アパート・マンション・寮) ☐ 駐車場・駐輪場 ☐ エレベーター ☐ 共用玄関・エントランスホール ☐ 共用の廊下 ☐ 共用の階段 ☐ 自分の部屋 (その他) ☐ その他 ()	☐ 暗いから ☐ 人 ^{ひと} 気や人目がないから ☐ 秩序に反した行為が見られるから (ごみや落書きがあるなど) ☐ 怖い人がたむろしているから ☐ 実際の被害を聞いたから ☐ 見通しが悪く死角になるから ☐ その他 () 不安を感じる時間帯 (あてはまるものすべてに✓) ☐ 朝 6:00-9:00 ☐ 日中 9:00-15:00 ☐ 夕方 15:00-18:00 ☐ 夜 18:00-21:00 ☐ 夜 21:00-24:00 ☐ 深夜 24:00-6:00	☐ 自分で感じた ☐ 他から見聞きました (他から見聞きたした場合) この場所の危なさについて誰から聞きましたか (あてはまるものすべてに✓) ☐ 大学から聞いた ☐ 友人から聞いた ☐ 地域の人 (防犯ボランティア等) から聞いた ☐ 警察から聞いた ☐ 新聞・TV・インターネットのニュースで見た ☐ その他 ()

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

紙別

調查票

調査票Aの記入はありません

記入例)



<回答欄1><回答欄2>に、それぞれ回答してください

[illegible]

※5回以上体験がある場合、
大きかった順に4つを選ぶ

自宅以外の場合は、自宅の場合は地図外の地図内に記入の「別記」に記入



(記入例)

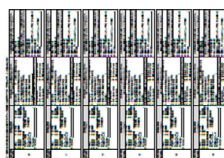


調査票Aの記入はありません

不安を感じる場所が6箇所の場合、
順にA～Cとする。(自宅の場合、
H・R・B・C・D・E)



(記入例)



調査にご協力いただいたみなさま、在学生のみなさまへ

ご協力いただいた調査について

このたびは、アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

この調査の目的は、大学生が被害にあう犯罪を防止し、地域の安全を守るためには何が必要か、大学生のみなさまのご経験やお考えを通して把握することです。そのために、みなさまの日常生活、通学環境、過去の危険な事案などによる被害、行っている防犯対策、安全についてのお考えなどを幅広く調査しました。

本調査を通じて、不安な気持ちを抱かれた方や過去の事案等について相談を希望される方、今後の防犯対策について話を聞いてみたいという方等がおられれば、下記の窓口等をご利用下さい。

【警察における連絡・相談窓口】

・相談は「警察相談専用電話」

#9110

※原則として、平日8:30から17:15（都道府県警察により異なります。）

執務時間外・土日祝日は当直に接続又はテープによる案内で対応

・相談は「全国共通性犯罪被害相談専門ダイヤル」

#8103「ハートさん」

※原則として、平日8:30から17:15（都道府県警察により異なります。）

執務時間外・土日祝日は当直に接続又はテープによる案内で対応

以上の窓口は、相談者の電話発信場所を管轄する警察本部につながります。

※ 緊急時は110番してください。

その他、調査対象地区を管轄する警察本部の連絡先は、

- ・神奈川県警察本部 045-211-1212（代表）
- ・愛知県警察本部 052-951-1611（代表）
- ・広島県警察本部 082-228-0110（代表）
- ・福岡県警察本部 092-641-4141（代表）

となります。相談については、電子メールでも受け付けることができます。

詳しくは、各県警本部のホームページをご確認ください。

なお、事件・不審者情報や防犯情報についても、各県警本部からメールで配信しております。受信を希望される方は、各県警察本部のホームページに登録方法等が掲載されていますので、ご確認ください。

- ・神奈川県警察本部 「ビーガルくん子ども安全メール」
- ・愛知県警察本部 「パトネットあいち」
- ・広島県警察本部 「広島県警察メールマガジン」
- ・福岡県警察本部 「ふっけい安心メール」

<調査実施機関>

警察庁生活安全局生活安全企画課

**子供・女性に対する犯罪等を防止するための
対策に関する調査研究
調査報告書**

調査会社 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
防災・リスクマネジメント研究室
〒105-8501 港区虎ノ門5丁目11番2号オランダヒルズ森タワー
TEL 03-6733-1022（部代表） <http://www.murc.jp/>